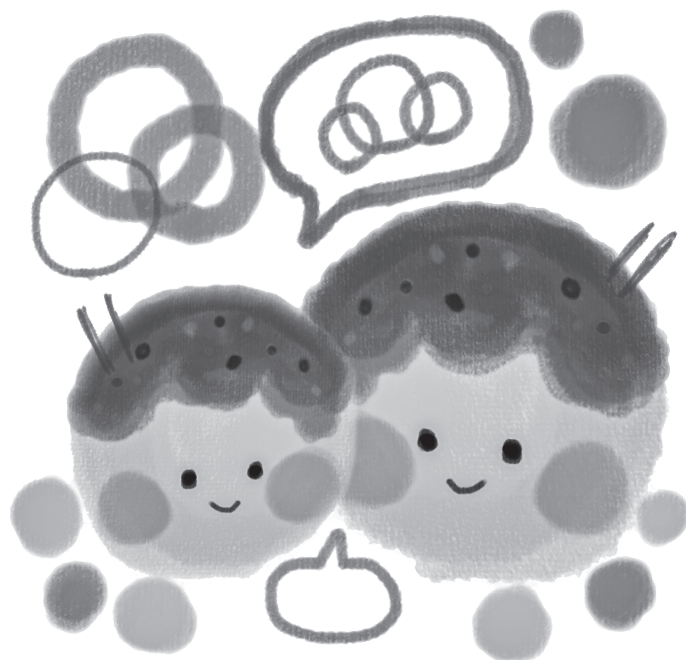


地域連携 学生フォーラム *in Osaka 2023*

発表概要集

大阪の3つの輪・和・話
～学生パワーで明るく笑顔つながる大阪に～



目 次

○次 第	1
○発表概要	
摂南大学 松塚健康プロジェクト 地域医療実践演習	2
超高齢化地域における住民中心の健康づくり活動への支援	
阪南大学 国際観光学部 松村嘉久研究室	17
西成 WAN の実働	
阪南大学 国際観光学部 松村嘉久研究室	32
復活！外国人旅行者と一緒にまち歩きへ行こう！	
8 大学（大阪公立大学・大手前大学・関西福祉科学大学・千里金蘭大学・相愛大学・ 摂南大学・梅花女子大学・大阪樟蔭女子大学）公衆栄養関連学部各ゼミ	45
府内 8 大学連携「もったいないやん！ 食の都大阪でおいしく食べきろう」学生プロジェクト	
大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部 ボランティアバンク学生有志	60
子どもたちと学生のふれあいを通じた居場所づくり	
大阪公立大学 ボランティア・市民活動センター V-station	76
シニア層を主なターゲットとした“学生によるスマホ相談会”	
大阪電気通信大学 工学部建築学科 北澤研究室 「Create for Smile」	93
既存団地の活性化	
大阪経済大学 経営学部 古賀敬作ゼミ	109
大学・学生発：SDGs イベントの実践と効果 - SDGs × 地域魅力発見で、関係人口の創出による都市部の地域活性化	
追手門学院大学 追大学生援農プロジェクト	124
農家人手不足問題をビジネス的手法により問題解決を試みる	

地域連携 学生フォーラム in Osaka 2023 次 第

◆日 時：2023（令和5）年10月22日（日）10：00－17：00

◆会 場：グランフロント大阪 北館タワーC 8階

ナレッジキャピタルカンファレンスルームタワーC RoomC01 + C02

◆スケジュール：

時 間	発表大学・団体		内 容
9：30	開場・受付		
10：00-10：15	開会あいさつ（趣旨説明・推進委員 紹介）		
10：15-10：35	学生発表①	摂南大学 松塚健康プロジェクト 地域医療実践演習	超高齢化地域における住民中心の健康づくり活動への支援
10：35-10：55	学生発表②	阪南大学 国際観光学部 松村嘉久研究室	西成 WAN の実働
10：55-11：15	学生発表③	阪南大学 国際観光学部 松村嘉久研究室	復活！外国人旅行者と一緒にまち歩きへ行こう！
11：15-11：25	アイスブレイク①		
11：25-11：35	休憩		
11：35-11：55	学生発表④	8大学（大阪公立大学・大手前大学・関西福祉科学大学・千里金蘭大学・相愛大学・摂南大学・梅花女子大学・大阪樟蔭女子大学）公衆栄養関連学部各ゼミ	府内8大学連携 「もったいないやん！食の都大阪でおいしく食べきろう」 学生プロジェクト
11：55-12：15	学生発表⑤	大阪国際大学・ 大阪国際大学短期大学部 ボランティアバンク学生有志	子どもたちと学生のふれあいを通じた居場所づくり
12：15-13：15	昼食休憩／発表準備（午後の発表グループ）		
13：15-13：35	学生発表⑥	大阪公立大学 ボランティア・市民活動センター V-station	シニア層を主なターゲットとした“学生によるスマホ相談会”
13：35-13：55	学生発表⑦	大阪電気通信大学 工学部建築学科 北澤研究室 「Create for Smile」	既存団地の活性化
13：55-14：05	アイスブレイク②		
14：05-14：15	休憩		
14：15-14：35	学生発表⑧	大阪経済大学 経営学部 古賀敬作ゼミ	大学・学生発： SDGs イベントの実践と効果 - SDGs×地域魅力発見で、関係人口の創出による都市部の地域活性化
14：35-14：55	学生発表⑨	追手門学院大学 追大学生援農プロジェクト	農家人手不足問題をビジネス的手法により問題解決を試みる
14：55-15：10	推進委員からの講評・閉会あいさつ		
15：10-15：20	交流会準備		
15：20-17：00	交流会		

各団体の発表

■摂南大学 松塚健康プロジェクト 地域医療実践演習

活動テーマ	超高齢化地域における住民中心の健康づくり活動への支援
活動場所	交野市松塚地区と周辺地区
連携先	松塚地区連絡協議会、郡津小学校福祉校区委員会、交野市社会福祉協議会
活動主体	摂南大学松塚健康プロジェクト、地域医療実践演習

1. 活動概要

本活動は、2017年度より行っている。

活動場所となる交野市松塚地区は、高齢化率48%の都市部地域であり、健康調査の結果、①循環器症状のある者が多い、②自分なりの健康観を持ち、「自分の健康への自信」と「不安」の混在した感情を有している、③地域のつながりの希薄化と地区組織活動の担い手不足と担い手が高齢である、④子どもの減少による世代間交流や高齢者交流の減少を招いていることが分かった。そこで、本活動では①疾病予防（生活習慣病予防、フレイルの予防と早期発見・支援等）、②健康増進（健康な生活習慣、認知症・介護予防、健全な子育て支援等）、③安全安心な街づくり（世代間交流、高齢者交流、育児交流、環境整備・美化等）に焦点をあて活動を進めてきた。2023年度はCovid 19の感染予防に留意し地域福祉ネットの活動と大学の健康づくり活動をつなげ、体力測定会、健康チェック、夏休み子ども塾など住民中心の健康づくり活動の支援を行っている。

2. 年間計画

1) 企画イベントの実施：

- ①アクティブエイジング健康チェック（体重、身長、体組成、握力、足指圧、血管年齢、口腔機能、血圧などのバイタルサイン）を小規模のものを年1回（7月）実施する。大規模なものを年1回（11月）実施する。
- ②体力測定会を年1回実施する（6月）。
- ③子どもの夏休み学習支援（子どもの居場所づくり支援）を実施する（8月）。
- ④フレイル予防のための健康講座・演習を実施する（11月）。

2) 健康情報の提供：

- ①健康だよりを年4回（4月、7月、10月、1月）発刊する。
- ②健康学習会の開催（7月、11月）

3) 地域住民との交流：

- ①地行事（防災訓練、クリスマス会）への参加（11月、12月）
- ②大学1年生と高齢者の交流会（2月）

3. 活動成果

活動前に地域の既存資料の分析や地区踏査を行い、現在までに以下の活動を行っている。

1. 体力測定会を6/30に実施。以前の体力測定会参加者を対象に認知機能検査、血管年齢検査、体力検査を行った。
2. 健康だよりは7月号に「隠れ脱水予防」を掲載し配布した。10月号に「秋バテ対策」を掲載予定。
3. 健康学習会を7/5に実施。地区在住の女性とスマホクラブ員を対象に「骨密度のお話し」と題して、骨密度と骨粗しょう症の予防について学習会を行った。参加者は25人であった。
4. 小規模健康チェックを7/23に実施。「いつまでも若々しく！！健康でいよう！！さあ健康チェック！！」をテーマに、骨密度、体組成、握力、足指圧、口腔機能、血圧、ヘモグロビンなどの測定と健康相談を行った。35人の参加があった。
5. 夏休み子ども塾を8/19（松塚地区）と8/20（郡津・幾野地区）に実施。内容はケミカルフラワー、備長炭電池、発泡スチロールの飛翔実験を行った。子ども数は計14人であった。

4. 地域からの評価

活動の参加者アンケート、地区役員から言動より抜粋する。

1. 健康学習会では、「理解できた」の解答が96%あり、感想として、①あやふやな理解がめいかくになった。②この3年間で運動量が減った。これからとりもどす。③ウォーキング、食事、日光浴に気を付けているが骨密度はDであった。等があった。
2. 小規模健康チェックの参加者からは、「前回以後、健康に良い行動をしている人」が多く、参加者全員が次回も参加したいと希望していた。感想として、①90歳で年齢を感じるが健康に気を付けたい。②どなたも話しやすく親切だった。③毎年実施してほしい。等があった
3. 夏休み子ども塾では、地区役員から「参加する子どもの数が少なく学生さんたちに申し訳ない。しかし、参加した子どもは、興味津々に楽しく参加していた。小学校では実験系のものが少なくなっているなのでこのような内容は良かった。大人も楽しめた。」という声が聴かれた。

5. 参考WEBサイト

シニア松塚通信 <http://www7b.biglobe.ne.jp/~s-matuduka/>

6. 活動メンバー

地域医療実践演習受講者17人

（代表：看護学部4年 井上 文乃、品川 遥、外川 美月、西原杏理沙、吉田 愛梨）
看護学部4年生保健師専攻課程学生 織田望乃理、中岡 りま
ボランティア 看護学部2年生 竹中 優音、西川 友輝、八木 琴香、吉岡龍之介
摂南大学ボランティア部じょいふる

7. 担当教員

看護学部 准教授 小川宣子
看護学部 講師 山本十三代、足立安正、村瀬由貴
農学部 准教授 畦西克己
薬学部 教授 高田雅弘

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	摂南大学
所属先・職名	看護学部・講師
氏 名	山本十三代
連絡先	電 話 090-4273-0109
	メ ール t-yamamo@nrs.setsunan.ac.jp

9. 活動の様子



6月 体力測定会の様子

8月夏休み子ども塾の様子



2023年7月 松塚地区

健康チェック 参加者募集中!

梅雨開けが待ち遠しい季節となりましたが、
お身体の調子はお変わりなくお過ごしでしょうか。
今年度も、摂南大学の学生が健康チェックを行います。
お会いできることを楽しみにしています。
※健康チェックファイルをお持ちの方は、ご持参ください。

日時:2023年7月17日(月)
時間:13:00~15:00 場所:ふれあい館 集会室

募集人数・募集対象	30名程度の募集です。どなたでも参加できます。 (年齢・性別は問いません)
応募方法	参加を希望される方は、別紙に必要事項をご記入下さい。 (応募多数の場合は、厳正な抽選で決定いたします。)
申込締め切り	2023年6月19日(月)~6月30日(金) *申込用紙に記録の上、班長様にお渡しください。 (班長様は7月の自治会定例会にご持参ください。)

主催:摂南大学 松塚健康プロジェクト
(お問い合わせは、070-6510-5196 山本十三代まで)

超高齢化地域における住民中心の健康づくり活動への支援

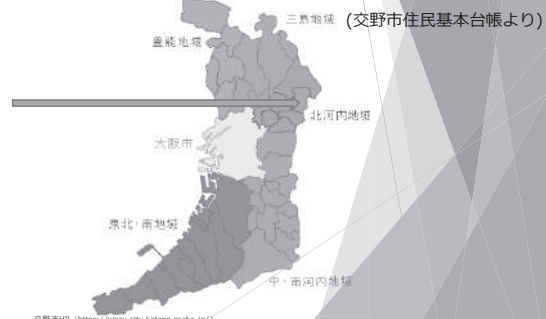
地域医療実践演習受講者（17人）

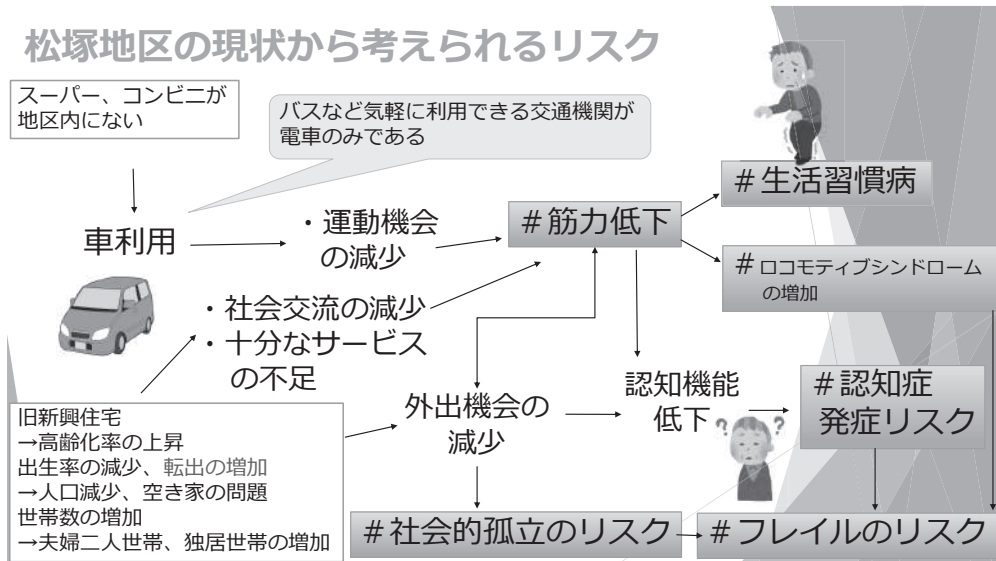
代表:看護学部4年 井上文乃、品川遥、外川美月、西原杏理沙、吉田愛梨
看護学部4年生保健師専攻課程学生 織田望乃理、中岡りま
ボランティア 看護学部2年生 竹中優音、西川友輝、八木琴香、吉岡龍之介
摂南大学ボランティア部「じょいふる」



松塚地区について(地区踏査4月と既存資料より)

- ▶ 交野市は大阪府と奈良県の県境に位置し、東側と南側が山に囲まれる地形となっており、市の中央部を天野川が流れている。天の川伝説がある。
- ▶ 松塚は枚方市との境にあり京阪郡津駅の東側に位置する。
- ▶ 幾野、郡津、梅が枝とともに「こうづ」地域とされる。
- ▶ 2023年4月の人口は1402人、世帯数719であり、郡津小学校区域では最も少ない。
- ▶ 65歳以上の人口は680人であり高齢化率は48.5%で、交野市の中では最も高齢化率が高い地域である。





活動の年間計画

2023年3月 松塚地区役員と2023年度の活動方針について検討会を持つ。

1)企画イベントの実施：

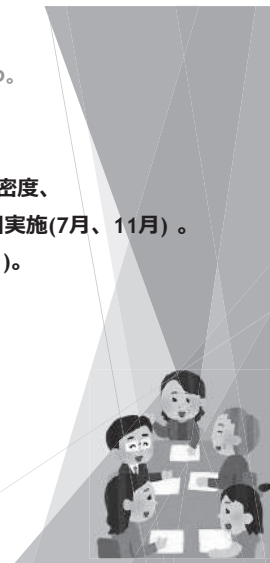
- ★①体力測定会を年1回実施(6月)。
- ★②アクティブエイジング健康チェック(体組成、握力、足指圧、骨密度、ヘモグロビン値、口腔機能、血圧などのバイタルサイン)を年2回実施(7月、11月)。
- ★③子どもの夏休み学習支援(子どもの居場所づくり支援)を実施(8月)。
- ④フレイル予防のための健康講座・演習を実施(11月)。

2)健康情報の提供：

- ★①健康だよりを年4回(4月、7月、10月、1月)発刊。
- ★②健康学習会の開催(7月、11月)

3)地域住民との交流：

- ①地行事(防災訓練、クリスマス会)への参加(11月、12月)
- ②大学1年生と高齢者の交流会(2月)



体力測定会 (6/30)

～体力測定で今の自分を知り、健康活動につなげよう！

- ・目的：体力測定により、健康行動を見直す。
測定会に参加して、近隣住民と交流する。
- ・参加人数：24名
- ・測定項目：
①身長・体重②腹囲③血管年齢④握力⑤6m歩行速度
⑥手指の器用さ⑦長座体前屈など



体力測定会参加者の声

【アンケートのコメントより】

- 楽しみながら健康チェックができる。過去のデータと比較ができるので、毎回楽しみにしています。
- 自身のコンディションを知る為、毎年参加し各数値にドキドキ、悪くなっていないかと気にしています。いつもありがとうございます！！
- 今の自分の健康状態が分かり良かった。
- 定期的にチェックを受けることが大切でこれからも続けて頂きたい。
- 測定することが運動になってよかった。初めての体験が多く、今後もやっていただいたら参加したい。
- また次の機会参加したいです。

シニア松塚通信7月号
<http://www7b.biglobe.ne.jp/~s-matuduka/>

に載せていただきました。

コロナ以降はみんなで会う機会も減っていた。久しぶりに顔が見れた参加者もいてよかった。

地区長様より

小規模健康チェック (7/17) ～目指せ長寿 健康を作る第一歩 さあ健康チェックへ！

2023年7月 秋津地区
健康チェック
参加者募集中!

梅雨明けが待ち遠しい季節となりましたが、お身体の調子はお変わりなくお過ごしでしょうか。今年度も、摂南大学の学生が健康チェックを行います。お会いできることを楽しみにしています。
 ※健康チェックアイテムをお持ちの方は、ご持参ください。

日時:2023年7月17日(月)
時間:13:00~15:00 場所:ふれあい館 集会所

募集人数・募集対象	20名程度の募集です。ご自宅でも参加できます。(年齢・性別は問いません)
応募方法	参加を希望される方は、電話にご募集要項をご記入下さい。(応募希望の番号は、最近の集会所で変更いたします。)
申込締め切り	2023年6月18日(月)～7月10日(日) ※申込締め切り以降は、集会所にて申し込みください。 ※募集締切は7月の集会所開催にご持参ください。

主催 摂南大学 秋津地区70579
 (お問い合わせ:070-8370-8118 24時間受付可)

・目的：
 高齢者自身が健康状況の把握と見直しを行い、健康的な生活につなげる。

・募集人数：約30名(申し込みは31名であった)

・応募方法：左記のチラシと申込用紙を小ブロック毎に回覧を行い、申込用紙に必要事項を書いて松塚連絡協議会会長宅のポストに投函する。

・健康チェックの項目：
 ①血圧測定②酸素飽和度測定③握力測定④口腔機能測定⑤ヘモグロビン測定⑥足趾握力筋測定⑦骨密度測定⑧体組成測定⑨健康相談(アンケート)

・方法：
 実施時間は2時間の予定であるため、密をさけるため30分に8人とし運営した。対象者には、電話で時間を伝え、早く来られた方には待合い椅子を設けた。

小規模健康チェック 実施風景 当日の参加者:36人



9

・アンケート結果

1.参加者の属性 当日の参加者は36人

- ▶ 性別:男性12人 (33%)、女性24人 (67%)
- ▶ 年齢:50代2人 (6%)、70代14人 (39%)、80以上20人 (56%)
- ▶ 現在の健康状態(主観的):健康である13人 (36%)、どちらかと言えば健康な方である15人 (42%)、あまり健康でない7人 (19%)、健康でない0人 (0%)、未記入1人

2.健康のために日頃から行っていること n=36

	(%)そう思う	どちらでもない	そう思わない
・家庭で定期的に健康指標を測っている	78	8	14
・バランスの取れた食事をする	64	25	12
・適度な運動をする(ウォーキング、ジョギング、フィットネス等)	70	8	21
・睡眠を充分にとる	67	19	14
・規則正しい生活をする	82	9	9
・便秘を気にしている	75	14	11
・健康補助食品(サプリメント)を摂る	31	11	57
・ストレスを溜めない	64	31	6
・定期的に健康診断を受診する	74	23	3
・お酒を控える	56	18	27
・タバコを控える	59	15	27
・趣味を楽しむ	69	19	11

10

3. 本日の健康チェックの結果について n36

(%)	そう思う	どちらでもない	そう思わない	無回答
・ 血圧測定の結果は良かったですか？	78	16	6	
・ 酸素飽和濃度測定の結果は良かったですか？	89	6	3	2
・ 口腔機能測定の結果は良かったですか？	91	6	3	
・ ヘモグロビン値の測定結果は良かったですか？	86	6	6	2
・ 骨密度測定の結果は良かったですか？	64	19	17	
・ 握力測定の結果は良かったですか？	66	17	17	
・ 体組成測定それぞれの結果は良かったですか？	66	25	9	
・ 足指筋力測定の結果は良かったですか？	67	21	12	
・ 健康チェックの説明は良かったですか？	86	11	3	
・ 健康相談をして不安や悩みは和らぎましたか？	71	23	6	

4. 健康チェックの必要性について

- ▶ 前回も健康チェックに参加した人の中で、「前回以後、健康に良い行動をしている人」は82.6%であった。
- ▶ 参加者全員が次回も参加したいと希望していた。

5. 感想・要望について

差が知りたい（自分の値と基準値の差が詳しく知りたい）。
 毎回ありがとうございます。今後も続けていきたい。
 定期的に継続していきたい、健康だよりもファイルしています。
 学生さん、有難うございます。

夏休み こども塾 (郡津小学校区福祉委員会とのコラボ企画)

～科学工作

「備長炭電池と化学の華(ケミカルフラワー)を作ってみよう」～

ボランティア学生(6人)とボランティア部じょいふる(2人)

日程: 8/19(松塚地区)と8/20(郡津・幾野地区)

参加者: 14人(1年生～5年生)

内容: 午前「化学の華(ケミカルフラワー)」、

午後「備長炭電池」「発泡スチロールの飛翔実験」 あいまにちよこっと勉強
 趣旨: 身のまわりにある材料を使ってケミカルフラワーや電池、飛翔実験の作成を行う。
 尿素の水溶液から、美しい結晶を作る実験を行い科学に興味をもってもらう。
 また、電子や電流について興味を持ち、電気のエネルギーに関心を持ってもらう。
 飛翔実験では気流を起こして物を飛ばす体験で楽しんでもらう。

実施: 次のスライド

子どもたちの反応: とても熱心に取り組んでくれた。最後に「楽しかったですか?」という問いに
 全員が大きく「はい」と手を挙げてくれた。

役員の方から: イベントでは、学生さんたちに全てお任せし、子どもたちの笑顔をゆっくり傍から見学させていただきました。会の終わりで、リーダーからの「今日は楽しかったですか?」に、子どもたちは大きな声で「はい!」と返事していました。子どもたちは、作った作品を大事に抱えて、元気に帰って行きました。本当にありがとうございました。

僕たち、私たちがお手伝い♥
 楽しんでもらえたかな。



子ども塾の 実施風景

ケミカルフラワー作り



きれいな花が咲きました。

備長炭電池作り



発泡スチロールの飛行実験



見えるかな。豆球がついてるよ!



健康だよりの作成(7月、10月)

きっとあなたも「かくれ脱水」！?

【その場で簡単に試す方法!!】
 ① 手の中の水を握りつぶしてみよう。握った後に握った部分に水分が残っていませんか?
 ② 握った瞬間、指の間から水分が出ていませんか?
 ③ 握った瞬間、指の間から水分が出ていませんか?
 ④ 握った瞬間、指の間から水分が出ていませんか?

秋バテになっていませんか?

【秋バテの症状】
 ・食欲不振
 ・便秘
 ・水分不足
 ・疲労感
 ・集中力低下
 ・肌荒れ
 ・めまい
 ・頭痛
 ・めまい
 ・集中力低下
 ・肌荒れ
 ・めまい
 ・頭痛
 ・めまい
 ・集中力低下
 ・肌荒れ
 ・めまい
 ・頭痛

【健康だよりの特徴】
 ・イラスト：イメージが容易
 ・太字：重要な箇所
 ・原色の使用：高齢者が認識しやすい色の選択
 ・内容：情報の取捨選択や言い回しを考慮し内容を変更

- 健康だよりは2018年7月から松塚健康プロジェクトが年4回の季刊誌として松塚の住民に向けて発刊している。
- 学生は健康だより第21号(7月)、第22号(10月)を作成
- 第21号(7月)では『きっとあなたも「かくれ脱水」!?!』をテーマに、かくれ脱水の症状や水分補給の方法を掲載した。
- 第22号(10月)では『秋バテになっていませんか? ~旬の野菜を食べましょう~』をテーマに秋バテの症状やを掲載した。
 ▶それぞれの発刊時期を考え、注意する健康障害の症状や不足しがちな栄養分に焦点を当てたテーマとした。
- 認知機能が低下した高齢者にも伝わりやすいような編集を意識して行った。
 ▶①イラスト：イメージが容易
 ②太字：重要な箇所
 ③原色の使用：高齢者が認識しやすい色の選択
 ④内容：情報の取捨選択や言い回しを考慮し内容を変更

健康だよりの効果

- 小規模健康チェック時のアンケートで、36人中30人が「健康だよりを知っている」と回答（約83.3%）。
- また、自由記載欄に「健康だよりもファイルしています。」との記載があった。
- 現時点では、日常生活で脱水症、秋バテ対策に取り組んでいるかどうかの判断はできていない。
 - ☞ 次回の健康調査時に「健康だよりの内容を日常生活に取り組んだか」を追加していく。
- 対象者が関心のある健康課題についての情報提供を健康だよりを通して行う。
 - ☞ 食事・運動指導等の声が寄せられた。

健康学習会(7/5)

骨密度のお話しー強い骨でイキイキ生活ー

お知らせ!
7月5日PM1:00から
摂南大学「骨密度のお話し」
シニアだけでなく、自治会にも広く呼びかけて、30人程度募集します。人数なり次第締めきりです。骨密度はシニアの女性にとって大事な課題です。お知らせがあったら早めに申し込んでください。

摂南大学看護学部保健師専攻による
健康学習会のお知らせ
骨密度のお話しー強い骨でイキイキ生活ー

この企画は「骨密度」に関する、健康学習会を開催させていただきます。
骨密度は骨の強さを表す指標で、骨密度が低下すると骨折のリスクが高まります。骨密度を高めるためには、適切な栄養と運動が大切です。今回の学習会では、骨密度の重要性や測定方法、改善策について学びたいと思います。是非ともお参加ください。お待ちしております。

日時：2023年7月5日（水曜日）
12：45～受付開始
13:00～15:00（約90～100分程度）
場所：松塚ふれあい館1階
対象：スマホクラブの方々のご希望者 30名程度
内容：骨密度とは？骨粗鬆症とは？
・予防が大切！
・骨密度を高める食事とは？
・効果的な運動とは？
特典！
※ 送料で寄附金控がいただけます◎

シニア松塚通信
<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~s-matuduka/>

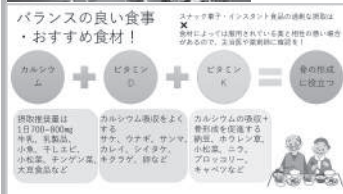
摂南大学看護学部保健師専攻 編出・発行

場所:松塚ふれあい館
対象者:松塚スマホクラブ会員と地区在住65歳以上の女性。
当日25名の方に健康学習会を実施した。

背景:

- 交野市の平均健康寿命は男性80.29歳・女性83.68歳で大阪府と比べると男女共に上回っている。
- 松塚地区は、高齢化率が48.5%
- 骨密度は男女共に加齢とともに低下し、閉経後の女性の骨密度低下は顕著
- 松塚地区の女性の地区イベントへの参加が少ない(地区長より)。
- 骨密度の低下は生活の見直しで予防できる。

目的:骨密度に関する知識を深め、興味関心を持ってもらい、骨密度低下を少しでも抑えるために予防行動を取ることができるようになる。



実施

- ①自己紹介
- ②骨密度とは？骨粗鬆症とは？
- ③骨粗鬆症の予防について
- ④バランスの良い食事・おすすめ食材！(カルシウム食材クイズ)
- ⑤骨を強くする運動とは？
(スマホの無料アプリ、歩数計など紹介、ストレッチの実施)
- ⑥骨密度を測定しましょう！(データの見方を説明)
- ⑦おさらいクイズ
- ⑧まとめ・アンケート

留意点・工夫点

- ・専門用語を使わず、分かりやすく簡潔に説明する。
- ・聞き取りやすい声(大きさ、スピード、トーン)で行う。
- ・一方的な講義にならないよう参加者の反応を見ながら進めていく。
- ・参加型の学習会とする。
- ・パワーポイントは、見えやすい色と文字の大きさ、イラストを使用する。
- ・「問題に気づく」ことを目標とし、投げかけ・説明・指示を意識しながら実施する。
- ・運動の実践では、安全に留意しながら、けがなどしないよう気を付ける。

アンケート結果

女性19人、男性6人
70代12人、80代12人、90代1人 平均79.9歳

	(人)はい	いいえ	どちらでもない		
骨密度について理解が深まりましたか？		23	2	0	
骨が弱くなるのを予防することに興味を持ちましたか？		25	0	0	
適度な運動が骨を強くすることを理解しましたか？		25	0	0	
予防のため食事に取り入れたい食材は理解できましたか？		23	0	2	
実際にやってみようと思った予防はありましたか？		21	1	3	
(人)A B C D E					
骨ウェーブ結果を教えてください。(A・B・C・D・E)		0	15	6	0

感想

- ・転んで2度骨折をしています。1番気を付けているのは転ばないことですが、色々注意いただき納得しますが高齢が邪魔をし実現は難しいのですが... (80歳代女性)
- ・あやふやな理解が明確になりました。(70歳代男性)
- ・この3年間で運動量が減りました。これから取り戻そうと思います。(80歳代女性)
- ・年とともに歩きにくいですが、なるべく室内を歩くようにしています。食事はいろいろ考えています。(80歳代女性)
- ・運動をするように気を付けます。(80歳代女性)
- ・ウォーキング、食事、日光浴に気を付けていますが、Dでした。(70歳代女性)

質問内容

- ・androidスマホでアプリをダウンロードしてほしい。
- ・骨のターンオーバーの期間は？
- ・1日1万歩以上歩く日もあるけど大丈夫？
- ・骨粗鬆症の注射について教えてほしい

活動の今後の予定

1)企画イベントの実施：

①アクティブエイジング健康チェック(体組成、握力、足指圧、骨密度、ヘモグロビン値、口腔機能、血圧などのバイタルサイン)を年2回実施(7月、11月)。

2)健康情報の提供：

①健康だよりを年4回(10月、1月)発刊。

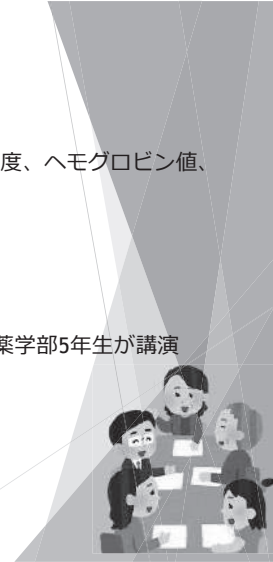
②健康学習会の開催(11月)

→防災フェスタ2023の中で災害時に備えて薬手帳の管理について薬学部5年生が講演

3)地域住民との交流：

①地行事(防災訓練、クリスマス会)への参加(11月、12月)

②大学1年生と高齢者の交流会(2月)



この活動を通しての思い・今後の展望

- ・自分が考えていたよりも、高齢者は健康に興味を持ち、自分の身体と向き合い、生活されていることを学んだ。
- ・地区踏査や活動を行うことで、地域の人の声を聴くことができ、地域の人々の寄り添う支援の一步となることが分かった。
- ・活動の継続が地域で暮らす人がお互いの健康を見守りながら、個人も健康に関心をもって暮らしていることがわかった。
- ・様々なイベントの参加で、日常生活行動を具体的に振り返ることができれば、自身の健康行動を見直すきっかけづくりになると感じた。
- ・病院から退院していく患者様にも地域の健康活動の参加を促すことができればよいと考えた。
- ・高齢者と学生の交流は相互に精神的な安寧や幸福感をもたらすことができ、アクティブエイジングを促すことができる。

- ・健康チェックの参加者は後期高齢者が多かった。加えて、高齢者の方からも、「地区組織活動を担う人の高齢化が進んでいる」との発言があった。子どもが少ない地域であるからこそ、子どもたちを大切にしたい子どもたち向けの活動も松塚福祉ネットで考えられていた。

- ・現在地区組織活動の中心となっている人は後期高齢者であり、若い人の担い手が少ないため、次の世代へ引く次ぐことが困難となっている。

そのため今後も、地区組織活動が継承されていくために、摂南大学看護学部・薬学部・農学部は松塚地区住民と各関係機関との協働でフレイル予防活動や子ども塾など住民中心の健康づくり活動を継続していくことが大切である。



ご清聴ありがとうございました。

各団体の発表

■阪南大学 国際観光学部 松村嘉久研究室

活動テーマ	西成 WAN の実働
活動場所	大阪市西成区
連携先	松村嘉久（西成 WAN 実行委員長）・SHINGO★西成（西成 WAN 総合プロデューサー）・柳洋輔（西成 WAN アートプロデューサー）・西成区役所・南海電鉄・阪堺電車・H2O 商業開発・ミナミまち育てネットワーク・今池こどもの家・Red Bull ほか
活動主体	阪南大学国際観光学部松村嘉久研究室のゼミ生

1. 活動概要

西成 WAN (Nishinari Wall Art Nippon) は、地域の子どもたちや住民にも参加を働きかけ、心無い落書きを消して、アーティストが本気でウォールアートを描き、それを見に来る人たちを地域へ呼び込み、人が集い賑わうことで街の安全や安心を高めるまちづくり活動です。西成 WAN では2014年秋の活動開始当初から、阪南大学国際観光学部松村嘉久研究室の歴代ゼミ生たちが実働部隊として関り、これまで活動を支援し続けてきました。

私たちゼミ学生は西成 WAN において、関係者間の日程調整から会議設定まで、さらには会議の議事録作成と情報共有も行い、実質的な事務局機能を担っています。加えて、子どもたちとのワークショップなど地域連携活動も行い、アート制作時は、現場で準備や下塗りなどの実働を行いつつ、アーティストや子どもたちの作業を支援しています。今年からは、Instagram での情報発信も担当し、資金獲得に向けて、クラウドファンディングを企画して宣伝活動も展開しています。

2. 年間計画

2023年度は6月末、サンスーク花園商店街の壁に、H2O商業開発・今池こどもの家・西成区役所との協働で、アート【SUN49 STREET】を描きました。23年度最大の課題は、西成 WAN 活動資金の獲得で、2023年8月1ヶ月間の予定で、クラウドファンディングをゼミ生が企画・調整して実施。そこで獲得できた資金を使って、2023年9月4日からの週に阪堺電車「北天下茶屋駅舎」、9月18日からの週に同「天神ノ森駅舎」にアートを描く予定です。クラウドファンディングで集めた資金が余ったら、順次、西成区内の壁や阪堺電車の駅舎にアートを描き続け、後輩たちへ活動を引き継いでいきます。

3. 活動成果

西成 WAN では、松村研究室の先輩たちが2015年1月完成の第1弾から、最近の第12弾まで関わってきましたが、私たちが直接関わった活動は以下の通りです。

西成 WAN 第9弾 阪堺電車「今船」下り駅舎：2021年9月8日完成

西成 WAN 第10弾 阪堺電車「新今宮駅前」上り・下り駅舎：2022年6月26日完成

ニュース報道：<https://www.youtube.com/watch?v=-ixRY9h3ui4>

西成 WAN 第11弾 阪堺電車「聖天坂」上り・下り駅舎：2022年9月24日完成

ニュース報道：<https://www.youtube.com/watch?v=AX5TXbQojUM>

西成 WAN 第12弾 サンスーク花園商店街 (SUN49 STREET)：2023年6月27日完成

第12弾では、地域の子どもたちの参加を促すため、今池子どもの家と連携して、6月5日(月)、6月19日(月)にワークショップを行い、子どもたちとの信頼関係を築いた。この他に、6月から西成 WAN の Instagram をつくって情報発信を始め、活動資金獲得のため、クラウドファンディングも立ち上げました。本報告が行われる頃には、「北天下茶屋駅舎」「天神ノ森駅舎」のアートも完成しているであろう。

4. 地域からの評価

西成区役所は市民協働課を中心として、活動開始当時から西成 WAN を後援し続けてくれているそうです。サンスーク花園商店街の第12弾の現場にも、臣永正廣(西成区長)ほか区の職員らが、現場を激励しに来られていました。

西成 WAN でアートを描いていると、地域の住民の方々から色々と差し入れをいただき、「きれなったわ」とか「明るなったわ」とかのお声のほか、通りすがりの方から「ありがとう」と感謝されることもよくありました。

連携先の H2O 商業開発の担当者は、毎日アートの前を通るが、誇らしく思う、とおっしゃっていました。今池こどもの家からは、「子どもたちは学生さんたちと一緒に遊べたこと、めちゃめちゃ楽しかったようで、喜んでます。「スプレーでお絵描きした。」と自宅でも話しているようです。大成功です！」というメールをいただきました。

第9弾からの西成 WAN の実働を通して、西成 WAN はもう西成に欠かせない存在に成長していて、地域から期待されていることを強く感じました。私たちはこの活動を、後輩たちへ引き継いでいきたいと思っています。

5. 参考 WEB サイト

クラウドファンディング『西成 WAN で街に賑わいを！』

https://camp-fire.jp/projects/view/676305?list=search_result_projects_popular

インスタ <https://instagram.com/nishinari2023?igshid=MjEwN2IyYWYwYw==>

6. 活動メンバー

【4年生】岩崎 加納・尾中 帆希・何 雨家・川野 愛実・熊谷 萌衣・毛見ひとみ・坂口 乃彩・是井 望見・高瀬 勇輝・張 雲翔・西本 果鈴・天満 百香・八島 彩音・山田奈々実

【3年生】奥山 凜・加藤 靖菜・佐藤 美咲・鹿田 穂花・鈴江 咲希・多田穂乃香・田中 志樹・谷浦寿々音・戸川 末唯・藤原知佳子・宮司隆之介・山尾 百香・山口 潤

【2年生】小倉由紀乃・川嶋 一輝・川合 絢己・勘田 朱里・佐野なみき・鈴木 智澄・半田 萌恵・藤田 遥香・古川 竣・光藤 千尋・村戸 陽一・山口 蒼空

【1年生】池田真登香・斎藤 花梨

このうち、事務局機能を担当している西成WAN支援学生は、八島彩音（統括）・是井望見（リーダー）・奥山凜（クラウドファンディング担当）・鈴江咲希・藤原知佳子・藤田遥香・村戸陽一・池田真登香。その他のゼミ生らも全員、実働部隊として関わっている。

7. 担当教員

阪南大学国際観光学部・教授 松村嘉久

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	阪南大学	
所属先・職名	国際観光学部国際観光学科・教授	
氏 名	松村 嘉久	
連絡先	電 話	090-6909-5768
	メー ル	matsumuy@hannan-u.ac.jp

9. 活動の様子



第12弾「SUN49 STREET」制作現場にて



第11弾「聖天坂駅舎」の下塗り作業の様子

西成WANの実働

阪南大学国際観光学部松村嘉久研究室

八島彩音*・是井望見*・天満百香・坂口乃彩・
尾中帆希・川野愛実・山田奈々実・西本果鈴・持山好・
奥山凜・藤原知佳子・田中志樹・鈴江咲希

西成WANとは？

- 西成 W (Wall) A (Art) N (Nippon) のこと
 - 心無い落書きを本気のアートで塗りつぶして、まちに変革をもたらす「まちづくり活動」であり「アート活動」でもある
- 総合プロデューサー：SHINGO★西成（ラッパー）
- 実行委員長：松村嘉久（阪南大学国際観光学部）
- 西成WAN実働部隊：歴代松村ゼミのゼミ生たち
 - 2019年末までは新今宮TICを拠点に活動
- 西成WANを構想したきっかけ
 - SHINGO★西成が新今宮TICへ来訪し相談
 - 「閉塞感バリバリ、一緒に何かやりませんか」
 - 「でっかいアートを描きたいけど場所が無い！」
 - 「手伝ってくれるアーティストはいます」
 - 松村研究室の伝統
 - 誰もやったことがないなら、やったもん勝ち！
 - 成功とか失敗は二人目から、やろうや！



西成WANが掲げた目標

- 西成WANの理念や目標などは当時の松村ゼミで議論
- まちづくり活動として
 - 落書きされては消すと言ういたちごっこから脱却する
 - 本気のアートを描いたら、それをわざわざ見に来る人ができて賑わい、ヒトの目で安全や安心を確保できる
 - 変えようとしても変わらない、変わろうとしても変わらない地域の閉塞感から脱却できる
 - 子どもたちや地域の人にも参加を働きかけ、達成感や自尊心を育み、まちへの愛着や誇りを醸成する
- アート活動として
 - 誰でも見れる壁や公共空間にアートを描き、アートをみんなで楽しめるようにする
 - ストリートアートやグラフィティの市民権を獲得する
 - アーティストが活躍できる場を、西成から日本各地へ

西成WANのこれまでの実績

- 2015年1月：第1弾「ここから いまから」
- 2015年9月：第2弾「アセラスクサラスアキラメズ」
- 2016年12月：第3弾「12Artistsの競演」
- 2017年4月：第4弾「ビジネスホテル和光」
- 2018年11月：第5弾「新今宮TIC壁面」
- 2019年3月：第6弾「ニチダイツリー」
- 2019年4月：第7弾「WET PAINT」
- 2019年10月：第8弾「Fringe Street Art Festival」
 - ゼミの先輩方から引き継ぐがコロナ禍で2020年は活動休止
- 2021年9月：第9弾「阪堺今船駅舎アート」
- 2022年8月：第10弾「阪堺新今宮駅前駅舎アート」
- 2022年9月：第11弾「阪堺聖天坂駅舎アート」
- 2023年6月：第12弾「SUN49 STREET」
- 2023年9月：第13弾「北天下茶屋駅舎」
- 2023年9・10月：第14・15弾「天神ノ森駅舎」





第9弾 阪堺今船駅舎アート

- 2021年9月8日完成：アーティストAME
- 協力：阪堺電車 万博共創チャレンジへの参加
 - AMEの指導のもとゼミ生らもベタ塗り支援でアート初参加
 - 実際は駅舎ではなく駅舎の隣の民家の壁！
 - 地域・町会・企業と連携する西成WANだからできた
- テレビ大阪『やさしいニュース』「大阪・西成 阪堺線の今船駅アートが完成！」2021年9月8日放送



第10弾 新今宮駅前駅舎アート

- 2022年8月26日（金）完成
 - 上りも下りも同時に実施
- グラフィティ界の巨匠と天才：**CASPER & JOE**
- 協力：阪堺電車
 - 阪堺社長「遠慮なく好きなように描いてください！」
 - C&J「本当にいいんですか、キャラクターとか入れて、思いっ切りいきますよ！」
 - 社長「構いません。全部、塗りつぶしてください。」
 - C&J「学生のみなさんも手伝って、ベタ塗りとか大変やから、一緒にやりましょう！」
- 協賛：ミナミまち育てネットワーク



ゼミ生らはベタ塗り支援 今船駅舎で経験済み



第11弾 聖天坂駅舎アート

- 2022年9月24日（土）完成 協力：阪堺電車
 - 上り・下り駅舎と駅舎裏を同時に実施
 - テレビ大阪『やさしいニュース』「西成の駅アート 彩り広がる」, 2022年9月29日（木）放送
- グラフィティ界のレジェンド：ZENONE & WA2
- 私たちはさび落とししやベタ塗り, 椅子の塗装を担当



第12弾 SUN49 STREET

- 2023年6月27日（火）完成
 - 「今池こどもの家」で2度のワークショップ開催
 - 大阪・関西万博2025共創チャレンジへの参加
- 世界で活躍するアーティスト：Titifreak（ブラジル）
- 共催：今池こどもの家・（株）H2O商業開発



第13弾 北天下茶屋駅舎

- 2023年9月6日（水）完成
 - アート当日、通り雨で1時間中断するも1日で完成、学生ボランティアは6名参加
 - 場所：阪堺北天下茶屋の上り駅舎および下り駅舎の裏表
- 協賛：Calmart 協働：阪堺電車 後援：西成区
- アーティスト：COSAONE / VERYONE / SORUTO
 - グラフィティ界の重鎮COSAONEはカワイイできめる
 - グラフィティ界の伝説VERYONEは抜群のセンスが光る
 - グラフィティ界の成長株SORUTOはすばやくしぶく
- 阪堺電車との協働の積み重ねで学生もスキルと経験が向上
 - 2023年8月25日（金）：最終の現場確認
 - 2023年9月4日（月）：駅舎清掃および環境整備を実施、学生ボランティア10名参加

第13弾 北天下茶屋駅舎



上：VERYONE



左：SORUTO 上：COSAONE

第14・15弾 天神ノ森駅舎

- 天神ノ森下り駅舎：2023年9月21日（木）完成
 - アーティスト：KANEONE（神奈川）
 - 「駅舎に描けるならぜひ」と関東から実力者が参加
 - 阪堺電車および天神ノ森・天下茶屋周辺の歴史や現状を伝えて、現場で周辺を歩き天神ノ森天満宮の森や木々を見て、デザインを構想
 - 2023年9月19日（火）に上り・下り駅舎清掃作業
 - 2023年9月20・21日にアート制作
 - 実質作業時間は8時間くらい
- 天神ノ森上り駅舎：2023年10月2日（月）完成
 - アーティスト：TITIFREAK（ブラジル）
 - サンスーク商店街アートに続いての参加
 - いくつかの額縁があって、近くで見てもよし、遠くで見てもよしという感じで。抜群の安定感と力量
 - 2023年9月30日、10月1日にアート制作



西成WANでの私たちの役割

- **西成WAN支援ゼミ生が事務局機能を担当**
 - 関係者間の日程調整とオンライン会議設定
 - 会議の議事録作成と情報共有
 - クラウドファンディングの企画・調整
- **ゼミ生全員で地域連携活動を担当**
 - 現場の下見や挨拶回りに同行
 - 地域の子どもたちとのワークショップの実施
- **ゼミ生全員で現場の支援を担当**
 - アート現場の準備とあとかたづけ：清掃・サビとり・下塗り
・子どもらの誘導・通行確保など
 - 現場によってはアート制作の一部も担当
 - 公式Instagramの発信

事務局機能の実際

The screenshot shows a Microsoft Teams meeting interface. At the top, the meeting title is '西成WAN オンライン会議' with options for 'チャット', 'ファイル', 'まとめ', and 'その他 3'. There are '参加' and '3' icons. A notification banner at the top states 'この会議チャット通知はミュートになっています。設定'. The chat history on the left includes messages from 松村 薫久, 是井 望見, and 藤原 知佳子. A meeting log shows the start time as 07/20 14:55. A message from 藤原 知佳子 at 07/20 15:18 is highlighted, with the subject '西成WANの実施予定について'. The message content includes: '実施場所：北天下茶屋駅舎（上り・下り）および天神ノ森駅舎（上り・下り）【阪堺電車よりすでに許可取得済み】' and '実施予定日：北天下茶屋駅舎 2023年9月4日（月）から9日（土）'. On the right side of the screenshot, a list of key actions is displayed: '「調整さん」で日程調整', 'Teamsで会議設定して周知', '会議に参加して議事録作成', '議事録を共有', and 'クラウドファンディングの企画・調整・実施'.


クラウドファンディングの実際

プロジェクトのはじめかた プロジェクトをさがす

あなたは紹介プログラムの対象です 2023/11/30まで

西成WANで街に賑わいを！

▲ NWAN2023 ▲ まちづくり・地域活性化 ▲ 大阪府



現在の支援総額
1,128,777円

目標金額は2,000,000円

支援者数
126人

① 募金終了まで残り
終了

お気に入り 15

FUNDED

このプロジェクトは、2023-07-27に募集を開始し、126人の支援により1,128,777円の資金を集め、2023-08-30に募集を終了しました。

西成WAN（Nishinari Wall Art Nippon）は大阪市西成区を中心に、街なかのあちこちらでストリートアートを鑑いてきました。私たちはストリートアートで来訪者呼び込み、来訪者が街を楽しみ周遊し、街と駅と人をつないで、西成を街ぐるみ野外美術館に変えたいと願っています。

- CF原案を作成
 - 過去のCF実績
 - リターンの企画・調整
- CF担当とのやり取り
 - ゼミで相談して修正
- 2023年7月末公開
- 年内にリターンでまち歩きを実施予定

地域連携活動の実際

- 現地下見の実施と挨拶まわりへの同行
 - 壁のサイズの計測や周辺環境の確認ほか
- 今池子どもの家でのワークショップ
 - 2023年6月5日（月）：子どもたちとみんなで遊び、スプレーの使い方を一緒に学ぶ
 - 2023年6月19日（月）：再び交流して信頼関係を築き、みんなでスイカ割り



現場支援の実際



西成WANの成果と課題

- **西成WANの成果**
 - 西成で地道な活動を展開し続けてきたため、地域の人たちからの信頼や応援を獲得、協力者や壁のドナー提供者が増えた
 - 小学生の頃に一緒に活動したという高校生や社会人が、現場に立ち寄って手伝ってくれることも
 - ストリートアートやグラフィティの市民権獲得に貢献した
 - 西成以外にもストリートアートが広がり始めた
 - 西成WANを見て回る人が増え、賑わいの創出にも貢献
- **西成WANの課題**
 - 安定的な活動資金の確保
 - 税金や助成金は絶対に使いたくない：自由にやりたい！
 - 最適な資金獲得方法はクラウドファンディング
 - 西成WANを象徴する超大作を描きたい
 - 超大作だった「第2弾」が地域の事情から消された
 - ゼミで支援ノウハウを継承
 - コロナで断絶しかかったが20代目ゼミ生らが復活、継承

各団体の発表

■阪南大学 国際観光学部 松村嘉久研究室

活動テーマ	復活！外国人旅行者と一緒にまち歩きへ行こう！
活動場所	JR 新今宮駅から時間距離で片道1時間圏内
連携先	大阪府簡易宿所生活衛生同業組合・大阪国際ゲストハウス地域創出委員会・ホテル東洋・ホテル中央グループ・松原市観光協会ほか
活動主体	阪南大学国際観光学部松村嘉久研究室

1. 活動概要

国際ゲストハウスが集まる JR 新今宮駅周辺には、常に数千人の外国人旅行者が滞在しています。かつて新今宮観光インフォメーションセンターを運営していた私たちのゼミは、そうしたゲストハウスと連携して、これまで何度も、新今宮に滞在する外国人旅行者を誘って、私たちが企画したまち歩きを一緒に楽しんできました。2006年夏から始まったまち歩き、ゼミの先輩方は、毎年数回ペースで実施してきましたが、コロナの影響で2020年春から2023年春までの三年間、ずっと中断していました。

ようやくコロナ禍がおさまり、ゲストハウスは再び外国人旅行者で賑わうようになり、大阪・関西万博2025も近づくなか、私たちは、「外国人旅行者と一緒にまち歩きへ行こう！」を復活させることにしました。これまで先輩方が実施してきた定番コースだけでなく、外国人旅行者の誘致を試みる地方自治体や組織とも連携して、新たなコースづくりも模索したいと思っています。

2. 年間計画

初回は2023年7月に「平野郷杭全神社の夏祭りへ行こう！」を実施しましたが、今後は基本、偶数月に実施する予定。なお、地方自治体や組織からの強い要請があれば、フィールドワークを行って企画し、随時、これらの合間に実施したい。

実施予定月

- 2023年10月 「エンターテイメントを見に行こう！」
- 2023年12月 「西成 WAN のウォールアートを見に行こう！」
- 2024年2月 「すき焼きパーティへ行こう！」
- 2024年4月 「花見へ行こう！」
- 2024年6月 「住吉大社へ行こう！」

3. 活動成果

外国人旅行者と一緒に行くまち歩きは、これまでゼミ定例の活動として、2006年夏に実施した初回から2019年末までの十数年間で、歴代の先輩方が何度も実施してきました。その成果の一部は、大学ウェブサイトの「松ゼミ Walker」に記録が残っています。私たちの代になってからは、コロナの影響で実施できませんでしたが、2023年夏の平野郷杭全神社の夏祭りから、3年ぶりに再開しました。

まち歩きは準備が大切で、まず現場のフィールドワークを行い、下見してコース案を決めます。その後は、英文チラシを作成して、まち歩きの前日の夕方に、ホテル東洋ほか、新今宮のゲストハウスを回って、外国人旅行者に直接参加を呼びかけ、まち歩き当日を迎えます。今回のまち歩き参加者は、男性9名女性4名の計13名、国籍はフランス人4名、アメリカ人2名、ウクライナ・ノルウェー・アルゼンチン・スコットランド・オランダ・タイ・オーストラリア人が各1名でした。

4. 地域からの評価

連携先のゲストハウスからは、日本の大学生らと交流して楽しめるプログラムで、参加した宿泊滞在客から大好評で、ゲストハウスの満足度の向上や宿泊日数の延長にもつながるため、これからも全面的に協力したい、とおっしゃっていただいています。新今宮から阪堺電車に乗って住吉大社へ向かうまち歩きコースは、ゼミの先輩たちがかつて実施したまち歩きをきっかけとして、外国人旅行者たちがカレンダーを見て大安吉日を選び、独自で行くようになりました。何度かまち歩きで訪れた大衆演劇のオーエス劇場（西成区）にも、外国人旅行者たちがしばしば来るようになった、と聞いています。

5. 参考WEBサイト

過去に先輩方が実施されたまち歩きの様子は、大学ウェブサイトに「松ゼミ Walker」として記事掲載している。以下にいくつかのサンプルを挙げておく。

<https://www.hannan-u.ac.jp/doctor/tourism/matsumura/mrrf43000001g7pi.html>

<https://www.hannan-u.ac.jp/doctor/tourism/matsumura/mrrf43000002bp3l.html>

<https://www.hannan-u.ac.jp/doctor/tourism/matsumura/mrrf430000022s4r.html>

<https://www.hannan-u.ac.jp/doctor/tourism/matsumura/mrrf4300000202dy.html>

また、著作権の関係でお見せできませんが、こうしたまち歩きの様子は、以下のテレビ番組で報道されています。

2006年7月22日放送 NHK『ウィークエンド関西』「下町ツアーで大阪に外国人を」。

2015年10月3日放映 NHK 大阪『学校再発見バラエティー あほやねん すきやねん』。

6. 活動メンバー

【4年生】岩崎 加納・尾中 帆希・何 雨家・川野 愛実・熊谷萌衣・毛見ひとみ・坂口 乃彩・是井望見・高瀬 勇輝・張 雲翔・西本 果鈴・天満 百香・八島 彩音・山田奈々実

【3年生】奥山 凜・加藤 靖菜・佐藤 美咲・鹿田 穂花・鈴江 咲希・多田穂乃香・田中 志樹・谷浦寿々音・戸川 末唯・藤原知佳子・宮司隆之介・山尾 百香・山口 潤

【2年生】小倉由紀乃・川嶋 一輝・川合 絢己・勘田 朱里・佐野なみき・鈴木 智澄・半田 萌恵・藤田 遥香・古川 竣・光藤 千尋・村戸 陽一・山口 蒼空

【1年生】池田真登香・斎藤 花梨

7. 担当教員

阪南大学国際観光学部・教授 松村嘉久

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	阪南大学
所属先・職名	国際観光学部国際観光学科・4年生
氏 名	川野 愛実
連絡先	電 話 090-5024-1132
	メー ル gt20046@hannan-u.ac.jp

9. 活動の様子



復活！外国人旅行者と一緒に まち歩きへ行こう！

阪南大学国際観光学部松村嘉久研究室
川野愛実・天満百香・川合絢己・古川竣

新今宮TICから西成WANへ

● 新今宮TIC（2009-19）の機能

- 民設学営の Tourist Information Center
- ① 観光情報の提供と旅の相談
- ② 外国人旅行者向けの「まち歩き」の企画・実践
- ③ 調査研究とまちづくり活動の拠点



日雇い労働者のまちから外国人旅行者も集い憩えるまちへ

- 新今宮駅周辺観光まちづくり推進協議会（2012-）
 - 放置自転車問題の実態調査
- ライブエンターテインメント振興の重要性
 - 西成ジャズ支援（2012-）
 - Osaka Fringe Festival（2018・2019）を経て大阪エンターテインメントシティ構想（2023-）へ
- 新たな地域の魅力づくり
 - 西成WAN（2014-）

なぜ「まち歩き」だったのか？

- TIC創設当初の新今宮地域の課題
 - 大阪（新今宮）は安く快適に滞在するところ、大阪は観光するところではない
 - 新今宮を拠点に京都・奈良・神戸などへ日帰り観光
 - 疲れてゲストハウスへ帰り、翌日は動かない外国人旅行者たち
- なぜ大阪を観光しないのか？
 - 大阪観光するなら、USJ・道頓堀・大阪城・通天閣くらい：でもお城を見るなら姫路城の方が…
 - Lonely Planet「JAPAN」で大阪紹介ページが少ない
 - 大阪観光の魅力・強みは何か？
 - 大阪は「ゴチャゴチャしている」という批判
 - でも、大阪の魅力は「ゴチャゴチャ」（多様性 diversity）
 - 世界中から来るインバウンドの関心は多様、だから多様性があれば、個々人が自分の好きな大阪を探して見つけるはず！

新今宮滞在のFITの特性

- 「大阪国際ゲストハウス地域」構想と新今宮TIC
 - 2005年頃から、日雇い労働者向けの簡易宿所から外国人旅行者向けの国際ゲストハウスへの転換
 - 外国人個人旅行者（Foreign Individual Tourists）の急増
 - 滞在するFITのニーズに応える新今宮TICの創設（2009年）
- FIT／バックパッカー（Backpacker: BP）の特性
 - 「バックパックを背負って旅する人」
 - 低予算で少しでも長い期間、自力の力で旅を続けようとする
 - 旅の目的地も宿も自分で決め、面白いと思えば長期滞在する
 - 滞在期間中の予定は基本、未定で自由に行動する
- FIT／BP独特の生態や行動パターン
 - ガイドブックに載っていないところ、日本らしいものが好き
 - 風景や名所へ行っても興味を持つのは人との出会い
 - 日本人、地元の人たちの普通の生活に興味がある

新今宮でしか成立しない「着地」

- 狭い地域にゲストハウスが集積，FIT／BPが多数滞在
 - 明確な予定の無い外国人が毎日，数千人規模で滞在
 - 100名に1名の確率で参加してもかなりの数になる
 - 長期滞在が多く，ゲストハウス内で情報の共有・継承もある
- 「まち歩き」を企画して勧誘すれば，参加してくれる可能性のある外国人であふれる唯一無二のまち
 - TICを拠点にゲストハウス10数軒を回っても30分くらい
 - ゲストハウス側は滞在の長期化，満足度の向上につながるので大歓迎で超協力的
 - 日本でも唯一無二の着地型観光「まち歩き」が成立するまち
- そうした「まち歩き」を企画・実践できるのはTICを運営する私たちだけ：やったらその時点で勝ち！
 - 継続的な運営でゲストハウスや地域と強固な信頼関係
 - TICを拠点に企画，準備，勧誘，催行できる

私たちの「まち歩き」コンセプト

- 2010年頃のゼミ先輩たちが議論
- まち歩きコンセプトは「ありふれた日常」と「ささやかな非日常」を楽しむ
 - ありふれた日常
 - 短期滞在なら絶対に外せない著名な観光スポットばかりを回るが，長期滞在なら，普通の日本人がどのような生活をしているのか知りたいはず
 - 日本人はどんなところに住み，どんなものを食べているのか
 - ささやかな非日常
 - 日本人にとってここ一番の特別な非日常でなくても，身近で気軽に楽しめる非日常で充分
 - 祇園祭や天神祭りではなく，地域の盆踊りとかだんじり祭りとか
- そもそも日本の地元の大学生らと一緒に「まち歩き」する経験はなかなかできない！
 - 国際観光の現場実践であり，国際交流にもなる

まち歩きの企画から実践まで

- まち歩きのコースを考える
 - 「ありふれた日常」と「ささやかな非日常」を意識
- まち歩きコースを実際に歩いて下見する
 - 何を見てもらいどう説明するのか、役割分担を検討
- まち歩きのポスターとチラシを英語で作成する
- まち歩き催行の数日前、TICを拠点にゲストハウスを回ってポスター掲示
- まち歩き催行の前日と当日、TICを拠点にゲストハウスを回ってチラシでFITを直接勧誘
 - TIC運営終了後のまち歩きでは、催行前日にチラシで直接勧誘するだけで集客できるようになった！
 - ゲストハウス内で口コミで継承、GH側の全面協力

定番化した「まち歩き」

- 住吉大社・堺のまち歩き
 - 阪堺電車の1日乗車券を利用：移動そのもの楽しい
 - 住吉大社で遭遇する神前結婚式と花嫁行列
 - 堺市の包丁・和菓子などの地場産業
- 平野郷杭全神社の夏祭りのまち歩き
 - 何度も異なるだんじりと遭遇、夏祭りの屋台
 - 平野のまち並みと町ぐるみ博物館
- 大阪城での花見
 - 花見している日本人を見るよりも、日本人と一緒に花見したいのではないだろうか...ただそれだけ
- 新今宮周辺のまち歩き
 - ゲストハウス周辺での消費を促して道をつける試み
 - 大衆演劇や西成ジャズなどエンターテイメントへの誘導



住吉大社 堺



平野郷杭全神社 夏祭り



コロナ禍での中断

- 2009年から年間数回ペースで10年間にわたって「まち歩き」や「モニターツアー」を開催
 - 松村ゼミとしては優に50回を上回る経験の蓄積
- コロナで新今宮からインバウンドが消えた
 - コロナ禍：2020・2021・2022年のほぼ丸三年間
 - 大学でも遠隔授業中心で課外のゼミ活動などは基本、禁止
- コロナ前最後のまち歩きは2019年11月実施の「西成WAN巡り」でそれ以降は中断
 - 現在の20代目4年生は2020年4月入学のコロナ世代で「まち歩き」の経験ゼロ
 - 通常の4年生なら「まち歩き」経験は十数回あって、後輩へ継承できるだけのスキルを獲得している…はずだった…
 - 新今宮TICも閉鎖してまち歩きの拠点も無い…
- ストリートでの活動・西成WANからまず復活を

大阪・関西万博に向かって！

- 大阪・関西万博2025は絶好のチャンス！
- 世界中から外国人旅行者が大阪へ来て、大阪市内に毎日100万人以上の人口規模で滞在するはず
 - 万博後にIRが開業すればそうした状態が継続して大阪は国際観光都市へ変貌するはず
 - 大阪は国際観光のゲイトウェイ：大阪市内から大阪府下へ、大阪から関西圏・日本各地へという潮流が不可欠
- 大阪府下の自治体や関西圏・日本各地の自治体にとって、外国人旅行者へ地域の魅力をアピールして呼び込む絶好の機会
 - 自分たちの地域へ海外から直接は来ないが、大阪滞在者へアプローチできれば来る確率が高い
 - でも外国人旅行者へ直接働きかける明確なチャンネルもノウハウもない状況
 - ありがちなのは留学生にモニター依頼するかお金を使ってインフルエンサーを誘致するか：でも効果は???

新今宮のポテンシャル

- 改めて注目される大阪国際ゲストハウス地域（新今宮）の存在と「外国人旅行者と一緒にまち歩きへ行こう」のノウハウ
 - 大阪でも屈指の交通拠点で滞在拠点
 - 特段の予定の無い多数の外国人旅行者へ直接働きかけ誘える環境と方法が整っている
 - 訪日外国人滞在者へ確実に情報が伝わる情報プラットフォームがまだ存在しない現在、国際ゲストハウスの集積とネットワークがあつて、そのネットワークのつないで「まち歩き」を企画・実践できるのは、日本全国でも新今宮だけ



まち歩きの復活へ

- 奇跡的な19代目（2003春卒業）からの継承と20代目（現4年生）の活躍
 - コロナ禍で生まれた不思議な強い仲間意識
 - コロナから解放されて弾ける積極性
 - まち歩きの経験が全く無い状態から復活
 - コロナ禍の2022年6月に平野郷の下見FW



後輩たちも巻き込み継承する

- 21代目（3年生）、22代目（2年生）も巻き込み、まち歩きのノウハウと経験を継承する
 - まち歩き本番：杭全神社への宮入：2023年7月13日（木）
 - 前日の水曜は2年生のゼミ日なので、放課後、4年生と一緒に2年生も参加してFITへの働きかけを担当
 - 松村先生と4年生有志と一緒に、事前に国際ゲストハウス街を巡り、各ゲストハウスのフロントへ連携・協力の再確認



まち歩き当日の様子

- 残念ながら土砂降りの雨模様、不安を抱えながら集合場所のホテル東洋へ
- 参加者は男性9名女性4名の計13名
 - フランス人4名、アメリカ人2名、ウクライナ・ノルウェー・アルゼンチン・スコットランド・オランダ・タイ・オーストラリア人各1名
 - 日本語の上手いアメリカ人
 - 英語があまり上手くない人も
 - 尼崎へのモニターツアーに参加したことのあるリピーターのタイ人
- 国際ゲストハウス「ホテル東洋」の実力を実感
 - 滞在者とフロントスタッフとのつながり
 - 滞在者同士もつながり一時的なコミュニティが形成
- 移動しながら楽しく会話し国際交流



- 4年生8名, 3年生3名, 2年生9名+松村先生
 - 先頭・中盤・最後尾で連携しながら誘導
 - 学生らだけで固まったらアカン, 何人かで連携してゾーンディフェンスを
 - 伝言や指示は自分がうなずくだけでなく後ろへ伝える
 - 日本語でもいいからコミュニケーションをとろう!





まち歩きの今後について

- 2ヶ月に1回くらいのペースで「外国人旅行者と一緒にまち歩きへ行こう！」を開催
 - 定番コースをまず復活させて経験の継承を
 - 20代目4年生は卒業までにあと2回
 - 西成WANのウォールアート巡り
 - 伝統の「すき焼きパーティ」
- 大阪府下の地方自治体との連携を深めて、地域の魅力の伝達とFIT誘致のきっかけづくりを
 - 松原市観光協会との協働から始めたい！
- 大阪・関西万博2025に向けて、大阪からの日帰り観光「まち歩き」の可能性を探りたい
 - 日本人が普通に楽しんできたコンテンツの再発見
 - 金剛山へのハイキングとか、海水浴とか、ブドウ狩りとか、ミカン狩りとか、田植え体験とか、高校の部活体験とか、武道・武術の一日入門体験とか

各団体の発表

■ 8大学（大阪公立大学・大手前大学・関西福祉科学大学・千里金蘭大学・相愛大学・摂南大学・梅花女子大学・大阪樟蔭女子大学）公衆栄養関連学部各ゼミ

活動テーマ	府内8大学連携「もったいないやん！食の都大阪でおいしく食べきろう」学生プロジェクト
活動場所	大阪府内8大学及び大阪府
連携先	大阪府環境農林水産部 流通対策室
活動主体	8大学（大阪公立大学・大手前大学・関西福祉科学大学・千里金蘭大学・相愛大学・摂南大学・梅花女子大学・大阪樟蔭女子大学）公衆栄養関連学部各ゼミ

1. 活動概要

2020年度より、大阪府環境農林水産部流通対策室と連携し、持続可能な開発目標（SDGs）12番目の目標である「つくる責任、つかう責任」の食品ロス削減推進について取り組んで来た。毎年2回のワークショップに関係者が集まって活動方針や内容について検討し、それを各大学に持ちかえって活動を進めている。2020年度は管理栄養士養成施設の学生に食品ロスアンケートを実施した。2021年度は、「誰に、何を」啓発するかの取り組みを検討し、各大学でポスター・過剰除去を減らすための動画・レシピ開発・子どもへの紙芝居作成などを行い、啓発を進めてきた。また2022年度は、「大阪府の食品ロス削減行動推進事業」との協働によりスーパーマーケットでの啓発として、野菜の保存方法や売れ残りがちな商品を使ったレシピのPOPを作成し売り場に設置した。作成した啓発媒体は大阪府の食品ロス削減ホームページに掲載され、活用を推奨している。

2. 年間計画

主な取組み（2023年度）

- 4～5月：各大学で事前学習（SDGsの目標と食品ロスの関係、食品ロスの現状と課題について等）
- 5月20日：8大学連携学生ワークショップ（1回目）
- 6～8月：各大学における取組、連携・協働による啓発活動準備
- 9月9日：8大学連携学生ワークショップ（2回目）
- 9～12月：各大学における取組、連携・協働による啓発活動（過去3年間の活動で積み上げてきた啓発媒体を活用し、若い世代の学生や地域の一般住民を対象にしたイベント等で啓発活動を行う。）
- 3月：2023年度総括、次年度の活動案検討
- 通年：食品ロス削減ホームページへの成果物掲載

3. 活動成果

大阪府の食品ロス削減ホームページに各学校が作成した啓発グッズの掲示（「食品ロス削減ポスター」や「残りがちな野菜レシピ」、「レシピ動画」、幼児向け「紙芝居動画」等）
大阪府主催の「健活ワクワク EXPO」に参加し、府民に紙芝居動画やポスターで食品ロスの啓発を実施。
スーパーマーケット（デイリーカナート イズミヤ花園店）で食品ロスキャンペーンを実施

4. 地域からの評価

スーパーマーケットのキャンペーンでは、「野菜の保存方法」「残りがちな野菜のメニュー」はスーパーの従業員や来客から好評を得た。

野菜の保存方法POPについては、従業員の93.1%・来客の83.4%が「役立った」、残りがちな野菜のメニューについては、従業員の81.8%・来客の74.2%が「役立った」とアンケートで回答した。いずれも従業員・来客とも90%以上が「好印象」と回答した。

(POPについて従業員からの意見)

- 読みたくなるような可愛らしいイラストと文字で目を引きました。保存方法等勉強になったので、ずっと付けて欲しいなと思います。
- 男性の一人暮らしの方は、使い方が分からない人が多いので、料理方法のPOPは簡単なものは絵入りで、今後も付けた方が良いと思います。

5. 参考WEBサイト

大阪府食品ロス削減ホームページ

「もったいないやん！食の都大阪でおいしく食べきろう」学生プロジェクト

<https://www.pref.osaka.lg.jp/ryutai/foodloss/mottainaiproject.html>

アクセス実績：2322（2022.3.28～2023.8.7：月平均アクセス約140）

小売店舗における食品ロス削減の取組みについて

<https://www.pref.osaka.lg.jp/ryutai/foodloss/kourizissyou-kekka.html>

アクセス実績：1590（2022.10.24～2023.8.7：月平均アクセス約158）

6. 活動メンバー

大阪府立大学 4年 伊勢史菜 辻 桐子

大手前大学健康栄養学部 4年 丸喜 智哉 山下 偉央

関西福祉科学大学健康福祉学部 3年 北村 和樹、野澤 春貴、原田明日香、榎村 結衣、
山田 梨楓

千里金蘭大学 1年 北田 彩、竹内 舞紘、宮井 來夢、早川亜沙美、本村 仁見

相愛大学人間発達学部 4年 侯 櫻梓、播岡 咲音、船木あゆみ

摂南大学農学部 4年 飯尾 瑠楓、石井 海、今西 和、郷間 美希、二瓶 葵

梅花女子大学食文化学部 4年 奥田 七海 鹿越捺奈加 内藤 夏嘉 宮部 由唯

大阪樟蔭女子大学健康栄養学部 4年 中谷 葉菜・竜崎なつめ・井上 舞姫

7. 担当教員

大阪公立大学 大学院 生活科学研究所 准教授 矢澤 彩香

大手前大学 健康栄養学部 准教授 大西 智美

関西福祉科学大学 健康福祉学部 教授 西村 節子

千里金蘭大学 栄養学部 准教授 中村 清美

相愛大学 人間発達学部 講師 高井 玲子

摂南大学 農学部 教授 黒川 通典

梅花女子大学 食文化学部 教授 江上 ひとみ

大阪樟蔭女子大学 健康栄養学部 准教授 木村 明美

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	大手前大学 関西福祉科学大学	
所属先・職名	健康栄養学部管理栄養学科 准教授 健康福祉学部福祉栄養学科 教授	
氏 名	大西 智美 西村 節子	
連絡先	電 話	06-6941-7698 内線213 072-947-0095
	メー ル	onishisa@otemae.ac.jp snishimura@tamateyama.ac.jp

9. 活動の様子



府内8大学連携 「“もったいないやん！”食の都大阪でおいしく食べきろう” 学生プロジェクト



- | | |
|----------|-----------|
| 大阪公立大学 | 辻 桐子(4年) |
| 大手前大学 | 丸喜 智哉(4年) |
| 関西福祉科学大学 | 槇村 結衣(3年) |
| 梅花女子大学 | 宮部 由唯(4年) |

学生プロジェクト参加8大学 (五十音順)
 大阪公立大学(大阪府立大学)・大阪樟蔭女子大学・大手前大学・
 関西福祉科学大学・摂南大学・千里金蘭大学・相愛大学・梅花女子大学

食品ロスをめぐる背景・現状

SDGs(持続可能な開発目標)

- ・2015年国連サミット
- ・2016年から2030年までの目標
- ・17の目標と169のターゲット
- ・すべての国連加盟193カ国が一致して採択



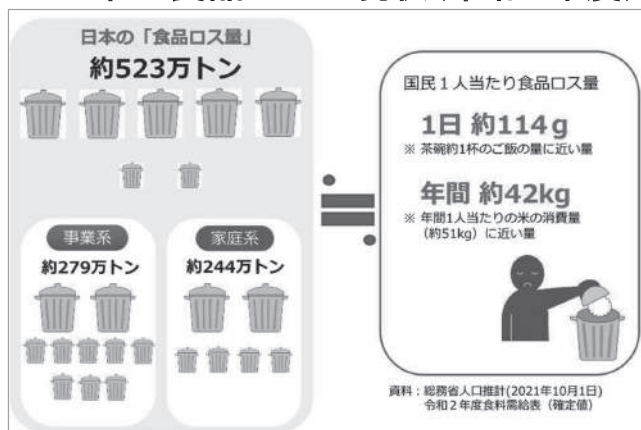
「食品ロス削減」は
SDGsを達成するための方法の一つとして位置付け



2030年までに小売・消費レベルの世界全体の食品廃棄物を
半減へ!

食品ロスをめぐる背景・現状

<日本の食品ロスの現状(令和3年度)>



食料自給率(カロリーベース)
は 38% (農林水産省「食料需給表(令和4年度)」)

食料を輸入に頼る一方で、
多くの食料を食べずに
廃棄している状況

出典：「～食品ロス量(令和3年度推計値)を公表～」添付資料 (令和5年6月9日農林水産省)

国や大阪府では・・・

2019(令和元)年10月「食品ロス削減の推進に関する法律」制定

2021(令和3)年3月「大阪府食品ロス削減推進計画」策定

8大学の学生と大阪府の連携・協働による食品ロス削減

学生プロジェクトの目的

管理栄養士をめざす8大学の学生と大阪府が相互に連携・協働し、最も食品ロスの排出量(直接廃棄や食べ残し)が多い若年者や単身者に対して、一人ひとりが身近なところから取組むことができるよう、学生の視点から食品ロス削減の効果的な推進を図る。



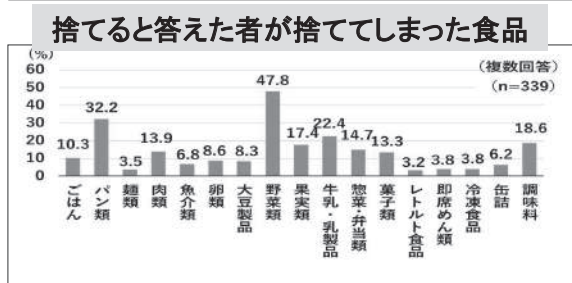
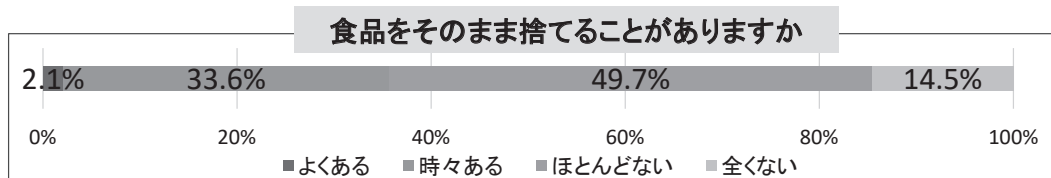
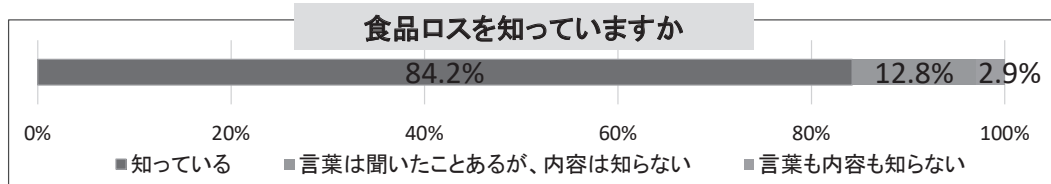
大阪府環境農林水産部流通対策室

「もったいないやん！」食の都大阪でおいしく食べきろう」学生プロジェクト

参加者 大阪公立大学、大阪樟蔭女子大学、
大手前大学、関西福祉科学大学、
摂南大学、千里金蘭大学、
相愛大学、梅花女子大学
の管理栄養士をめざす学生 約30名

2020年度「食品ロス」に関するアンケートの実施

2020年7月～10月に、管理栄養士養成課程の学生1050名に「食品ロス」に関するアンケート調査を実施し、954名の回答を得た。



食品ロス削減行動につながる具体的な情報を、若者の利用が多いインターネットなどで発信していく必要がある。

2021年度 ワークショップ(Web開催)とその後の活動

『食品ロスを減らすための行動を考え実践に取り組む』

食品ロスアンケート結果から、いま行動出来ることは何かについて意見交換を行った。大阪府の食品ロス削減ホームページで発信する内容を検討した。

直接廃棄・過剰除去を減らすメニューの開発とレシピ・動画の作成

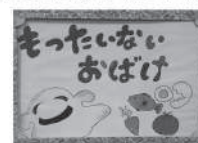
- 24品目の食べきりレシピを作成！
- ・料理の苦手な人でも簡単に作れるもの
- ・よく余りがちな部位や調味料を使ったもの
- ・捨てられがちな部分をまるごと使用したもの



啓発ポスターやその他の媒体・紙芝居などの作成



食品ロスを減らすための紙芝居



2022年3月28日開設の大阪府の食品ロス削減ホームページに掲載

大阪府食品ロス削減ホームページ
「もったいないやん！食の都大阪でおいしく食べきろう学生プロジェクト」



食べきりレシピや紙芝居の
動画配信



「もったいないやん！食の都大阪でおいしく食べきろう学生プロジェクト」に取り組んでいます。

【参画大学】(50音順)
大阪公立大学、大阪府立女子大学、大手前大学、関西福祉科学大学、摂南大学、千里金蘭大学、相愛大学、梅花女子大学

食品ロス削減レシピ・啓発グッズ

食品ロスについて分かりやすく知ってもらう啓発媒体や、卒業生も考えた食べきりレシピ、プロクローリーの芽や皮などが活かされた部分を活用したレシピ、調理動画も作成いたしました。

■レシピはこちら(別ウィンドウで開きます) (大手前大学、関西福祉科学大学、千里金蘭大学、相愛大学、梅花女子大学)

■啓発グッズ

- ・食品ロス削減リーフレット [PDFファイル/461KB] (大手前大学)
※食品ロスを知って、家庭の料理でそのまま捨てしまいがちな野菜を美味しく丸ごと食べきろう！QRコードから動画でお楽しみください。
- ・食品ロス削減リーフレット [その他のファイル/382KB] (大阪府立大学)
※家庭で余りかちな調味料とそれを活用したレシピを紹介しています。
- ・食品ロス削減啓発ポスター [PDFファイル/444KB]とアルコールティッシュ [画像ファイル/77KB] (千里金蘭大学)
※食品ロスの発生量や削減時期、消費期限の正しい知識を紹介しています。
- ・紙芝居「もったいないおぼけ」(関西福祉科学大学)
※公式YouTubeチャンネル「もったいないやん！食品ロス」(お館サイト)からご覧ください！
- ・紙芝居「おやさいリベンジャー」(梅花女子大学) [PDFファイル/497KB]
※紙芝居の一部と上流美の写真を掲載しています。

大阪府食品ロス削減ホームページ
「もったいないやん！食の都大阪でおいしく食べきろう」学生プロジェクト
<https://www.pref.osaka.lg.jp/ryutai/foodloss/mottainaiproject.html>
アクセス実績: 2322 (2022.3.28~2023.8.7: 月平均アクセス約140)

▼詳しくはこちらから



作成した資料(レシピ・レシピ動画、リーフレット、ポスター類)

2023年9月現在、ホームページに掲載されているレシピは43品目(うちレシピ動画は10品目)
レシピ集は様々な形のもの
が完成

夕食の残りを利用した
リメイク朝食



残った餃子の皮で作るピザ



乾パンを利用した
乾パンキンタルト



食品ロス削減レシピ

作り方を動画で!!

冷凍野菜で長期保存可能!

エスニック: 343kcal
たんぱく質: 10.1g
脂質: 20.4g
炭水化物: 48.1g
食塩相当量: 0.9g

材料: ・ご飯: 煮ゆかれる量(110g)
・卵: 1個
・エックスペジタル: 20g
・ケチャップ: 大さじ1
・マヨネーズ: 大さじ1/2

・オムライス

- 1.ご飯・エックスペジタル・ケチャップをマグカップに入れて混ぜ、平らに広げる。
- 2.マヨネーズを表面に塗ってから蓋を閉め蒸し入れたら、ラップをして電子レンジ600w2分、ケチャップをかけて完成!

食品ロス(野菜)は、お肉と一緒に作りましょう!

食品ロス削減レシピ集

食品ロス削減レシピ集

食品ロス削減レシピ集

食品ロスなくそう 使いきりレシピ
〜マーメイドジャムで作る オレンジケーキ〜

レシピの作りかた

ポイント

作りかた

リーフレットや啓発物品なども 多くの種類を作成

捨てられがちな調味料と 野菜を使って

家庭で捨てられがちな食品は？

大阪府の家庭の冷蔵庫から捨てられる食品のうち、「調味料」と「生野菜」が全体の半分を占めています。

～捨てられた調味料ランキング～

- 1位 からし・マスタード(チューブ)
- 2位 ドレッシング
- 3位 その他のつゆ・たれ
- 3位 わさび(チューブ)

大阪府PAFV

余りがちな調味料と野菜を使ったレシピ

その1 焼き肉のたれ×キャベツ「焼き肉のたれで簡単野菜炒め」

材料(2人分)

- キャベツ 1/8玉
- にんじん 1/2本
- エリンギ 1本
- ウインナーソーセージ 2本
- サラダ油 大さじ1/2
- 焼き肉のたれ 大さじ1と1/2

その他好みの野菜を加えてもOK!

レシピ

- ①キャベツは一口大、にんじんとエリンギは短冊切り、ソーセージは斜め切りにする。
- ②フライパンにサラダ油を熱し、野菜とソーセージを炒める。
- ③油が回ったら焼き肉のたれを加えてかき回す。

その2 酸マスタード×レタス「レタスとハムのマスタードサラダ」

材料(2人分)

- レタス 1/8玉
- ハム 2枚
- 酸マスタード 小さじ1/2
- 卵 オレンジオイル 大さじ1/2
- オリーブオイル 少々

さっぱりと食べられます!

レシピ

- ①レタスは一口大に切る。
- ②ハムは半分を切り、縦切りにする。
- ③卵白に酸マスタード、卵黄にオリーブオイルを混ぜ合わせる。
- ④ボウルにレタスとハムを加えて、和える。

作成：大阪府大学

残りやすい野菜を使った 朝食レシピ

残りやすい野菜を使用した朝食レシピ

朝食(2人分)

材料

- 卵 2個
- 小麦粉 10g
- 塩 少々
- 水 100g
- サラダ油 大さじ1
- 残り野菜 適量

作り方

- ①卵を溶き、小麦粉、塩、水を混ぜる。
- ②フライパンにサラダ油を熱し、生地を流し入れ、焼く。
- ③残り野菜を加えて炒める。

2022年 10月10日 残りやすい野菜を使った朝食レシピの作成：大阪府大学

啓発に利用できる アルコールティッシュ



アルコール
ティッシュ
フラップ部分
に印刷



ポスターや卓上メモも 作成して活用

賞味期限と消費期限の違い

賞味期限
「おいしく食べられる」期限のこと
品質を低下せず、早く消費するほど
美味しく食べられます。

消費期限
「安全に食べられる」期限のこと
賞味期限よりも早く消費してください。

食品ロス

使う分
食べられる分
だけ買う

買い物の
冷蔵庫にある
食品のチェック

お店の食品類の
手前からとる
ようにする

食品ロス
を
減らそう

食べられる
量を作る

食材を適切に
保存する

食材を上手に
使い切る

**食材を
上手に
保存しよう**

1人1日当たりの
食品ロス量は114g
(おにぎり1個分くらい)

保存方法を知り、
食材を無駄なく使おう!

食材の保存方法を見て！

作成：大阪府大学 公衆栄養学教室

**～もったいないを
あたりまえに～**

賞味期限
おいしく食べることができる期限
(日持ちする食品)

消費期限
過ぎたら食べないほうが良い期限
(傷みやすい食品)

捨てないための3ないルール

- ・買すぎない
- ・作りすぎない
- ・もったいない

続きも取っていませんか？ 買い物の在庫確認は
していますか？

作成：大阪府大学

食材を上手に使い切る

余っている食材から使う

もったいない料理

余った料理がメイクする

作成：大阪府大学

2022年度 ワークショップとその後の活動

『スーパーで売れ残りがちな食品を 消費者が買いたくなる展開を考えよう』

スーパーマーケットにおける食品ロスの現状と課題から売れ残りがちな食品をどうすればよいか、私たちができる啓発活動は何か、について意見交換を行った。

↓
食品の保存方法や過剰除去を減らすメニュー、動画などを検討し、消費者に啓発できる媒体作りを行った。



野菜の保存方法、使い切るコツを示した
コトPOP



ローリングストック用
購入リスト

野菜使い切りレシピ



もやし1袋まるごと
使いいきり炊き込みご飯

学生が考えた食材の保存方法、使い切るコツを示したコトPOPの
原案を、実際にスーパーの店頭で利用いただいた。



2022年度 大阪府「小売店舗における消費者向け食品ロス削減実証事業」への連携・協働

実証事業の目的

- ・スーパー等小売店舗における効果的な食品ロス削減手法の試行実施
- ・購買者の行動変容の効果を調査検証

多様な食品ロス削減の手法を普及する



【店舗実証について】

- (1)実施期間
令和4年10月27日(木曜日)から概ね1か月程度
- (2)実施店舗
デイリーカーナートイズミヤ花園店
＜協力企業＞
エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社



学生プロジェクト

消費者の行動変容を促すため、学んだ知識を活かし伝える

実証事業で啓発イベントを実施

コトPOPを作成し、家庭でおいしく長持ちする保存方法、余りがちな食材活用レシピを提案
簡単レシピを配布、ポスターを掲示し、食品ロス削減の具体的な手法を啓発

大阪府・小売店舗・学生プロジェクト連携による啓発イベント

デイリーカーナート イズミヤ花園店 2022年10月29日



ポスターを掲示

食品ロス削減 啓発コーナー



食品ロス削減レシピの配布



食品売り場にコトPOPを掲示



店内放送でイベントをPR

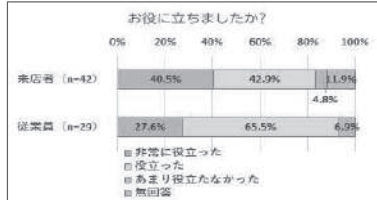
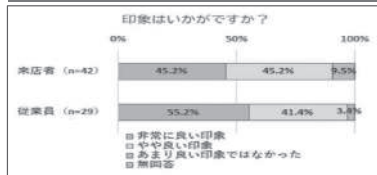


協力し合って食品ロス削減の啓発に取り組みました

実践した手法への印象について(来店者・従業員)

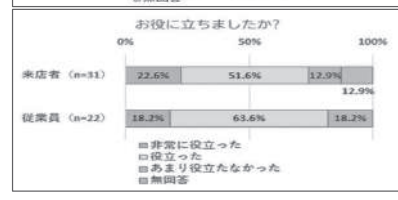
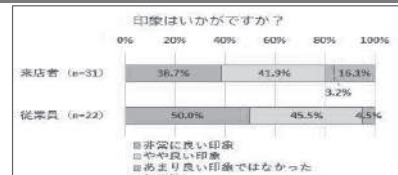
手法①

商品を購入後に実践できる
ワンポイントアドバイスを添えたコトPOP



手法②

使いきりPOPや余りがちな食材活用レシピ



いずれも
従業員・来店者とも
90%以上が「好印象」

野菜の保存方法のPOPについては、
従業員の93.1%・来店者の83.4%が「役立った」と回答

残りがちな野菜の簡単レシピについては、
従業員の81.8%・来店者の74.2%が「役立った」と回答

POPについて従業員からの意見

- ・読みたくなるような可愛いイラストと文字で目を引きました。保存方法等勉強になったので、ずっと付けて欲しいなと思います。
- ・男性の一人暮らしの方は、使い方が分からない人が多いので、料理方法のPOPは簡単なものは絵入りで、今後も付けた方が良いでしょう。

小売店舗における食品ロス削減の取組みについて

<https://www.pref.osaka.lg.jp/ryutai/foodloss/kourizissyuu-kekka.html>

アクセス実績：1590 (2022.10.24～2023.8.7：月平均アクセス約158)

2022年度 イベントでの啓発

「健活ワクワクEXPO in OSAKA」

10月8日(土)に、阪急うめだホールにて開催された食育イベント(大阪府・大阪府食育推進ネットワーク会議主催)に、管理栄養士養成校のブースとして出展



ブース内では食品ロスの啓発も行った。ポスターを掲示し、食品ロス削減レシピや啓発アルコールティッシュ等を配付した。
ステージでは、学生作成の紙芝居「もったいないおぼけ」の動画を上映した。

各地域での啓発活動(健康まつりや食育活動)

東大阪市食育フェスタ



賞味期限あてクイズなど

阿倍野区食育展



フードロス低減に向けた「うさみんカフェ」



にんじんの切りくずを
混ぜて作ったパン

駅前マルシェ



保育園で紙芝居「おやさいレンジャー」

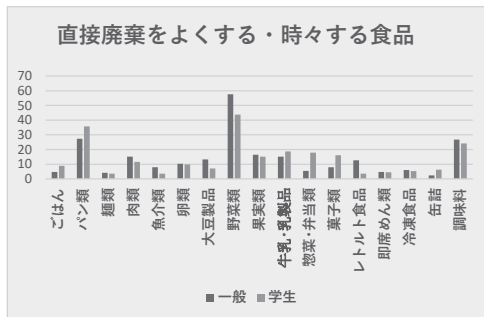
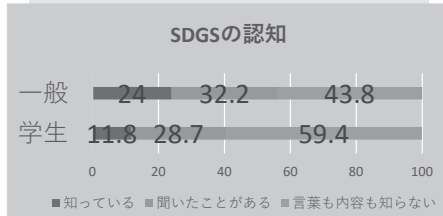


幼稚園で紙芝居「もったいないおばけ」

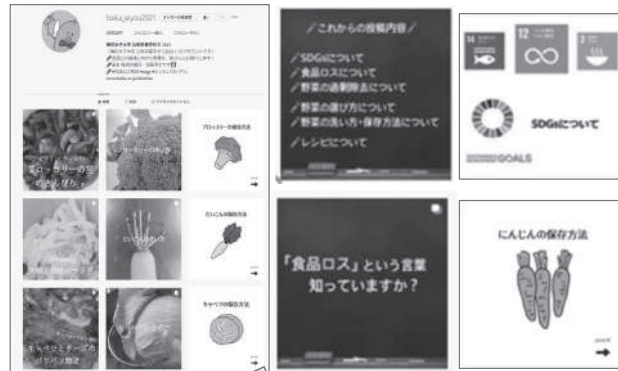


各大学での研究活動や情報発信

食品ロスアンケート実施 (一般住民と学生の違い)



Instagramで情報発信



食品ロスの現状、野菜の過剰除去、食品ロス削減かんたんレシピなど

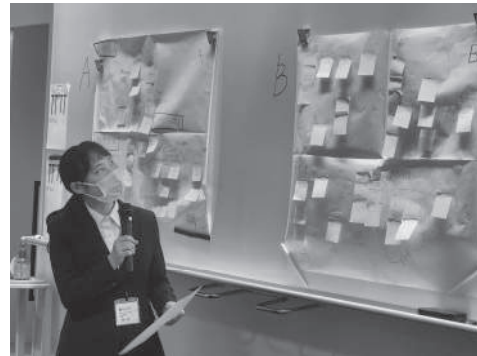
2023年度 ワークショップとその後の活動 これまでとこれから

取組みテーマ

『イベントなどの場で食品ロス削減の啓発活動を実践する。』

第1回ワークショップ

「誰に」「何を」「どのように伝えるか」を議論。その結果を踏まえて、各大学のゼミ活動で活動内容を具体化していった。



第2回ワークショップ

各大学のゼミ活動を報告。
啓発する対象に合わせたポスターや食育ツールを
それぞれ考案・製作し、実践に向けて準備が進ん
でいることが報告された。



実践した報告も！

第2回ワークショップ

活動発表後のグループワークで、8大学が連携・協働して食育イベントへ
出展する案を検討。



ブースでは・・・

- ・パズルやカードゲームなど参加型の啓発
- ・バックパネルにポスター掲示
- ・食品ロス削減アイデアレシピの配布

ミニステージでは・・・

- ・「もったいない」を啓発する劇の上演
- ・食品ロス削減アイデアレシピ動画の上映

2024年1月6日開催予定の食育イベントで実践予定。
各大学でのそれぞれの啓発活動も進めていく！

おわりに

食品ロス削減には、社会全体で食べ物を無駄にしない意識の醸成とその定着を図ることが必要で、地域と連携していくことは重要である。

府内8大学連携「“もったいないやん！”食の都大阪でおいしく食べきろう」学生プロジェクトは、大学が連携することにより大きな力となり、地域との連携も大きく進んだ。

今後も継続して、プロジェクト活動を推進していく。

学生プロジェクトにご指導、ご助言をくださいました大阪府の皆様、企業及び小売店舗の皆様、啓発事業にご参加くださいました皆様、心から御礼申し上げます。

府内8大学連携 学生プロジェクト

大阪公立大学(大阪府立大学)・大阪樟蔭女子大学

大手前大学・関西福祉科学大学・摂南大学

千里金蘭大学・相愛大学・梅花女子大学

各団体の発表

■大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部 ボランティアバンク学生有志

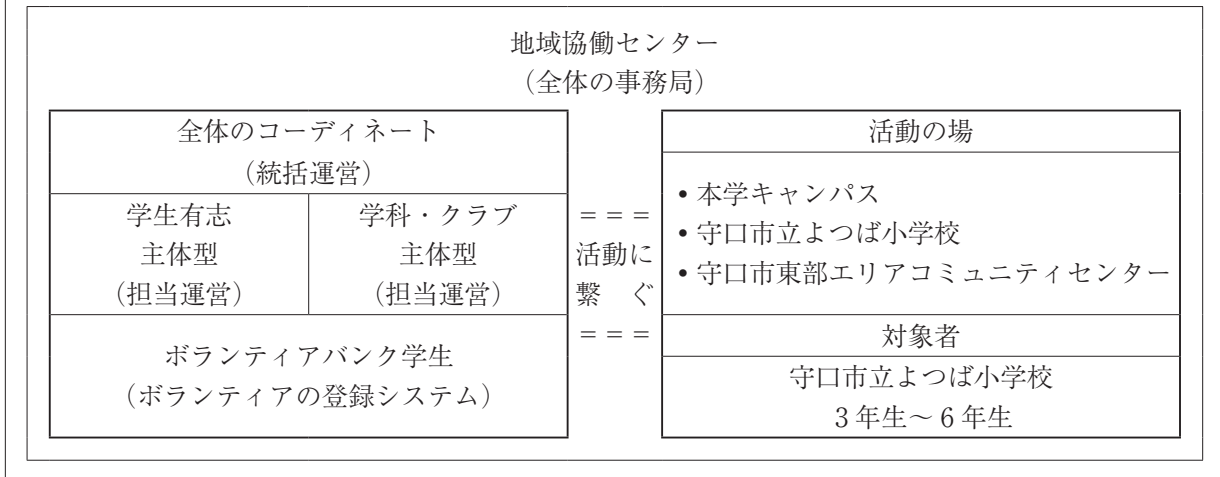
活動テーマ	子どもたちと学生のふれあいを通じた居場所づくり
活動場所	守口市立よつば小学校区
連携先	守口市立よつば小学校、守口市社会福祉協議会、守口市東地区民生・児童委員と実行委員会を組織し、定期的に取り組みの方向性や内容について協議している。
活動主体	大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部のボランティアバンク学生有志

1. 活動概要

OIU/OIC キッズキャンパスは、子どもたちと学生のふれあいを通じた居場所づくりをテーマに掲げ、2017年4月からスタートしている。

組織については、地域協働センターが、学生のボランティアバンク（ボランティアの登録システム）の事務局となり、全体をコーディネートしている。その役割は、キッズキャンパスの企画概要の年間計画を前年度に決定し、2本柱として「学生有志主体型」と「学科・クラブ主体型」を組み、各主体へ依頼をかける。運営については、当センターが事務局として統括運営を行う。その下で、2本柱の各主体が具体的運営を行う。

参加対象は、守口市立よつば小学校の3年生から6年生までとしている。活動は、子どもたちとボランティア学生有志と一緒に、大学のキャンパスや守口市立よつば小学校で、毎月違ったアクティブプログラムを行うボランティアである。



2. 年間計画

4月 地域協働センターから関連する主体へ活動参加の依頼を掛ける。
5月 学生有志での参加を呼び掛けて、集まった学生で企画準備を始める。
6月 「学生有志企画」準備開始
7月 「学生有志企画」開催
8月 「学科・クラブ主体型」開催
9月 「学科・クラブ主体型」開催
10月 「学生有志企画」開催
11月 「学科・クラブ主体型」
12月 「学生有志企画」開催
1月 「学科・クラブ主体型」開催
2月 「学科・クラブ主体型」開催
3月 「学科・クラブ主体型」開催

3. 活動成果

総括成果

参加したボランティア活動を通じその意義、社会的価値を理解し、継続的に活動参加する学生が増えている。正課授業にプラスして、社会人や各種団体の方との接点、ボランティア対象者とふれ合いを通じて得られる体験、感性は極めて貴重なものとする。人間としての成長に大きく貢献するものと認識している。

2022年度

学生企画による「夏まつり（9月）」、「ニュースポーツ大会（10月）」、「お楽しみ大会（12月）」を守口市立よつば小学校、守口市東部エリアコミュニティセンターで開催し、多くの子どもたちとの交流ができ、保護者からの期待に応えることができたと同時に学生にとっても達成感につながった。

2023年度

学生企画による「お姉さん、お兄さんと一緒に遊ぼう（7月）」を守口市立よつば小学校で開催し、多くの子どもたちとの交流ができた。次回10月の学生企画に向けて、準備中である。

4. 地域からの評価

守口市立よつば小学校 校長 横山 美香 様

本校の3年生から6年生の子どもたちを対象に、学生さんとのふれあいを通じた居場所づくりをテーマとして、大学ならではの様々なことが体験できるよい学びの場、楽しい交流の場となっています。

守口市社会福祉協議会 事務局長 鳥野 洋司 様

地域と大学の結びつきを、学生と子どもの交流を通じて生み出しています。学生さんたちは、年長者としての自覚を見せてくれます。子どもをはじめ、社会福祉協議会や民生委員の人々との交流から、地域の多様な世代の人との接し方を実践で学ぶことは、社会に出てからも役立ちます。

守口市民生委員児童委員協議会 副会長 大井 由喜子 様

わたしたち民生委員の役割は、子どもたちに食事を調理し提供することです。学生の皆さんと子どもたちが、親しみを持って接している姿を見ると嬉しくなります。優しさと思いやりの心を育み、社会に出てからもそれを活かしてほしいと思います。

5. 参考WEBサイト

<https://www.oiu.ac.jp/regional/event/kidscampus/>

QRコード



6. 活動メンバー

学生企画のメンバー（今年度）

国際教養学部 国際観光学科 4年次生 岡松 孝樹
国際教養学部 国際観光学科 4年次生 森 蓮太
国際教養学部 国際コミュニケーション学科 4年次生 黒田 夏帆
国際教養学部 国際観光学科 3年次生 平良 百絵
国際教養学部 国際観光学科 3年次生 青井李里子
短期大学部 ライフデザイン学科 2年次生 伊東 美憂
人間科学部 心理コミュニケーション学科 2年次生 古川 琴理
人間科学部 心理コミュニケーション学科 2年次生 山本真由貴
国際教養学部 国際コミュニケーション学科 1年次生 新村 彩花
人間科学部 心理コミュニケーション学科 1年次生 川端 亜衣
人間科学部 心理コミュニケーション学科 1年次生 秋宗かの子
人間科学部 心理コミュニケーション学科 1年次生 辰巳 凜果
国際教養学部 国際観光学科 1年次生 鶴原 巧翔
経営経済学部 経営学科 1年次生 寺前 里紗
経営経済学部 経営学科 1年次生 中川 愛菜
経営経済学部 経営学科 1年次生 濱田亜宋佳

7. 担当教員

学生有志主体型：地域協働センターの職員が担当
学科・クラブ主体型：学科教員、クラブ顧問が担当

8. 本活動に関する連絡先

大学名	大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部	
所属先・職名	地域協働センター・職員	
氏名	池田 寛之	
連絡先	電話	06-6902-0617
	メール	hiro@oiu.jp

9. 活動の様子



2022年度 縁日（よつば小学校の中庭）



2023年度 「お姉さん、お兄さんと一緒に遊ぼう」

地域づくり

キッズキャンパス

子どもたちへの学習支援と居場所づくり

子どもたちへの学習支援と居場所づくりを目的に、2017年4月から開始しました。守口市立よつば小学校の3年生から6年生までの子どもたちがキャンパスに集まり、学生ボランティアと一緒に、毎月違った体験型の学びを行うプログラムです。

●主催 OIU/OIC キッズキャンパス実行委員会
大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部
守口市立よつば小学校、守口市立福徳小学校、守口市立東長小学校、東長児童会、守口市立よつば小学校



学生企画【縁日】

6月から夏休みの期間も定期的に集まり、イベントの企画、企画、チラシのデザイン、店舗作成、運営と全を行いました。閉会式では、よつば小学校の校長先生から学生へ感謝のお言葉をいただきました。

内容：スーパードール作り、輪投げ、ひびき、ピンポンカブリン、射的等

●実施日 9月10日(土)
●場 所 よつば小学校





学生企画【お姉さんたちと英語で遊ぼう!】

国際教養学部 国際コミュニケーション学科 英語インテグレーションコースの学生たちが、英語に親しむプログラムを開発しました。

内容：英語の歌、絵の中当てゲーム

●実施日 6月25日(土)



学生企画【ニューススポーツ大会】

ニューススポーツとは、楽しいことよほれ「楽しむ」ことを重視し「だれもが、いつでも、どこでも、いつでも、気軽に自由に楽しめる」ものです。子どもたちもスポーツを豊かにするために開催しました。

内容：キックボール、モック

●実施日 12月1日(土)
●場 所 国際教養学部
コミュニケーションセンター





手帳のコーナーを持って子どもたちの学びの場を

学生企画【お楽しみ会】

子どもたちが喜ぶ企画として7種類のメニューで行いました。メニューは学科での学びを生かして、社会で必要なコミュニケーション能力を高める学生オリジナルプログラムもあり「学びが遊び」となりました。

内容：じゃんけん列車、次木木、クイズ、ジュースゲーム、ボートボール、ゴロゴロカキッシー、ピンゴ

●実施日 12月7日(土)
●場 所 よつば小学校





OIU・OIC キッズキャンパス米

京都市山科町の大阪国際大学新田にてコトセが育てる田植え体験、収穫体験を行っています。また、SDGs（持続可能な開発目標）の取り組みとして、大阪国際大和田会報や守口市社会福祉協議会等へ寄贈して、食育活動や地域福祉活動に役立ててもらっています。





子どもたちと学生のふれあいを通じた居場所づくり OIU・OICキッズキャンパス



大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部
「学生主体企画」メンバー

目次

1. 目的

- 1-1. 地域協働センター: 事務局機能
- 1-2. 地域協働センター: 役割・運営
- 1-3. OIU・OICキッズキャンパスの循環メカニズム
- 1-4. OIU・OICキッズキャンパスの活動の変遷
- 1-5. 地域のみなさまからのメッセージ
- 1-6. これまでの取り組みモデル

2. 「学生主体企画」の事例紹介

- 2-1. 活動の年間計画
- 2-2. 2022年度「縁日」
- 2-3. 2022年度「ニュースポーツ大会」
- 2-4. 2022年度「お楽しみ会」
- 2-5. 2023年度「大学生のお姉さん、お兄さんと一緒に遊ぼう」

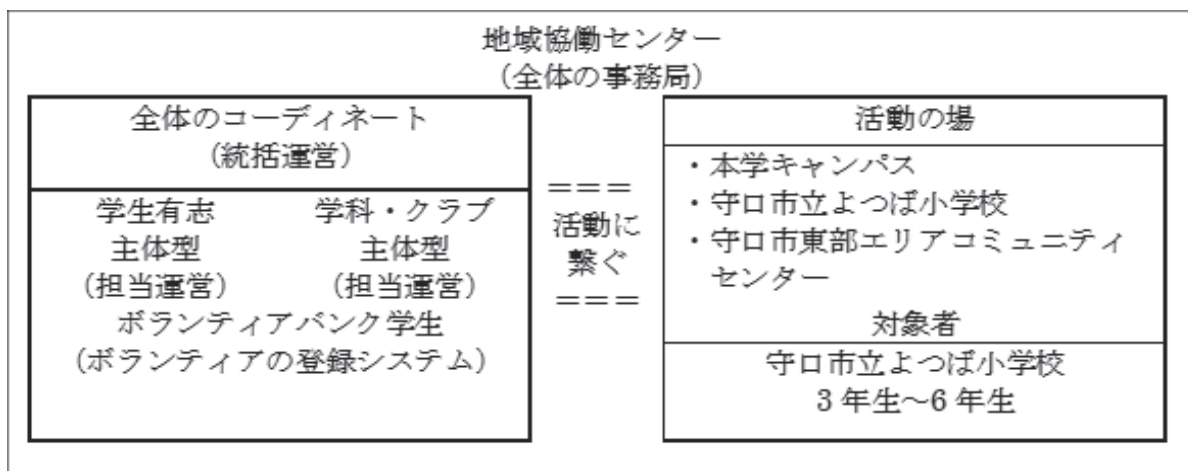
1.目的

子どもたちへの学習支援と居場所づくりを目的に2017年4月から開始しました。
 守口市立よつば小学校の3年生から6年生までの子どもたちがキャンパスに集まり、
 学生ボランティアと一緒に、毎月違った体験型の「学び・食育・遊び」を行うプログラムです。



1-1.地域協働センター:事務局機能

学生のボランティアバンク(ボランティアの登録システム)の事務局となり、
 全体をコーディネートしている。



1-2.地域協働センター：役割・運営

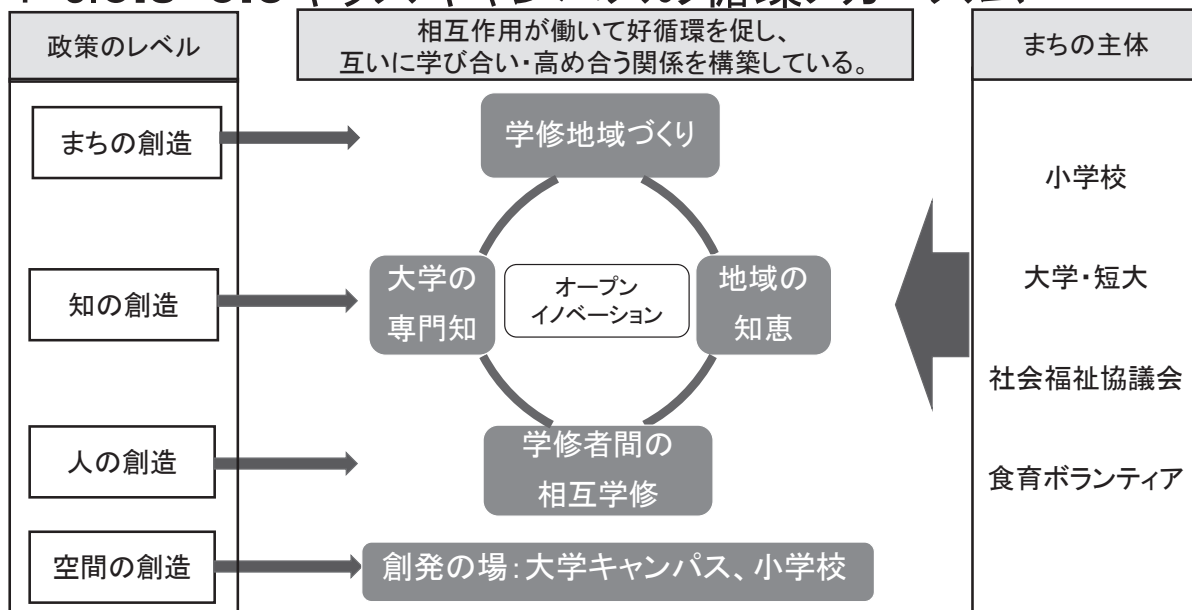
・役割

キッズキャンパスの企画概要の年間計画を前年度に決定し、2本柱として「学生主体型」と「学科・クラブ主体型」を組み、各主体へ依頼をかける。

・運営

当センターが事務局として統括運営を行う。
その下で、2本柱の各主体が具体的運営を行う。

1-3.OIU・OICキッズキャンパスの循環メカニズム



1-4.OIU・OICキッズキャンパスの活動の変遷

2017・2018年度	2019年度 Beforeコロナ	2020・2021年度 Withコロナ	2022・2023年度 Afterコロナ
対面式の活動	対面式の活動	回復力のある活動	回復力のある活動
子どもたちへの 学習支援 居場所づくり	プログラム 1)学生主導型 2)学科連携型 3)クラブ連携型 4)守口市社会福祉 協議会主導型 5)食育ボランティア 主導型 6)南山城村自然体験	「空間的」距離の置換 大学キャンパス ↓ 各家庭 「心理的」距離の置換 対面・ふれあい ↓ 動画配信	プログラム 1)学生主体企画 ※大きく成長 2)学科主体企画 3)クラブ主体企画

1-5.地域のみなさまからのメッセージ



守口市立よつば小学校
校長 横山 美香 さん

本校の3年生から6年生の子どもたちを対象に、学生さんとのふれあいを通じた居場所づくりをテーマとして、大学ならではの様々なことが体験できるよい学びの場、楽しい交流の場となっています。



守口市社会福祉協議会
事務局長 島野 洋司 さん

子どもをはじめ、社会福祉協議会や民生委員、その他近隣の人々との交流から、学生さんたちが地域の多様な世代の人との接し方について実践で学ぶことは、社会に出てからも大いに役立つと思います。



守口市民生委員児童委員協議会
副会長 大井 由喜子 さん

学生さんたちはこの活動から優しさと思いやりの心を育み、社会に出てからもそれを活かしてほしいと思います。また、わたしたち民生委員も地域の子どもたちととても親しくなり、まちであいさつされることが増えました。

1-6.これまでの取り組みモデル

「学生主体企画」



「学科・クラブ主体企画」

2. 「学生主体企画」の事例紹介

「学生主体企画」、「学科・クラブ主体企画」のうち、

学部・学科・学年の枠を超えて学生がつながる
「学生主体企画」の事例紹介







2022年度、2023年度

2-1.活動の年間計画

- 4月 地域協働センターから関連する主体へ活動参加の依頼を掛ける。
 5月 学生有志での参加を呼び掛けて、集まった学生で企画準備を始める。
 6月 「学生有志企画」準備開始
 7月 「学生有志企画」開催
 8月 「学科・クラブ主体型」開催
 9月 「学科・クラブ主体型」開催
 10月 「学生有志企画」開催
 11月 「学科・クラブ主体型」
 12月 「学生有志企画」開催
 1月 「学科・クラブ主体型」開催
 2月 「学科・クラブ主体型」開催
 3月 「学科・クラブ主体型」開催

2-2.2022年度「縁日」

企画立案	<p>コロナ渦で制限されている子ども達に夏の思い出をつくってあげたい。 わなげ、スーパーボール、コイン落とし、ピンポンカップイン、射的、お菓子引きの6つのブースを設けた。 宣伝方法は、チラシを作り、小学生の下校時に配布しに行った</p>	
準備	<p>6月後半から8月末に定期的に集まり準備を行ってきた。 6つのゲームブースを決定後、それらの作成に取りかかった</p>	
当日運営	<p>当日は見込み人数よりも多い300人以上の児童の参加があった。想像以上の人数の参加であったため、当日は景品が足りなくなったり、ブースの列が長くなるトラブルもあったが臨機応変に対応することができた。 終わりには、「夏の思い出ができて嬉しいです」といってくれた児童がおり、とても嬉しい気持ちになった。</p>	
振り返り ①良い点・継続すること ②課題、改善点 ③次にすること	<p>①景品が足りなくなるトラブルもあったが、買い足しにいたり、他の景品で補ったりと臨機応変に対応ができた ②長蛇の列の最後尾が分かりにくかったこと ③カラーコーンなどを利用していきたい</p>	

活動紹介

学生たちは、6月から夏休みの期間も定期的集まり、イベントの発案、企画、チラシのデザイン、店舗作成、運営と全てのゲームを手作りし、試行錯誤しながら「実践的な学び」を修得することができました。また、子どもたちは、輪投げ、射的、ひもひきなど学生手作りのゲームに大喜びでした。閉会式では、よつば小学校の校長先生から学生へ感謝と労い、今後も連携強化していきたいことの感想をいただきました。

内容: スーパーボール投げ、輪投げ、ひもひき、ピンポンカップイン、射的、コインおとし

日程: 9月10日

場所: よつば小学校中庭

参加: 大学生16人、小学生300人



チラシのデザインと作成: 皆木秋桜乃さん

学生の感想

小学校の先生、児童、そして一緒にやり遂げた仲間が嬉しそうな顔をしていたことが何よりも嬉しかったです。

3ヶ月間、縁日企画に参加して、貴重な経験を積むことができました。




一から計画を立てて実行して成功に終わらすことができたことは価値がありました。

企画、準備、巻き込み、宣伝など、日々積み重ねた結果が当日のイベントに大きく影響することを学びました。



よつば小学校 濱口校長先生から学生へ感謝と労いのお言葉をいただきました。

2-3.2022年度「ニュースポーツ大会」

企画立案	低学年はキンボール、高学年はモルックを行った。	
準備	3人の学生が主体となり、種目を決定した後に審判やルール説明、タイムキーパーなどといった役割を決めた。	
当日運営	始まりには、ガムテープに名前を書いて配布した。学生と児童の間で名前が分かり、コミュニケーションをはかることに繋がった。 児童は普段、行うことのない種目を経験して楽しんでいた。 当日、体調不良の子が出てしまう場面もあったが学生がついてあげ、保護者の方への状況説明、お迎えの連絡もしっかり行えた。	
振り返り ①良い点・継続すること ②課題、改善点 ③次にすること	①体調悪そうな子や怪我している子がいないかしっかりと周りを見れていた ②低学年、高学年で種目を決めていたが、途中で交代しても良かったのかなと感じる。 ③1つの種目のみならず、他種目も用意した方が飽きずに楽しめた。	

活動紹介

学生主体によるOIU/OICキッズキャンパス「ニュースポーツ」を開催しました。学生たちは、小学生向けにルールのアレンジ、役割分担、安全配慮など全ての企画運営を行い、小学生からは次回も開催してほしいと大変好評でした。最後は食育ボランティアの皆様からカレーのお弁当をいただきました。

内容: キンボール、モルック
日程: 10月1日
場所: 守口市東部エリアコミュニティセンター
参加: 大学生11名、小学生21名



学生の感想

子どもたちが安全に楽しく当日をすごしてもらうために学生たちで何度も話し合い、試行錯誤の上、様々なことを決めました。当日、学生と小学生との交流が深まりよかったです。



2-4.2022年度「お楽しみ会」

<p>企画立案</p>	<p>じゃんけん列車、火水木、ポートボール、ジェスチャーゲーム、ビンゴを行った。 今回も同様、チラシを制作し、配布を行った。</p>	
<p>準備</p>	<p>スケジュールを立てた後には、誰が審判や得点係、ルール説明を行うのかを決めた。 当日は学生それぞれが、決められた役割をこなすことができた。 また、今回から名前を呼び合えるように名札を取り入れたため、トトロの名札を100枚以上制作した。</p>	
<p>当日運営</p>	<p>50人以上の児童の参加があった。 イベント終了後には、「またやって欲しい！今日は楽しかった」という声が多くあった。 また、トトロの名札も大人気で、子ども達が持って帰ってくれたため、倍以上用意していた名札が全て渡った。</p>	
<p>振り返り ①良い点・継続すること ②課題、改善点 ③次にすること</p>	<p>①コミュニケーションをはかるために名札を取り入れたこと。 ②時間配分がうまく行かず、1つの種目を消してしまったこと。 ③キツキツなスケジュールを組まないこと。</p>	

活動紹介

小学生向けにルールのアレンジ、役割分担、安全配慮など全ての企画運営を行い、小学生からは次回も開催してほしいと大変好評でした。

内容: じゃんけん列車、火水木、クイズ、ジェスチャーゲーム、ポートボール、ゴロゴロドッチビー、ビンゴ
日程: 12月17日
場所: よつば小学校の体育館
参加: 大学生10人、小学生56人



チラシのデザインと作成: 皆木秋桜乃さん

学生の感想





関わりがなかった人と繋がりが出来たり、子どもたちの楽しそうな顔を見てやりがいを感じた。ドッチビーや時間で終わることを伝えるとまたやって欲しいとの声があって嬉しく思った。

子供たちをまとめることがどれだけ大変か、よくわかりました。実は少し小学生の子供には苦手意識がありましたが、みんな素直な子ばかりでとても楽しかったです。

「楽しかった!」、「またやってほしい!」との子どもたちが言ってくれてとても嬉しかったし、可愛かった。また、ビンゴの際に、子どもたちの景品がほしいような顔を見て、買い出しの時に学校までお菓子を運ぶ大変さが一気に飛んでいき、試行錯誤してもっと子どもたちの喜ぶ顔が見たいと思った。



2-5.2023年度「大学生のお姉さん、お兄さんと一緒に遊ぼう」

<p>企画立案</p>	<p>大学生と小学生の交流の場。今年からは制限なしでの開催。じゃんけん列車、鬼ごっこ、ポートボール、ドッジボールで遊んだ。小学校校門前にチラシ配布。</p>	
<p>準備</p>	<p>リーダーと先生の指揮のもとチラシ製作からゲームの内容や役割分担など2か月かけ準備。授業の合間や昼休みなど隙間時間で打合せ。</p>	
<p>当日運営</p>	<p>当日は完全に学生主体での運営。</p>	
<p>振り返り ①良い点・継続すること ②課題、改善点 ③次にすること</p>	<p>①かなりの暑さだったため水分補給の時間を予定よりこまめに長い時間とった。各種目リーダーを主に指示する人が常にいた。 ②マイクの音が小さい。スポーツがメインのため男子児童が積極的で女子児童がボールに触れられていない場面があった。 ③マイクの音量。できるだけ多くの人が気軽に参加できる企画。</p>	

活動紹介

学生たちは、小学生向けにルールのアレンジ、役割分担、安全配慮など全ての企画運営を行い、小学生からは次回も開催してほしいと大変好評でした。

参加：学生16名、小学生18名

場所：よつば小学校の体育館

プログラム：じゃんけん列車、ポートボール、おにごっこ、ドッチボール



学生の感想

「楽しかった!」、「またやってほしい!」との子どもたちが言ってくれてとても嬉しかったし、可愛かった。また、ビンゴの際に、子どもたちの景品がほしそうな顔を見て、買い出しの時に学校までお菓子を運ぶ大変さが一気に飛んでいき、試行錯誤してもっと子どもたちの喜ぶ顔が見たいと思った。



学部・学科・学年の枠を超えた学生のつながりが育む 人の未来、まちの未来



各団体の発表

■大阪公立大学 ボランティア・市民活動センターV-station

活動テーマ	シニア層を主なターゲットとした“学生によるスマホ相談会”
活動場所	堺市東区・南区・美原区など
連携先	堺市社会福祉協議会、堺市東区役所、堺市教育委員会など
活動主体	大阪公立大学ボランティア・市民活動センターV-station

1. 活動概要

近年、スマートフォンの急速な普及にともない、その保有率は、若者だけでなくシニア層の間でも堅調に伸びている。インターネットや高性能なカメラ機能などを簡単に使えるようになった反面、シニア層にとっては多機能すぎることや慣れないタッチパネル操作などで、「うまく使いこなせない」という声も多い。行政や社会福祉関係機関でも、スマートフォンなどのデジタル機器が生活の質を向上させる重要な役割を担うことが期待されていることから、シニア層のデジタルデバインド解消は喫緊の課題として認識されている。そこで大学と連携した“学生によるスマホ相談会”を実施することとなった。具体的には、堺市役所の各部署や堺市社会福祉協議会各区事務所と連携して、地域の公民館などで“学生によるスマホ相談会”を実施している。相談会の内容は、スマホに馴染みのある学生たちが企画・構成しており、様々な学校間の連携も進んでいる。

2. 年間計画

◎2022年度：地域の依頼に答えながら実践を重ねノウハウを蓄積した

●「南八下校区スマホ講座」※堺市東区役所自治推進課との連携

南八下校区地域会館（堺市東区）を会場として、地域の方を対象とした、スマホの基本操作などを学べる「スマホ講座」の講師を担当した。連続3回講座

（実施日）

8月22日（月）「基本操作編」（参加者数：15名／参加学生数：7名）

8月29日（月）「カメラ・動画編」（参加者数：15名／参加学生数：7名）

9月12日（月）「アプリ編」（参加者数：18名／参加学生数：5名）

●「新桜尾台校区スマホ相談会」※堺市社会福祉協議会南区事務所との連携

UR光明池駅前団地集会所（堺市南区）を会場として、自治会とも連携しながら、団地の住民を対象としたスマホに関するなんでも相談会「スマホ相談会」を実施した。3ヶ月連続開催。

（実施日）

9月11日（日）参加者数：7名／参加学生数：1名

10月16日（日）参加者数：5名／参加学生数：2名

11月13日（日）参加者数：1名／参加学生数：4名

●「高校生・大学生による高齢者向けスマホ相談会」※堺市社会福祉協議会南区事務所との連携

堺市社会福祉協議会南区事務所が事務局となっている「南区学校と地域のつながり方座談会」の枠組みを活用して、南区内の高校・大学の具体的な連携事業としてスタート。企画の立ち上げから、桃山学院教育大学・桃山学院大学・大阪公立大学の学生が参加。社会福祉協議会と連携して、複数の学校に所属する学生チームの組織化を行った。

実施日

- 企画会議（計10回開催）：打ち合わせなどを重ね学生チームの組織化を図った
8月26日（金）、9月11日（日）、10月1日（土）、10月18日（火）、12月1日（木）
12月15日（木）、1月12日（木）、2月2日（木）、2月16日（木）、3月9日（木）
参加学生数：のべ43名
- スマホ相談会：出張形式で複数の地域で相談会を実施した
2月24日（金）「原山台校区」（参加者数：約15名／参加学生数：6名）
3月9日（木）「御池台校区」（参加者数：約29名／参加学生数：6名）
3月17日（金）「南区さかいボランティア連絡会」（参加者数：16名／参加学生数：6名）
- 「ボランティアに役立つ！スマホの基本講座」※堺市社会福祉協議会東区事務所との連携
堺市東区役所（堺市東区）を会場として、東区民を対象とした、今後のボランティア活動につながることも意識してスマホの基本操作などを学べる「スマホ講座」の講師を担当した。

実施日

3月15日（水） 参加者数：14名／参加学生数：7名

◎2023年度：ノウハウを蓄積し、出前講座のパッケージ化を実現した上で、依頼を受けて実施

- 「企業による学びの応援プログラム」※堺市教育委員会との連携
このプログラムは、堺市教育委員会が企業やNPO、各種団体、大学等と連携・協働し、講師派遣や施設見学などの「地域貢献活動（CSR活動等）」を学習プログラムとして登録し、学校園やPTA、放課後児童対策事業所などで実施する教育活動に利用してもらうというもの。
これまで実施してきたスマホ講座のノウハウをプログラム化、V-station名義で「スマホの基本操作をマスターしよう！」というプログラムを登録し、地域からの依頼に応えている。

堺市教育委員会のプログラム集掲載開始日

令和5年7月発行版より

【以下に現時点での実施予定を記載】

- 「簡単なスマホ講座」※美原区さかいボランティア連絡会との連携
上記の「企業による学びの応援プログラム」を経由した、美原区さかいボランティア連絡会からの依頼により実施するスマホ講座。堺市美原区役所（堺市美原区）を会場として、美原区さかいボランティア連絡会に参加している地域団体の構成員の方を対象とした、スマホの基本操作などを学んでいただく「スマホ講座」の講師を担当する予定。

実施予定日

9月8日（金）

- 「南八下校区スマホ講座」※堺市東区自治推進課との連携
2022年度と同様に、南八下校区地域会館（堺市東区）を会場として、「スマホ講座」の講師を担当する予定。連続3回講座。今後は、他校区での実施も区役所と検討していく。

実施予定日

8月25日（金）「基本操作編」

9月15日（金）「カメラ操作編」・「LINE操作編」

- 「生涯学習市民講座（初心者向けスマホ講座）」※堺市生涯学習課との連携
月1回実施される生涯学習市民講座の10月講座として、堺市民を対象としたスマホの基本操作などを学べる「スマホ講座」の講師を担当する予定。

実施予定日

10月16日（月）

3. 活動成果

スマホ相談会は、スマホが日常生活に不可欠になるほど活用している10代,20代にとって、地域に貢献できる1つの手段となりつつある。ただし、学生はあくまでも“業者”ではないため、全ての質問には答えられない。しかし、そんな学生だからこそ、地域の人にとって良い面が主に2点あることがわかってきた。1つ目は「同じ目線で悩める」こと。業者でないからこそ、高齢者が持つスマホの悩みに対して、一緒に悩み、一緒になって調べることができる。その中で、わからないことがあるときの調べ方を伝えたり、互いに新発見できることがある。2つ目は「気軽に相談できる」こと。高齢者の中には、家族に分からないことを何度も聞くうちに質問に答えられなくなった人も多い。その結果、誰にも気軽に聞けなくなったという話をよく聞く。そんな時に、自分の子でも孫でもない、友達でもない、そんな学生にだからこそ気軽に質問できることがわかってきた。

4. 地域からの評価

実施の際には毎回アンケートをとっており、地域の方からは「誰に聞いたら良いか分からなかったことを教えてもらい助かった」「いつも側にいてくれ、分からない時、その都度聞くことができよかった」「若い人と話す機会にもなって良かった」などの高評価をいただいている。また、アンケートを通して、スマホの扱いに関しての疑問解決だけでなく、昨今交流が減っている高齢者と若者の交流が、スマホ相談会を通して促進されていることに対する高評価もあり、「多世代交流の機会」としても重要な機会だと捉えられている。こうした面もあることから、行政や社会福祉関係機関においても、“業者によるスマホ相談会”とは異なる“学生によるスマホ相談会”の重要性を見出してきており、大学への協働依頼が相次ぐ理由となっている。その中で、堺市東区長からは2022年10月に感謝状を授与され、実際に地域からの評価が形となって現れてきている。

5. 参考WEBサイト

「企業による学びの応援プログラム」(堺市ホームページ)
https://www.city.sakai.lg.jp/kosodate/kyoiku/gakko/suishin/df_filename_7200311170831817.html#cmsAA157

6. 活動メンバー

当活動はそれぞれの活動において活動メンバーを募集する「プロジェクト型」で行っているため、各活動において中心を担う学生が異なる(連携機関との打ち合わせから参加する学生もいれば、相談会当日のみ参加する学生もいるなど参加形態も異なる)ため、以下には常に中心となって動いている学生のみ記載する。

工学域4年 陳代修平

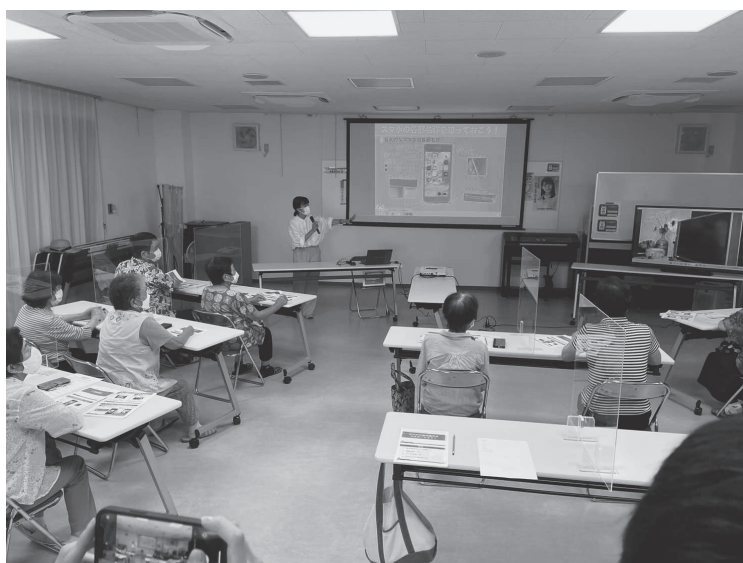
7. 担当教員

なし

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	大阪公立大学	
所属先・職名	学生課 ボランティア・市民活動センター ボランティアコーディネーター	
氏 名	松居 勇	
連絡先	電 話	072-254-7484
	メー ル	gr-gks-volunteer@omu.ac.jp

9. 活動の様子



スマホ相談会の感想ってどんな感じ？

相談会に参加された方の感想 ※アンケートから抜粋

- ・長年分からなかった事が解決した！
- ・学生さんに一生懸命教えて頂き、とても良かった！
- ・誰に聞いたら良いか分からなかったことを教えてもらい助かりました。

- ・若い人と話す機会にもなって良かった。ありがとう！
- ・雰囲気明るい感じでよかった！
- ・今後も、時々相談を聞いて欲しいと思った！

- ・基本操作から教えてもらえてとてもよかった！
- ・QRコードを街中でよく見るので読み取り方をしてくれました！
- ・LINEで写真を送るようになって嬉し！

- * スマホの扱いに関する疑問が解決するだけでなく、
- * 高齢者と若者の交流が、スマホ相談会を通して促進されている

「多世代交流の機会」としても重要な機会

コラボ企画

スマホ相談会は様々な企画とコラボしやすい！

コラボ例①

警察と連携したサイバー防犯

「詐欺」や「迷惑メール」などの「サイバー犯罪」最近どんどん増えています。スマホ相談会とあわせて、警察の方からサイバー防犯に関する講演を実施すると、相性抜群です！

コラボ例②

SNSを利用した広報講座

地域団体などで広報力不足などが課題としてあげられることが多い中、スマホ相談会の1つのテーマとして「SNS」を取り上げることも可能！この機会に、インスタグラムやツイッターなどに触れてみて、活動に活かしてみませんか？

このパンフレットの作成

2022年度、堺市南区区内において
スマホ相談会を実施した学生有志

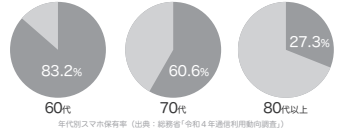
活動に取り組んだ学生の所属
桃山学院大学・桃山学院教育大学
大阪公立大学・堺東高校

活動サポート・パンフレット作成協力
(福)堺市社会福祉協議会 南区事務所



スマホ相談会をめぐる現状

現在、スマートフォン(スマホ)の保有率は、若者だけでなく、年齢が高い人でも堅調に伸びています。



簡単にインターネットや高性能なカメラ機能などを使えるようになった反面、多機能すぎることや慣れないタッチパネル操作などで、「うまく使いこなせない」という声も多く届くようになりました。

スマホ相談会でいただく質問例

例えば、スマホ相談会では、このような質問をいただきます。



その他の質問

- ・迷惑メールの削除方法
- ・アプリのダウンロード方法
- ・メールの着信音の設定方法
- ・削除した写真の復元方法
- などなど

そこで!

スマホを使い慣れている
若者の力を活かそう!

学生によるスマホ相談会

9割以上の方がスマホを持ち、スマホが日常生活に不可欠になるほど活用している10代,20代なら、なにか地域の役に立てるかもしれない...!

今では「学生が地域で活動する1つの手段」として、「多世代交流の機会」としても、普段なかなか接点がない高齢の方と若者が楽しくスマホについてお話しする「スマホ相談会」が全国で盛んに開催されています。



参加した学生側の感想

スマホを持ち始めた祖母・祖父の姿を通して、他の方にもスマホへの苦手意識やハードルがあるように思い、お手伝いしたいと思ったのがきっかけで参加しました!

今自分が持っている知識をアウトプットするだけで活動に参加できたので、参加のハードルも低かったです。

また、普段あまり話すことがない高齢者の方たちと交流できる貴重な機会でしたし、参加者の方が「わかった!」と喜んでくれる姿がモチベーションになりました!

実際のスマホ相談会ってどんな感じ？

学生によるスマホ相談会には大きく2つの形式があります。地域のニーズにあわせて開催形式を選択することが大切です。

1 講座形式



事前に資料などを用意して、順序立てて説明していく形式です。Wi-Fiの繋ぎ方や、写真の保存の仕方など確実に知ってほしいことがあるときに開催しています。

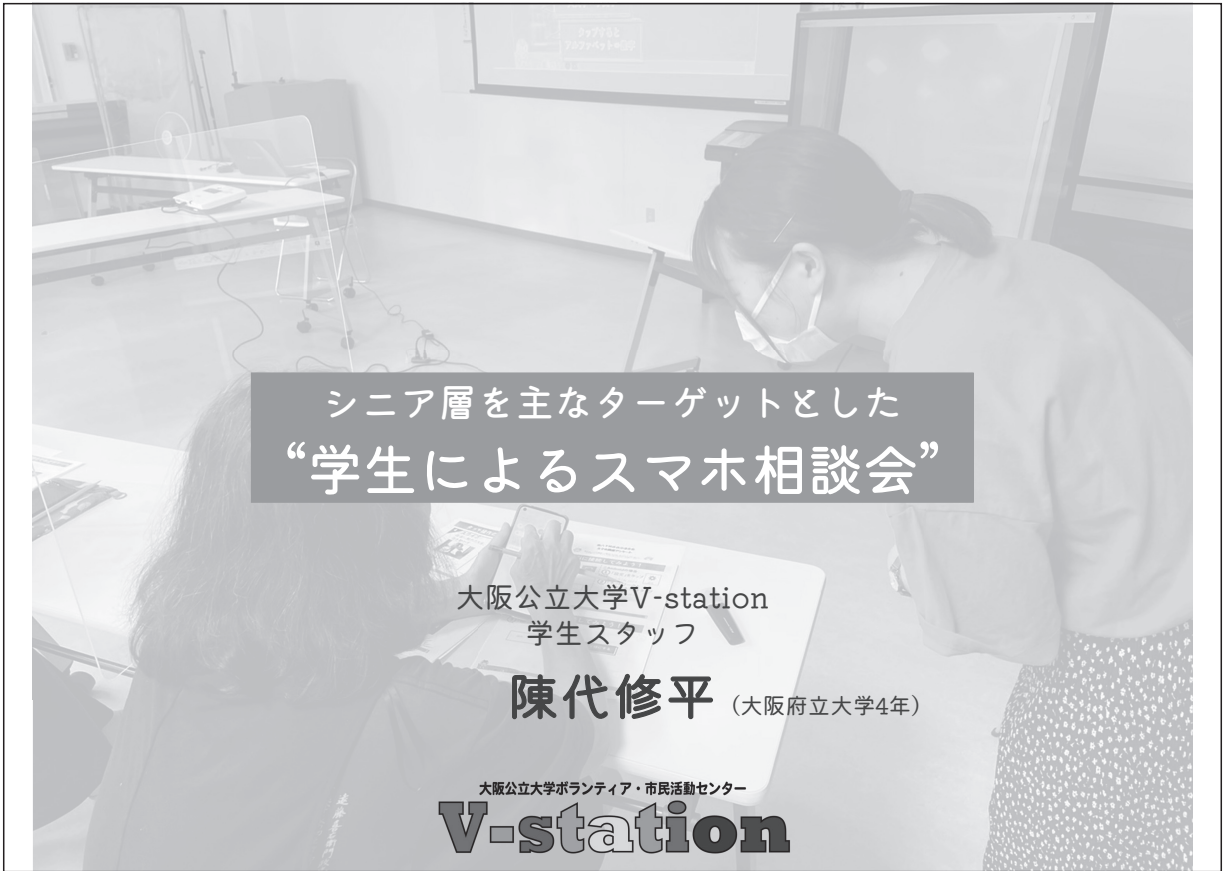
2 フリー相談形式



わからないことを自由に相談できるブースを設置して開催する形式です。個別にじっくり相談でき事前準備も少なく実施しやすいです。何が分からないのかわかる人に向いています。

学生が関わるスマホ相談会の特徴

- ① ただの学生なので、全ての質問に完璧には答えられません! だけど、一緒になって調べます! 学生は「業者」ではありません。でも、だからこそ、一緒になって調べます。一緒に悩みます。その過程で、わからないときの調べ方をお伝えできたり、お互いに新発見があるかもしれません。
- ② 家族でもないし、業者でもないからこそ、相談できることがあるかもしれません。分からないことは何度でも聞きたくなるもの。でも、ご家族には「何回も聞かないでよ!」と言われる方も多しはず。自分の子でも孫でもない、友達でもない、そんな学生にだからこそ気軽に質問してください。



シニア層を主なターゲットとした
“学生によるスマホ相談会”

大阪公立大学V-station
学生スタッフ

陳代修平 (大阪府立大学4年)

大阪公立大学ボランティア・市民活動センター

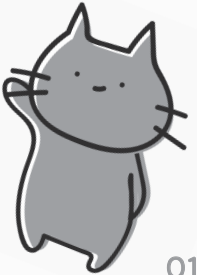
V-station

Question

スマホを**普段**使っている人は
どのくらいいますか？

スマホを**4~5年**の間で
持つようになった人はいますか？

スマホの操作に**不安**がある人は
どのくらいいますか？



01

Contents

01

スマホ相談会を めぐる社会の現状

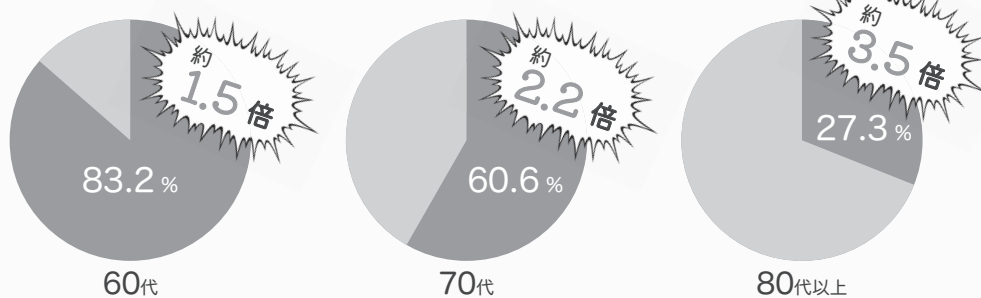
02

Contents

01

スマホ相談会をめぐる社会の現状

◎スマートフォン(スマホ)の保有率は、若者だけでなく、
シニア層でも堅調に伸びている



※令和4年の保有率を平成30年の保有率と比較

令和4年の年代別スマホ保有率

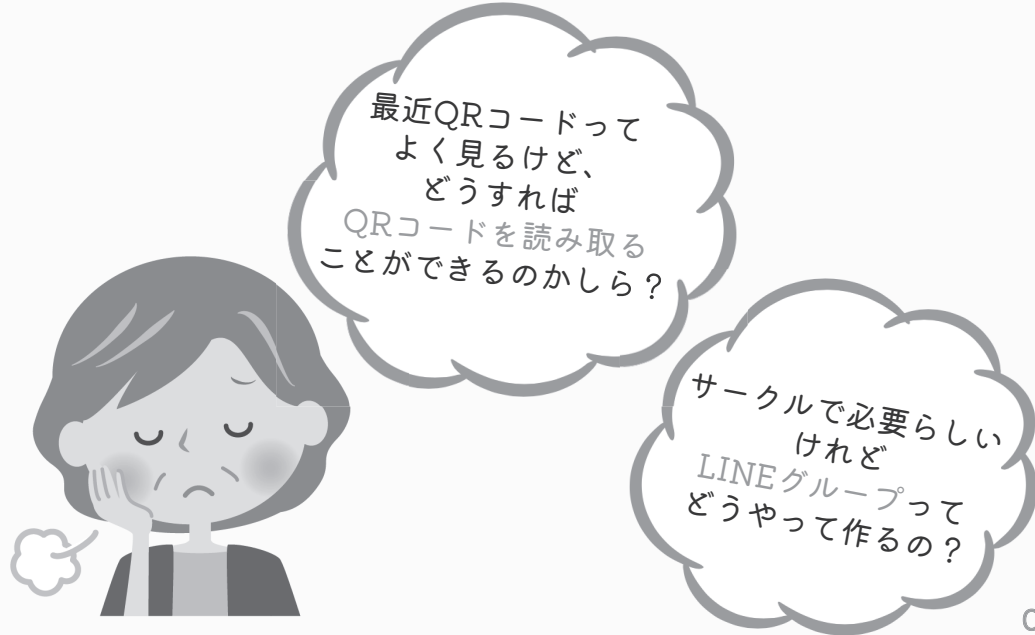
◎出典：総務省「平成30年通信利用動向調査」
「令和4年通信利用動向調査」

インターネットや高性能なカメラ機能などを簡単に使えるようになった反面
「うまく使いこなせない」という声も届くように

03

スマホ相談会をめぐる社会の現状

例えば、以下のような不安を持つ人がいます



04

スマホ相談会をめぐる社会の現状

社会のデジタル化が急速に進み、また、行政手続きのデジタル化が目指される中、デジタルに不慣れな方々が、相対的に不便になってしまふことがないように対策を行うことが重要

社会のデジタル化

行政手続きのデジタル化



行政や社会福祉関係機関、ボランティア関係機関において
日頃からスマホを使いこなしている人が、
デジタルに不慣れな方に寄り添い、
身近な地域での支え合いに繋げる動きが盛んに

QOLに
直結！

05

Contents

02

そもそも V-stationとは？

06

Contents

02

そもそもV-stationって？

学生を“ボランティア”とつなげるべく学生サークルとして始動。
その後、大学公認のセンターとなり、2016年からは堺市の委託を受け
「ボランティア・市民活動センター」として市民活動の視点に。



V-mate

- ・2007年～
学生有志による自主活動として開始

大阪府立大学
ボランティアセンター

- ・2009年11月～
大学の部署として設置



「学生が社会問題への関心を高め、
その問題を解決する主体は
自分たち一人ひとりだ」という意識を持つ」

この思いを大学中に広めるため、
ボランティアセンターの設立をめざしました。

大阪府立大学
ボランティア・
市民活動センター

- ・2016年度～2018年度
堺市「大学における市民活動促進業務」受託運営(堺市産学公連携推進事業)
- ・2019年度～2021年度
堺市「市民活動に係る大学間ネットワーク構築推進等業務」受託運営

大学
統合

大阪公立大学
ボランティア・
市民活動センター

- ・2022年度
堺市「大学等連携を通じた市民活動促進業務」受託運営
→現在は堺市と協定を結び、引き続き市民活動視点として機能

07

V-mate登録制度

「V-stationを通じてボランティア活動をする人」

府大生に限らず、他大生・社会人など一般の人でも登録できる。
活動の関わり方は人それぞれ。

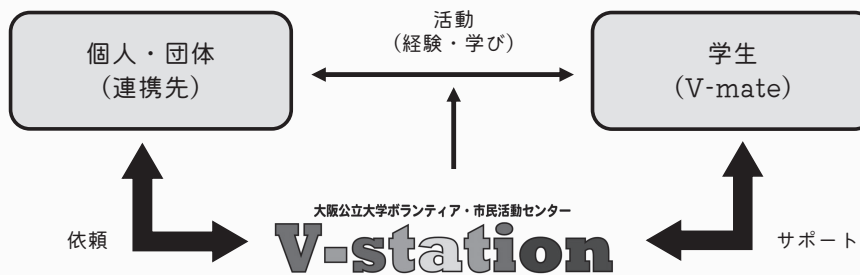
活動への単なる「参加者」だけでなく、
自らが活動の「作り手」になることも積極的に促しています。



毎日新聞 2021/6/4
「参加者」から「創り手」へ



V-stationのコーディネート



- ・ボランティア活動先での人との交流、友達づくり
- ・普段の生活ではなかなかできない体験ができる
- ・自分の目で社会の現状を感じることができる

▶学生の日常

授業、課題、部活動・サークル活動、アルバイト、ボランティア etc...

生活スタイル (一例)

- スタイルとして不完全であり、その学生自身に合ったスタイルを作っていく過程
- ➔ 生活内でボランティア活動が大きなウェイトを占める場合も (その逆も)
- ➔ 活動ペースを一緒に考えていく伴走者が大切

ボランティア活動の捉え方 (一例)

- 新たなスキルを身につける手段(経験)・自分の興味のあるものを探す手段(自分探し)など
- ➔ ボランティア活動を通して、何かをしたいと考えている学生がいる
- ➔ その学生が「したい」ことに合わせて、一緒に活動内容を考えていく過程が大切

V-stationのコーディネート

▶地域と一緒に様々な実践をする中で見えてきたこと

学生たちが達成感を感じ、次も何か続けていきたいという声がよく聞こえてくるのは学生自身が頭を使って地域の方と一緒に携わっていた活動。

学生のアイデアや「役」というものをどのようにして発揮していくかというところを考えながらやっていると、活動としても盛り上がる傾向がある

➡ **新たな創造（チャレンジ）へのこだわり**

大学は、地域に変化をもたらす

起爆剤



10

V-stationが関与した
スマホ相談会の取り組み

11

スマホ相談会の形式

学生によるスマホ相談会には大きく2つの形式があり、地域のニーズにあわせた開催形式を選択することが大切

講座形式



事前に資料などを用意して、順序立てて説明していく形式です。

Wi-Fiの繋ぎ方や、写真の保存の仕方など確実に知ってほしいことがあるときに開催しています。

何を聞けばいいかわからないような初歩でつまづいた人も参加しやすいです。

フリー相談形式



わからないことを自由に相談できるブースを設置して開催する形式です。

個別にじっくり相談でき事前準備も少なく実施しやすいです。

何がわからないのかがわかる人向けの開催に向いています。

南八下校区(堺市東区)

講座形式

開催日時(参加人数/参加学生数)

2022年

8月22日(15名/7名)

8月29日(15名/7名)

9月12日(18名/5名)

ポイント①

講座形式での実施

知っておきたい基本操作をもれなく伝えるため、講座形式での実施となった事例です

ポイント②

連続講座形式

「基本操作編」「カメラ・動画編」「アプリ編」と開催回ごとにテーマを設定し、気になるテーマの機会に参加できる方式をとりました

みなで学ぼう! 南八下校区自治連合会

スマホ講座

生徒募集

地域の若(特に高齢者の方を対象に)スマホの操作を簡単・やさしくお伝えし、活用を促すことにより、大南公立大学やアンテナの学生さんや丁寧に説明します。

- 開催期間 2022年8月～9月(計3回)
- 開催場所 南八下校区地域会館 1階多目的室
- 講座内容 講座60分、質疑応答30分の予定

講座	日時	講師	備考
講座1回	8月22日(月) 14時～15時30分	熊本県内	
講座2回	8月29日(月) 14時～15時30分	堺市東区	
講座3回	9月12日(月) 14時～15時30分	堺市東区	

- 参加人数 各回定員15名、全回参加可能、参加の優先権あり
- 受講条件 南八下校区自治連合会加入世帯、文字入力ができる片スマートフォンを所持している
- 担当講師 大阪公立大学 3分科・市民活動科・Informationの学生さん、市民活動科による説明会の経験のある若手です。
- 募集締切 8月5日(金) 締切後はお申し込みはできません。
- お申し込み 地域会館立席の申込みをおお届しご連絡先を記入願います。お電話での申し込みは受け付けません。

主催：東区役所若者推進課・東区社会福祉協議会



開催日時(参加人数/参加学生数)

2022年
9月11日 (7名/1名)
10月16日 (5名/2名)
11月13日 (1名/4名)

スマホ教室のご案内

スマホ何でも相談室&脳トレ

スマホの使い方に悩んでいる方
大学生が詳しく解決します。
脳トレにもチャレンジ!!

日時: 10月16日(日) 午後3時~4時30分

会場: 光明池駅前団地集会所

講師: 大阪公立大学の学生ボランティア他

参加費は無料です。団地住民であれば

どなたでもOK。

初回参加した方もOK。

個別に面方式で詳しく解決します。

11月13日(日)も開催を予定しています。

<感染症予防のため、マスク着用・手消毒・検温をお願いします>

主催: 光明池駅前団地自治会



ポイント① フリー相談形式での実施

気になることを、好きな時間になんでも気軽に聞ける空間づくりにこだわりました

ポイント② 定期的な開催

団地の集会所を使って、毎月1回定期的に開催しました。近所の人、知り合いを連れて一緒に参加する方もいました。



掲載日時

令和5年7月発行版より

2023年9月8日実施の美原区
さかいボランティア連絡会への
「簡単なスマホ講座」につながった

ポイント 市のプログラムとして登録されている

V-stationでは、スマホ相談会を「出前講座」※の1つとして、依頼があればどの地域にも講座を届けられるように準備しています。

さらに、堺市教育委員会と連携してこのプログラムに登録することで、スマホ相談会を堺市内の地域や学校で実施できる体制を整えています。

企業による学びの応援
プログラム集
—堺市教育委員会—

令和5年7月版

学校での授業や社会見学等に！
卒業後や子ども会イベントに！
PTA活動や公民館活動に！

堺市教育委員会では、企業やNPO、各種団体、大学等と連携・協働し、講師派遣や施設貸借をはじめとし「地域貢献活動(CSR活動等)」を学習プログラムとして登録し、学校やPTA、放課後児童対策事業所などで行われる子どもから大人までを対象とした様々な教育活動に提供することで、学校教育活動や地域活動の活性化を支援しています。

講師派遣 スポーツ 社会見学 体験活動 教材提供 オンライン

SDGs未来都市・堺
デジタル・イノベーション
デジタル・イノベーション推進センター

コース番号	A-K12	提供企業・団体名	大阪公立大学 ボランティア・市民活動センター V-station			
プログラム名	スマホの基本操作をマスターしよう!	実施場所	室内 (教室・体育館)			
対象	大学生が講師役(ボランティア先生)になり、出前授業を実施します。	対象	大人	定員	10名以上	
所要時間	1. 基本操作(タップ、検索) ・スマホの各部名称を知っておこう! ・タッチ操作の基本を覚えよう! ・Wi-Fiに接続してみよう! ・インターネットで検索してみよう! など 2. 電話の使い方 ・電話をかけてみよう! ・連絡先を登録してみよう! 3. メールの使い方 ・メールを操作してみよう! など 4. 2次元コードの読み取り方 ※講座の内容はお申込者の希望に応じて変更させていただきます。	所要時間	45分~90分 (応相談)	必要経費	無料	
準備物		準備物	プロジェクター、スクリーン(又は大型モニター)、パソコン(パワーポイントの起動できるもの)、マグネットが使用できるボード等			
その他		その他	お申し込み後に、講師を務める学生ボランティアの調整をさせていただきます。 ・授業期間の都合上、8月下旬~9月、2月下旬~3月が依頼をお引き受けしやすいです。			

※他にも、ボランティアのイロハを伝える「ボランティア先生授業」や、防災/環境/福祉などテーマに応じた出前講座を随時実施している

Contents

04

スマホ相談会から 見えてきたこと

16

Contents

04

スマホ相談会から見えてきたこと



スマホ相談会開催時のポイント



双方向の多世代交流



持続的に学生が地域に関わる仕組みづくり

17



スマホ相談会開催時のポイント

課題① どのように集客するのか

相談会単体では、十分な集客ができないことがあることがわかった



従来から存在する地域の集まりなどを活用して、開催することがポイント



ふれあい喫茶との同時開催など

課題② 何を伝えるのか

スマホをうまく活用してもらうことで各々のQOLを向上させるのが最終目標



積極的なコラボ企画を行うこともポイントの1つ



警察と連携した詐欺防止講座や
スマホを活用した広報力アップ講座など



18



双方向の多世代交流



参加された方々の感想
(抜粋)

- ・若い人と話す機会にもなって良かった。ありがとう！
- ・雰囲気明るい感じでよかった！
- ・年の差交流の必要性を感じた
- ・今迄、お会いしたことが無い人達とお話し出来て良かった



スマホ相談会が、**多世代交流の機会**として機能している

子や孫ではない若者だからこそ話しやすいという話があり、
こういったナナメの関係を増やしていくきっかけとして
スマホ相談会を活用していけることがわかった

19

**課題** 何が継続のネックになっているのか

学生は日々、授業だけでなくバイトやサークル、インターンなどに追われている。その中で生まれる数少ない時間を、生活費や学費などのためにアルバイトに割いており、他に关わる時間があまりないという人も多い。
(その結果、ボランティア活動をやめる人もいる)

下宿生を中心に、本当は大学の周りで働きたいが、働ける職種や場所が少ないという話もよく聞く



地域のために何かすることで、お金ももらえる仕組み

コミュニティバイトという提案

コミュニティ
財団

アルバイトの予算は、基金のようなものを立ち上げ、個人や地元企業から協賛金を募るなど地元の中でお金が回る仕組みを構築
地域全体で協力して負担しながら、地域で活動する人を支える仕組み

20

最後に...

活動に参加している学生の声の紹介

スマホを持ち始めた祖母の姿を通して、他の方にもスマホへの苦手意識やハードルがあるように思い、お手伝いしたいと思ったのがきっかけで参加しました！

今自分が持っている知識をアウトプットするだけで活動に参加できたので、参加のハードルも低かったです。

スマホのことだったら自分でも気軽に答えられるかと思って参加しました！

また、色んな方とスマホの悩みを通じてお話できたり、悩みが解決すると喜んでもらえることも嬉しかったです！



普段あまり話すことがない、高齢者の方たちと交流できる貴重な機会だからというのと、自分がなんとなく使っているスマホの知識で、誰かの役に立てることに嬉しさを感じたから参加しました！

参加者の方が「わかった！」と喜んでくれたりすると、確かに役に立っているという実感があったり、スマホの解説を通して、高齢者の方と色々な話（お孫さんの話や、今ハマっているものの話など）をするのが楽しかったことが、モチベーションにつながりました！

21



お問い合わせ

担当：松居 (ボランティアコーディネーター)

皆様からのご依頼・ご相談
お待ちしております！

平日 9:00～21:00 / 土曜 13:00～17:00 / 日祝 休み

〒599-8531

大阪府堺市中区学園町1-1 大阪公立大学 中百舌鳥キャンパスB12棟2階

Tel : 072-254-7484 / FAX : 072-254-6442

Mail : gr-gks-volunteer@omu.ac.jp

各種広報媒体



公式HP



Instagram



Twitter



LinkTree



ご清聴いただき
ありがとうございました！



各団体の発表

■大阪電気通信大学 工学部建築学科 北澤研究室 「Create for Smile」

活動テーマ	既存団地の活性化
活動場所	寝屋川市 三井が丘
連携先	大阪府住宅供給公社、寝屋川市
活動主体	大阪電気通信大学 工学部建築学科 北澤研究室 「Create for Smile」

1. 活動概要

寝屋川市の空き家の問題を調査することを始めた時期に、香理三井団地のニコイチのプロジェクトをきっかけに、空き家が目立ち始めた団地に関わる人たちを笑顔にしようと、ニコニコのデザインプロジェクトが始まった。

プロジェクトのキーワードを「温故知新」と設定し、1年目は「古きをたずね、団地を知る」ことで、建設から50年が経過した団地の魅力を知り継承する。2年目は「新しきを知り、団地で実践する」ことで、現代のライフスタイルに対応する住まいを創ることを目標としている。知ることと実践することのサイクルを繰り返すことで、時代に応じた取り組みを、住民目線に立って出来ることから始めようとしている。

次年度以降も公社と大学と市、そして補助事業主体である国交省とも連携しながら、オールドタウン化した街に対しての新しい再生スキームを確立していく。今後は大学内の様々な分野へ体制を広げていき、団地のニーズに応えたいと考えている。

2. 年間計画

- 4月 メンバー募集開始
- 5月 前年度活動の振り返り、まちづくり推進課との連携検討、団地在住の学生インタビュー
- 6月 夏イベントに向けた企画考案、イベント時のアンケート考案
ニコニコのデザインプロジェクトの専用 web サイトオープン
「DIYつくろう家」における学生の配色提案開始
- 7月 夏イベント告知チラシ配布、学生による全住戸アンケートの骨子案作成
「DIYつくろう家」における学生の配色提案
- 8月 夏イベント「三井竹祭り」開催
イベント事後チラシ配布
「DIYつくろう家」における学生の配色提案決定
- 9月 アンケート集計、シンポジウムに向けた構想
- 10月 シンポジウムに向けた呼びかけ、報告書まとめ、冬イベント企画考案
- 11月 冬イベント開催
- 12月 成果まとめ、シンポジウム開催

3. 活動成果

イベントは今までで4回企画し、その都度アンケートの制作と実施を行った。アンケートの内容は「団地でお気に入りの場所がありますか」「改善してほしい所がありますか」などの設問を設けた。その結果、ボトムアップ方式で住民の声を拾うことが出来、団地の需要を知ることができた。直近の8月に行ったイベントでは団地の近くに生育している竹林を使って行灯やモニュメントを使うことで地域資源の可能性を見出せることができた。次年度は得られた需要や住人さんの声をもとに団地でのデザインを実施していく予定である。

4. 地域からの評価

最初は住人から知られていないプロジェクトで、イベントをしても自治会の役員の方のみの4人の参加者だった。しかし、チラシや広報活動・イベントを繰り返していくうちにプロジェクト自体が周知されていき、その結果、前回のイベントでは計100人以上の人がイベントに参加していただいた。イベント後、住民の方々から「団地でのお祭りイベントは10年ぶりで子どもたちの顔が見られてよかった」「久しぶりに地域の人と話せて良かった」といった喜びの声を直接いただいた。アンケート結果では「今後もイベントに参加したいか」という設問では回答者26名全員が「参加したい」と回答した。

これらから、住民たちにとっても地域交流の需要があることがわかり、私たち学生が住民同士の繋がりを築く役割を果たせる可能性があると感じた。

次のフェーズは「団地での実践」ということで、地域拠点や交流拠点のデザインを継続的に発展させていきたいと考えている。

5. 参考WEBサイト

<https://nikoniko.danchi-renovation.com/>

6. 活動メンバー

大阪電気通信大学大学院 工学研究科 工学専攻 博士前期課程 建築学コース

大学院2年 福島 颯樹

大学院1年 尾崎 理、篠原 優太

大阪電気通信大学 工学部 建築学科

学部4年 古本 直輝、杉山 空良、飛永 伊吹、本多 純（広報担当）

学部3年 上川 海人、吉村 直記

7. 担当教員

大阪電気通信大学 工学部 建築学科 准教授 北澤 誠男

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	大阪電気通信大学	
所属先・職名	工学部 建築学科 准教授	
氏 名	北澤 誠男	
連絡先	電 話	072-824-1131
	メー ル	kitazawa@osakac.ac.jp

9. 活動の様子



三井団地まちづくり計画

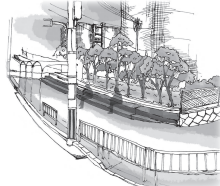
イベントで行ったアンケート結果をもとに三井団地の活性化と需要に応えるデザインを目指して提案する。



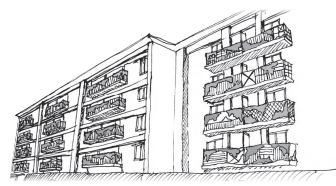
目を開く道
目を開くことができるように団地の高さをレベルが変化する道を設けて、寝ることで目がパチパチと開く。フライトを設けることで飛行機がくぐるといふ点を改善しつつ、星のながめを結ぶよう提案することができる。



季節を感じられる水路
四季は三井団地から見える川には、桜が、秋には紅葉が風に揺れる。水や空気が水面に反射して、空を渡るように、自然の中を歩くこともできる。デッキをベント材の木材で作り、自然に溶け込む団地を計画する。



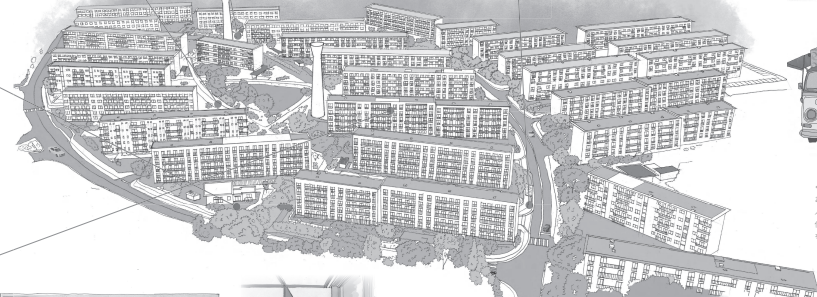
団・線テラス (ベンチ)
団地に住む人はほとんどの階層の窓であるのに利用者が居る場がない。団地に住む人は、そこでベンチの役割を担うように設計したベンチを設けることで、利用者が自然と集まり、団地ならではのコミュニケーションを生む。



寄せ替えファサード
バリエーションを創出して、団地を豊かにすることで自然と人と人とが交流する。自然な様子をつけたファサードの椅子やベンチ、そして団地ならではのスタイルにする。



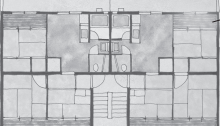
集会所の看板デザイン
三井団地の3つの棟にこの団地の特色である高層住宅による建物の高さを表現し、デザイン化した。



よるすび屋
お年寄りや体が自由な人など活動できない人に対して団地内に身体やお花などを販売して、住人とのコミュニケーションを図る。団地ならではの魅力を最大限に活用して、団地を活性化させる。



星見階段
土を天窓にして星を見えるようにする。ここで階段を昇ると星のながめが見え、星のながめを見ることが出来る。



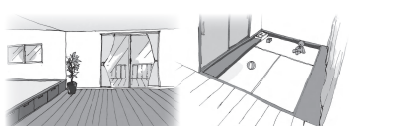
室内の縁側空間
居住部分の外側をオープンにして、その間に縁側を設ける。縁側部分は採光に優れ、さらに和室とベランダの間に隙間を作ることで集まるのに最適な空間になる。



土間を使った動線の誘導
和室を新しく洋室に変えるのではなく、土間を使った動線のように和室同士を土間を使って、木の温かさを思い、暖かみのある空間を残した。



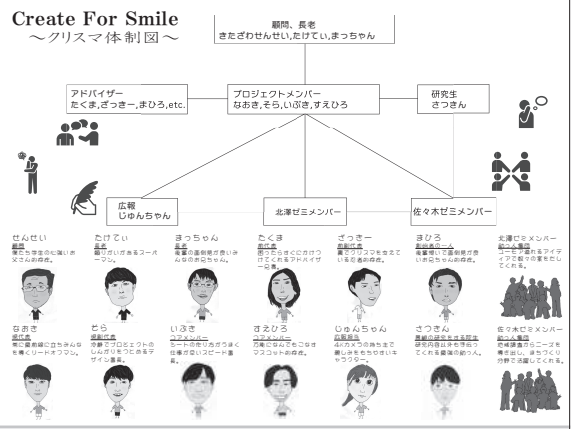
部屋の用途によって床の高さレベルを変える
床のレベルを上げた部屋は、子供も遊べる。お年寄りや体が自由な人など活動できない人に対して団地内に身体やお花などを販売して、住人とのコミュニケーションを図る。団地ならではの魅力を最大限に活用して、団地を活性化させる。



床のレベルを上げた部屋
子供も遊べる。お年寄りや体が自由な人など活動できない人に対して団地内に身体やお花などを販売して、住人とのコミュニケーションを図る。団地ならではの魅力を最大限に活用して、団地を活性化させる。



01 成り立ち
たけいで、まっちゃん、たくま、という建築学科の先輩により、上下関係の交流や設計コンパなどの技術伝承を目的として Create For Smile は始まりました。今までの Create For Smile の活動として、コンペの提案やソフトの使い方を教えていたが、その活動を学外にもさらに広げ Smile を増やしたいと考えた。そこで、寝屋川市の空き家の問題を調査することを始めた。香樟三井団地のニコニコのプロジェクトをきっかけに、公社の田中さんと北澤先生とのやり取りが始まり、空き家が自立した団地に関わる人たちが笑顔にしよう、ニコニコのデザインプロジェクトが始まりました。



02 現在の取り組み
北澤、佐々木研究室の学生から提案を募り、提案を実現できるように会社さんと会議を重ねている。アンケートやイベントなどを通して、住人さんとのコミュニケーションを図り、マスタープランを決めるのではなく、住人の皆さんに自立して出来ることを見つけていこうとしている。少子高齢化の流れから、空き家が自立した団地を、既往の手法ではない学生ならではの提案で解決できるように、様々な関係者と協力しながら、様々な活動に取り組んでいる。

04 新秋イベント
9月10日の土曜日に一棟集会所で新秋イベントを行いました。アンケート記入に学生が参加して下さった皆さんに対してそれぞれ一人ずつ、インタビュー形式を行いました。また、三井団地のことについても詳しく教えてもらい勉強させていただきました。クイズ大会は大盛り上がりで、団地に関するクイズと時事問題を出題しました。問題を出すが、逆に住人の方から学ぶことも多かった。住民さんと寄り添いながら、団地について様々な意見を聞かせていただきました。



05 晩秋イベント
11月19日の土曜日に一棟集会所付近で晩秋イベントを行いました。住人の皆さんに焼き手を配り、学生とのアンケートを通してコミュニケーションを取りました。三井団地の眺望や住民同士のコミュニケーションなど、三井団地の良いところをたくさん教えていただきました。イベントを始める前に消防の方や自治会の皆さんと協力しながら、無事イベントができました。お菓子や飲み物を使って防災意識を高めるのが焼き手を焼いていただきました。また、たくさんの方に来ていただき、とても賑わいのあるイベントにすることができました。



06 SNS
TwitterやInstagramを活用して、三井団地について大阪府住宅供給公社との見えてくる化を図っています。また、学生や企業にも興味を持ってもらえることで、より多くの人に知ってもらい、将来に繋がります。イベントの写真撮影や普段の作業風景などを撮影し、普段から情報を更新していくことにより、ニコニコのデザインプロジェクトをより大きなものにします。SNSの活用は、外部へのPR活動になり、その他にも学生との思い出となり、活動の軌跡になります。



こちらのQRコードから是非読み取りください！



香里三井団地 「ニコニコのデザイン」プロジェクト

2023年10月22日



Create
For
Smile

プロジェクトで人を笑顔にする

1

「ニコニコのデザイン」プロジェクト 2022年度成果報告 contents

・プロジェクト紹介:「ニコニコのデザイン」のすすめ

1.報告

団地を知る

- 1-1.周辺敷地調査報告
- 1-2.新秋のイベント報告
- 1-3. 冬のイベント報告
- 1-4. 春のイベント報告
- 1-5. 夏のイベント報告
- 1-6.アンケート報告

2.提案

団地を動かす

- 2-1. 団地外構の提案
- 2-2. 団地外装の提案
- 2-3.団地内装の提案
- 2-4. コトを起す提案

3.展望

団地の未来

- 3-1. 計画手法
- 3-2. 今後の予定



Create
For
Smile

プロジェクトで人を笑顔にする

2

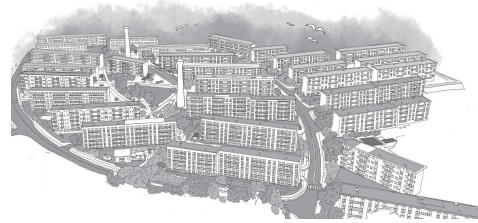
「ニコニコのデザイン」のすすめ —はじめに—

香里三井団地(こうりみいだんち)の概要

- ・管理開始: 1969年(昭和44年)
- ・管理戸数: 約340戸・間取り: 2LDK/3DK(約45m²)ほか
- ・家賃: 3万5千円～
- ・近隣含め約1千戸の賃貸団地群を形成
- ・大阪電気通信大学からは車で10分程度の距離

香里三井団地(こうりみいだんち)の課題

- ・経年による「オールドタウン化」
- ・最寄駅まではバス便利用
- ・市内平均より低い「居留意向」
- ・高齢化率40%超(市平均約30%)
- ・空家率15%超(50戸以上が空室)
- ・自治会の若手、担い手不足 など



Create
For
Smile

プロジェクトで人を笑顔にする

3

「ニコニコのデザイン」のすすめ —1年目の活動概要—

住民との交流 →「団地を知る」ための第一歩

- ・交流イベント1: ボランティアカード配布など
- ・交流イベント2: かまどベンチによる焼き芋大会など
- ・交流イベント3: 団地再生に関する住民とのワークショップなど
- ・交流イベント4
- ・団地暮らしに関するアンケート、インタビュー



学生目線での情報発信 →ファン・サポーターの獲得

- ・手作り新聞やチラシ(居住者向け)
- ・WEBサイト
- ・SNS



団地・まちづくりに関する調査研究 →「団地を知る」「地域を知る」

- ・景観に関するアンケート
- ・フィールドワーク
- ・建築の研究(DIYや解体体験イベント)
- ・活動成果報告会



団地再生事業報告 →ステークホルダー向けPR

- ・広報記事のWEBサイト掲載
- ・まちづくりシンポジウム(予定)

※以降二年目の「団地での実践」に繋げるとともに、「団地を知る」ことも継続。



Create
For
Smile

プロジェクトで人を笑顔にする

4

「ニコニコのデザイン」のすすめ 一街が笑顔になるために

これまでの団地再生の先事例にない「ニコニコのデザイン」の三つ新規性

- ①マスタープランやコンペなどトップダウン方式や再開発方式ではない
— これまでの課題を探して随時解決していくボトムアップ型 —
- ②民間主導ではない学生の提案・学生の手を使った団地再生方式
— イベントアワーではなく学生ならではのコミュニケーション提案 —
- ③団地だけでなく地域を含めた団地資産の発掘に関する調査研究
— 都市まちづくり研究室のノウハウにより魅力の再発見 —

大阪府住宅供給公社
トータルマネジメント

事業開発
イノベーション企画

企画募集
学生の入居斡旋

SmALIO

香里三井団地の皆さん
近隣の皆さん

大阪電気通信大学
(OECU)

OECU 北澤研究室 + CREATE FOR SMILE
提案(検証)

①ワークショップ提案および団地再生デザイン提案

OECU 地域連携室

②産官学連携の支援

寝屋川市まちづくり推進部
行政支援

住環境の改善
高齢者対策
子育て世代対応
など

寝屋川市
KYOTABARA CITY

OECU 佐々木研究室 + まちづくり研究会
検証(提案)

③都市環境デザインの研究および提案

Create
For
Smile



プロジェクトで人を笑顔にする

5

「ニコニコのデザイン」のすすめ メディア・SNSの運用



学生運営のSNS リンク



HP開設 リンク



FM802取材

- 取材実績
- ・NHKラジオ「関西ラジオワイド」
 - ・毎日新聞
 - ・LIVIKA
 - ・ねやつー など

Create
For
Smile

プロジェクトで人を笑顔にする

6



1.報告「団地を知る」

1-1. 周辺敷地調査報告



昭和っぽさが残る外観



団地の中の公園



春には桜が咲く



シンボルの給水塔



棟同士を繋ぐ細い通路



家の中の様子

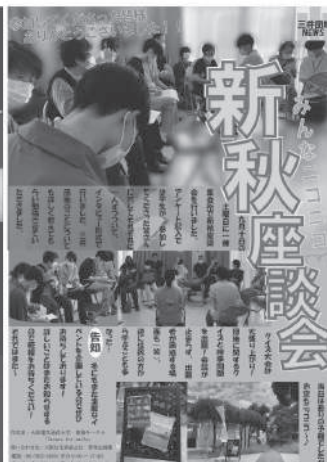


Create
For
Smile

プロジェクトで人を笑顔にする

1.報告「団地を知る」

1-2. 新秋イベント報告



第一回目のイベントとして9月10日に新秋座談会を行った。座談会という名の通りに「団地を知る」という目的のもとに団地クイズやアンケートを行った。住人の方から逆クイズがあったり、三井団地のことを詳しく教えていただいた。「団地を知る」第一歩目としてふさわしいイベントになった。

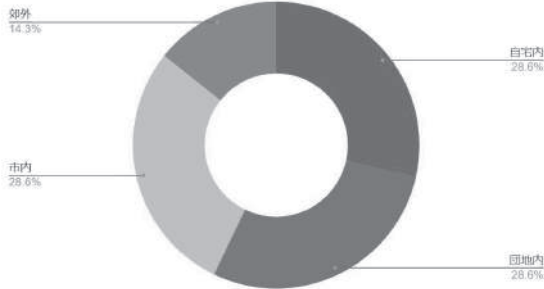


Create
For
Smile

プロジェクトで人を笑顔にする

1.報告「団地を知る」
1-4. アンケート報告_新秋イベント

Q1-9.日々の暮らし方を教えてください



住人の方の日々の暮らし方は自宅・団地内・市内が同じくらいの割合となった。このことから私たちが提案するデザインも内装だけでなくとどまらず、団地周辺のランドスケープや団地外とも繋がるものをデザインのニーズがあることが考えられる。

Q3-3.この団地をより良くすることに賛成ですか？



新秋座談会イベントに参加して下さったすべての方が、団地をより良くすることに賛成するという前向きな意見が得られた。このことから団地を良くするための課題意識を持っている住民が多く存在する可能性があり、ボトムアップ型の団地再生が適した団地だと考えられる。



Create For Smile

プロジェクトで人を笑顔にする

1.報告「団地を知る」
1-3. 冬のイベント報告



かまどベンチを使ったやさしいも
2022.11.19
土曜日
10:00~12:00
開催
無料
開催場所：香里三軒A団地・集会所付設
引換券 準備中
ぜひ多くの人参加を望みますので、ぜひ参加してください。

晩秋イベント
十月二十九日の土曜日に「新秋座談会」を開催しました！
参加くださった皆さんありがとうございました！
「団地を良くするために何をしたいか？」というアンケートを実施して、ミモラやアクリルを取りました。シヨウなど、三井住友の奥いところまでたくさん教えていただきました。イベントを始める前に消防の方に来ていただき、準備は万全、防災意識を高めるためにかまどベンチを使ったやさしいもを行いました。また、たくさんの方に集っていただき、とても有意義なイベントになりました！

11月に2回目のイベントを行った。様々なニーズを得るためにアンケートの母数をとることを重視したイベントを計画した。秋という季節と住人の方からも馴染みあるものということでやさしいもを使った。防災意識を高めることを目的にかまどベンチを使って行った。当初の目的は30人ほどを予想していたが、当日は小学生から高齢の方まで幅広い年齢の方が集まり60人ほどが参加し、活気のあるイベントになった。アンケートも36人の方にお願いいただき、とても有意義なイベントになった。

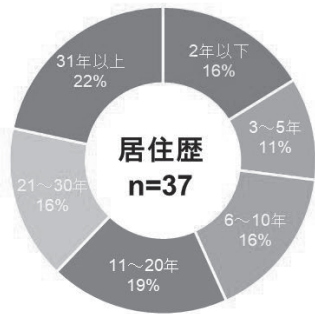


Create For Smile

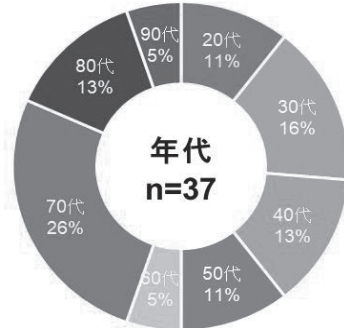
プロジェクトで人を笑顔にする

1. 報告「団地を知る」

1-4. アンケート報告_晩秋イベント



- 2年以下
- 3~5年
- 6~10年
- 11~20年
- 21~30年
- 31年以上



- 20代
- 30代
- 40代
- 50代
- 60代
- 70代
- 80代
- 90代

最近転入された方、中には生まれた時からずっと香里三井団地に住んでおられる方など幅広い回答が得られたが、31年以上と長くお住いの方が20%を超えている。

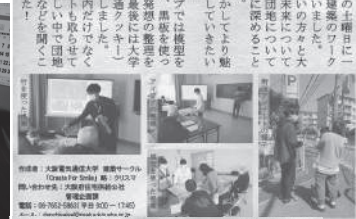
イベントの参加者は年代では70代の参加者が多く、次に子育て世代である30代も多くの参加があった。このことからシルバー世代の参加が多く、団地の高齢化が伺えた。



プロジェクトで人を笑顔にする

1. 報告「団地を知る」

1-4. 春のイベント報告



3月にいままでのイベントで得られたニーズを提案に起こしたものを住人の方に提案する「団地のミライ提案の会」というワークショップを行った。学生の提案のフィードバックをもらうだけでなく、住人の方と「三井団地といえば？」などのブレインストーミングを行い、団地のミライについて住人の方にも考えていただくきっかけづくりとなった。しかし参加者が3人ということを受け、団地内での認知度が足りていないと実感したイベントだった。



プロジェクトで人を笑顔にする

1.報告「団地を知る」

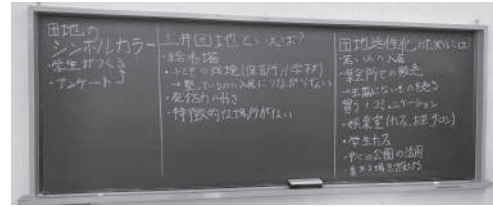
1-4. アンケート報告_春イベント

街頭アンケート結果

住宅研究室+ニコニコP2 2枚目アンケート結果 該当 大森

性別/年齢	建築の感想	喜ばせて欲しくないもの	取り入れてほしいもの	三井団地ならではの良さ	イメージカラー	居住年齢
男性/10		団地裏の湧り音	近くにスーパーと駅裏子悪さんが欲しい	学校が近い	緑	4
女性/82	防犯カメラが欲しい	壁		自治会が良い	ピンク	40
不詳	多い					
女性/70	壁がいらぬ	緑と木々は絶対に残して欲しい	花を植えて欲しい	静か	緑	20-30
女性/83	景色を活かして欲しい	木々	高からの景色	緑と建物が多い・道幅、学校、保育所がある	緑	50
男性/77		植地	緑の木	バス停が近い	緑	30
男性/70	水筒を降りで子供が汲べるように・階段	木々・草薙り	壁	学校や保育園が近くにある	緑	45
女性/70	高層階が多いので休憩できるスペース		緑	ジェネレーションギャップ	緑	49
女性/56	防犯対策					45
女性/80	緑帯がほしい					50
女性/70	設備などが古い、トイレが小さい					
女性/85	築年数が古い、トイレが小さい			花が美しい、住みやすい	緑	50
男性/86	団地の光が多いので星が見にくい・緑帯		木	緑見知りが多く住みやすい	緑	30年以上
女性/70	ウッドデッキ風は◎ 安全帯					54

ワークショップイベント結果



集会所の中でブレインストーミングを行った。これから団地をデザインしていくにあたって、シンボルカラーを話し合ったり、団地活性化のための具体的な案をもらった。これらを形にすることがボトムアップ型の提案の一環と言える。



プロジェクトで人を笑顔にする 13



1.報告「団地を知る」

1-5. 夏のイベント報告

夏は三井団地の地域資源を用いた竹を使った竹灯籠を中心に朝と夜の2部構成で行われ、竹灯籠は学生の案と住民さんの意見から生まれた。三井団地近くの竹を切り出し、学生自らの手でお花や花火などの柄を穴を開けてデザインしたものを子供達にカラーペンやシールでデコレーションしてもらった物を通路に配置していった。竹のモニュメントも同様に学生がデザイン、切り出し、作成し飾り付けを行った。100人ほどの方に参加していただき活気溢れるイベントとなった。



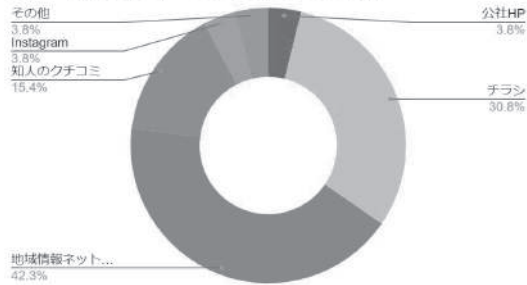
プロジェクトで人を笑顔にする 14



1.報告「団地を知る」

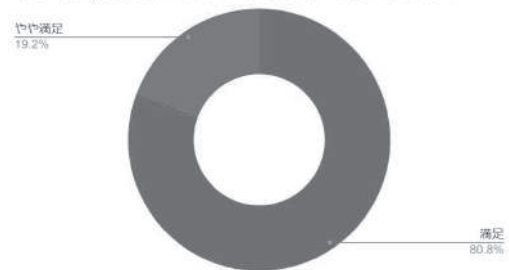
1-4. アンケート報告_夏イベント

Q1-(4)今回のイベントを知ったきっかけ



イベントを知ったきっかけは地域情報ネットの「ねやつー」が40%を占めた。次いでチラシが31%で毎イベントごとにチラシをくばっている意味があったといえた。学生が運営しているInstagramからも少なからずイベントの参加者がいたのは大きい成果といえる。

Q1-(5)今後もイベントに参加したいと思いますか？



今後もイベントに参加したいという声が多くもらえた。住人さん側も学生と交流したいと思っていただいていた。中には「イベントの運営から携わりたい」といっていただいた住人さんもいて、ぜひ今後のイベントに関わっていただきたい。



プロジェクトで人を笑顔にする 15

1.報告「団地を知る」

1-4. アンケート報告_

Q.今の団地の悪いところをお教えてください。

- バスがあるから良いけど立地が悪い
- としよが多い
- 坂が多い
- 役をしなければならぬ
- エレベーターが欲しい
- 夜中に寄声をあげる人がいる。3部屋中2部屋が和室 トイレの水流れがイマイチ・窓の外が別の団地
- 昔は子供がドンドンしてた
- 業者のレベルが悪い
- 虫が多い、床がきしむ
- 虫が多い、床がきしむ
- 交通の混雑
- かびはえる、すきま風、壁が薄い、壁に亀裂
- 銀行、郵便局が近くにない
- 建物の老朽化 6階まで上がるのがしんどい
- コンビニがない
- 木が多いので虫が多い...
- 部屋にカビがいい。日が当たらない部屋にカビができる。すきま風が多い。
- 坂がたまに苦痛
- 車の騒音が響きやすい
- 新しい住民と古い住民の繋がりが少ない
- 坂が多い
- 木が多い
- 交通が悪い、
- 医療施設(遠方に行かないとない)

1.報告「団地を知る」

1-4. アンケート報告_全住戸アンケート

現在実施中

全住戸アンケートとは

目的:住まいや暮らしに関する、今後の団地における取り組みの検討のため
配布戸数:284戸
期間:~9/15までに返送

目的:・「ニコニコのデザイン」プロジェクトの認知度と共に周知されることを図る
・ボトムアップ式で住民からの要望を拾う

設問の内容:プロジェクトの認知度
今後してほしい活動
デザインしてほしい場所
など

*集計が間に合えば当日に集計結果をお伝えします



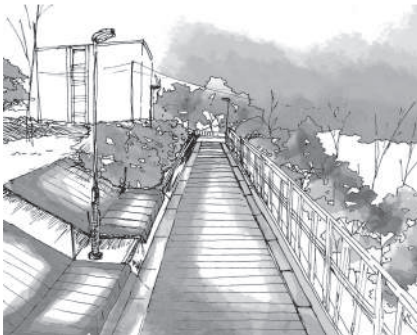
Create
For
Smile

プロジェクトで人を笑顔にする

17

2.提案「団地を動かす」

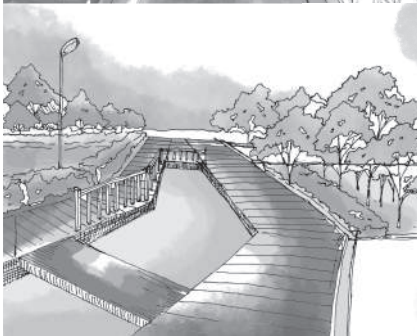
2-1. 団地外構の提案



L-01:ウッドデッキ+フットライト

A-2棟とA-18棟の間にある通り道。
団地全体の魅力である「緑」があまり感じられない。また、少し薄暗いのが現状である。

そこで、周囲の恵まれた環境との調和、凡庸で無機質な道からの脱却を目指す。
ウッドデッキによる有機的なデザインと相応の明かりを得られるフットライトを設置。



L-02:憩う水場

団地中央の広場付近にある敷地の余白。
アンケートから「四季が楽しめる」「桜がきれい」などの特徴が見られた。
しかし、それを堪能できる場が少ない。
そこで、団地内の余白に水場を設ける。
水にはリラックス効果がある。
また、水を配置することで、春は「逆さ桜」、夏は清涼な場を生み出すことができる。



Create
For
Smile

プロジェクトで人を笑顔にする

18

2.提案「団地を動かす」
2-2. 団地外装の提案



E-01:着せ替えファサード

各棟に設けられているベランダ部分。設置されている手摺子は凡庸なデザインである。そこで、カスタマイズ可能な手摺子に変更する。多様なデザインを許容することで、この団地特有のファサードデザインへと変化させる。また、ツタ植物を巻きつければ、団地全体の「緑」との調和が図られる。

E-02:カラーファサード

各棟に設けられているベランダ部分。E-01では、手摺子自体を変更可能な物にしていた。しかし、より簡易的であり、多様性を表現する方法も検討する。各住民が好きな色をファサードとして一部に取り入れる。見た目も明るくなり、団地の個性を向上させる。

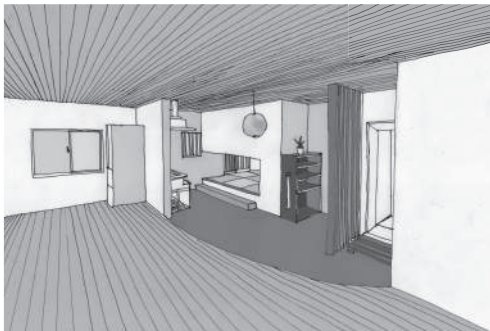
イメージ画像
参考:UR「ひのさと48」



プロジェクトで人を笑顔にする 19



2.提案「団地を動かす」
2-3. 団地内装の提案



I-01:土間

玄関から続く土間空間。現状、玄関付近が少し窮屈である。また、アンケートでも「部屋が狭い」との声があった。

そこで、玄関から部屋までを繋ぐ土間を設ける。動線の簡易化と空間の開放性、自由度を高めることを目指す。

I-02:縁側

ベランダ側に設けられた縁側。アンケートから「日当たりがよい」「眺めがよい」などの声があった。

そこで、現在の部屋の利点を活かすような縁側を設ける。縁側による部屋の温度調節などの利点もある。



プロジェクトで人を笑顔にする 20



2.提案「団地を動かす」 2-4. コトを起こす提案



N-01:移動販売

アンケートでは、不満の声として「コンビニが近くにない」などがあった。
坂が多い立地からか高齢者の買い物問題が考えられる。
そこで、団地内に移動販売車を呼ぶ。
団地内での買い物は出会いの機会を与え、コミュニケーション形成を促進させる。

イメージ画像
参考:UR 移動スーパー



N-02:モビリティバス

アンケートでは、不満の声として「コンビニが近くにない」などがあった。
坂が多い立地からか高齢者の買い物問題が考えられる。
そこで、団地内に移動販売車を呼ぶ。
団地内での買い物は出会いの機会を与え、コミュニケーション形成を促進させる。

イメージ画像
参考: esponse 住民の移動支援

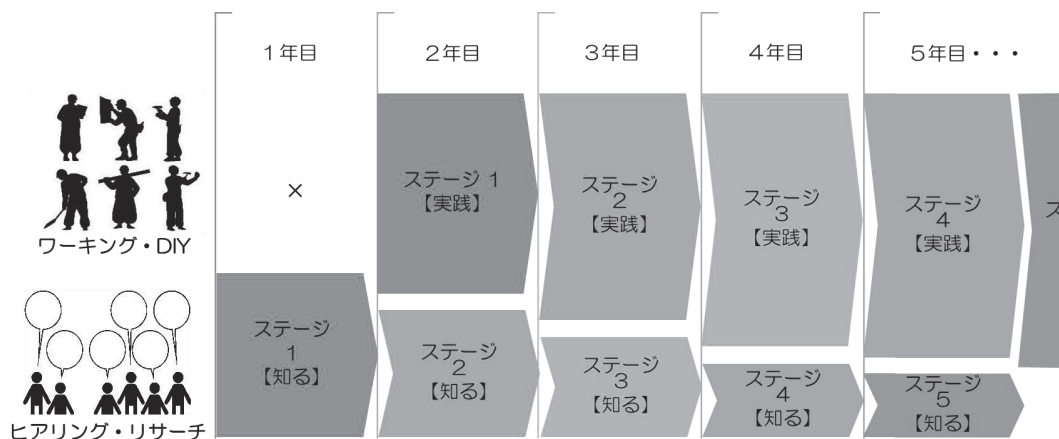


プロジェクトで人を笑顔にする

21

3.展望「団地の未来」

3-1. スケジュール概要 — マスタープランのない計画手法 —



プロジェクトで人を笑顔にする

22

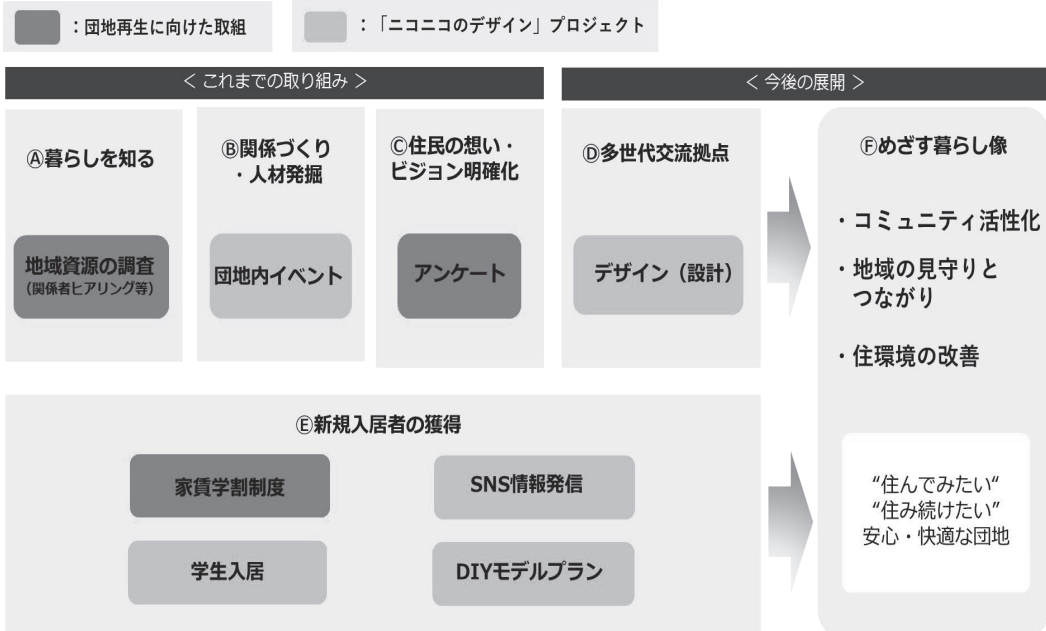
3. 展望「団地の未来」 3-2. 今後の展望

Year	2022年度																																				2023年度																																																																																																																				
	11月									12月									1月									2月									3月									4月									5月									6月									7月									8月									9月									10月									11月									12月									1月									2月									3月								
	Week	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4																																																																												
主要日程	[Gantt chart showing project milestones and activities across the two years]																																																																																																																																																								
支援体制	[Gantt chart showing support system activities]																																																																																																																																																								
情報発信	[Gantt chart showing information dissemination activities]																																																																																																																																																								



プロジェクトで人を笑顔にする

香里三井エリアの団地再生と学生プロジェクトとの関わり



プロジェクトで人を笑顔にする

各団体の発表

■大阪経済大学 経営学部 古賀敬作ゼミ

活動テーマ	「大学・学生発：SDGs イベントの実践と効果 - SDGs ×地域魅力発見で、関係人口の創出による都市部の地域活性化」
活動場所	大阪市東淀川区
連携先	大阪経済大学地域連携課・安積濾紙株式会社（大阪市東淀川区）
活動主体	大阪経済大学 経営学部 古賀敬作ゼミ

1. 活動概要

わたしたちは、昨年から地元東淀川区の魅力発見・発信による関係人口・活動人口の創出というテーマで活動をおこなっています。今年度は、このテーマについて、SDGsの推進という観点を加えて活動をおこないました。これまでの調査研究活動においては、東淀川区のような都市部地域では、ご近所付き合い・地域におけるつながりの希薄化が見受けられました。そうした地域の現状のもと、わたしたちは、例えば、参加メンバー固定化や情報発信受信者の同定（関心事しかみない）、といった理由で、関係人口の創出に関わる持続可能なコミュニティ組織の形成・醸成の難しさを感じました。そうした中、わたしたちは、わたしたちは、日常生活の中から、地域への関心・意識・行動を醸成することが、地域活性化への道筋だとかんがえました。そこにおいては、地域の魅力を活かしたSDGsの推進が有用と考えます。なぜなら、SDGsが目的で、その手段が地域の魅力を活かす事になり、目的と手段がはっきりし、地元地域の魅力に対する住民の認識・共有を涵養しやすいとおもわれるからです。また、関係人口の創出という点から、仕掛けを考えると、地域産業の担い手である中小企業の存在は意義深いと考えました。中小企業の企業戦略はSDGsと親和的であり、ですのでSDGsを通じ連携しやすい。また、その背後にいるステークホルダー（利害関係者）への波及効果も考えられます。

以上を踏まえて、わたしたちは、SDGsに取り組む地元東淀川区所在の魅力的な企業様への実地調査や大阪市内の中小企業へのアンケート調査（「地域企業のSDGs ×地域の魅力による持続可能な地域づくり」：75社／290社）をおこない、大学近隣の商業施設（本学と産学連携協定締結）にて地元企業との共催で「SDGs イベント」を開催しました。こうした活動を踏まえて、「大学・学生発のSDGs イベントの実践と効果」を参加者の皆様と検討したいと思います。

2. 年間計画

2023年度	活動内容・計画
2月	■「東淀川魅力発見プロジェクト」(事務局：東淀川区役所)に参加。
6月	■企業アンケート調査票作成・発送。 ■東淀川区のSDGsに取り組む企業様の調査・アポイントメント。 ■オリジナルエコバックの作成(塗り絵式エコバック)
7月	■企業アンケート調査票の回収。 ■東淀川区のSDGsに取り組む企業へのインタビュー ■地元企業様との共催SDGsイベント実施(7/29(土))
8月	■回収アンケート票集計分析。 ■学会発表・意見交換。
9月	■第2回目のSDGsイベントの構想。
10月～11月	■第2回SDGsイベント開催予定。
12月	■回答企業様への成果研究発表会。

3. 活動成果

- 東淀川区所在のSDGsに取り組む企業へのインタビューでは、以下の3社より協力を得ることができ、SDGsイベントにもご協力いただきました。
 - ①安積濾紙株式会社 様(インタビュー、SDGsイベント共催)
 - ②株式会社アプライズ 様(インタビュー)
 - ③飯田織工株式会社 様(インタビュー)
- 企業アンケート調査では、企業の属性ほか、①SDGs取組みの有無や領域、②取り組んでいるSDGsと地域との関連性、③持続可能な都市部地域活性化への効率的な方法について、大阪市内の中小企業様計290社にアンケート調査票を送付し、75社の企業様から回答を頂きました。
- 本学近隣の商業施設でのSDGsイベント開催(来場者数60名～70名程度：本学の職員のご家族や共催企業様の従業員の方々、そのご家族の方々にお越しいただきました。)

4. 地域からの評価

地域からの評価はわかりませんが、イベントが好評でしたので、今回、イベントに共催いただいた企業様から早くも次の企画が提案されました。

5. 参考WEBサイト

<https://www.azumi-filter.co.jp/>

6. 活動メンバー

経営部3年

砂走 圭人、山崎 拓弥、北垣 茜音、玉田 宏斗、廣瀬 麻衣、松原 十夢、東郷 涼音、長友 寛太、廣瀬 耕平、長野 里和、大塚裕一郎、古閑 湧、田中 清楓、富尾 祐太、福條 誉、森井 悠斗、上田 莉緒、永井 歩武、山口 麻菜、榮田惟一郎

7. 担当教員

経営学部 教授 古賀敬作

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	大阪経済大学
所属先・職名	経営学部・教授
氏 名	古賀 敬作
連絡先	電 話 06-6328-2431（代表） 2817（内線）
	メー ル k_koga@osaka-ue.ac.jp

9. 活動の様子



「SDGs イベント当日の様子」



「配布オリジナル塗り絵エコバック」

大学・学生発:SDGsイベントの実践と効果

SDGs×地域魅力発見で、関係人口の創出による都市部の地域活性化



大阪経済大学 経営学部
古賀ゼミナール

地域連携学生フォーラム in Osaka 2023

2023年9月15日

研究調査のバックグラウンド-都市部地域の地域活性化の問題点

地域コミュニティ活性化・関係人口（地域愛）形成の困難さ



ご近所付き合いの軽薄化
参加メンバーの固定化

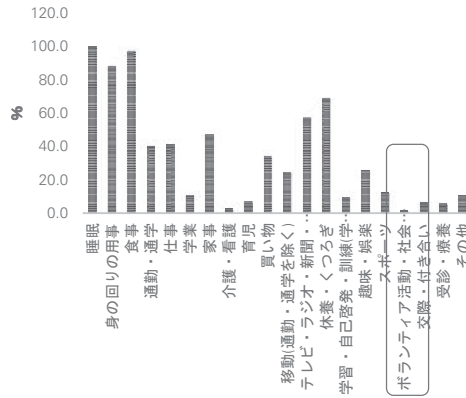


高齢化に伴う
地縁団体（町会）の存続危機

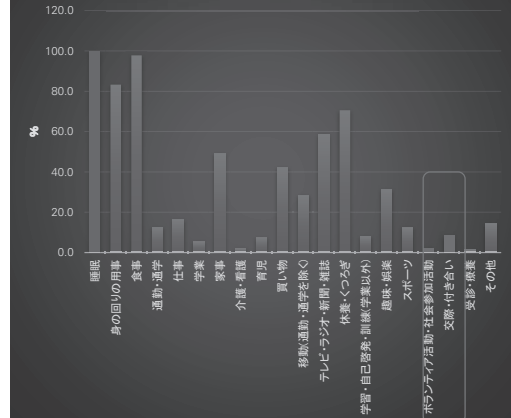
生活行動統計からみる一般的傾向

年齢層にかかわらずに

1週間の種類別行動者率
(大阪府10歳以上)



1週間の種類別行動者率
(近畿大都市圏10歳以上)



出所:「令和3年社会基本調査(生活時間に関する結果)」より作成

地域地理-東淀川区(位置)-

大阪都市圏ベッドタウン

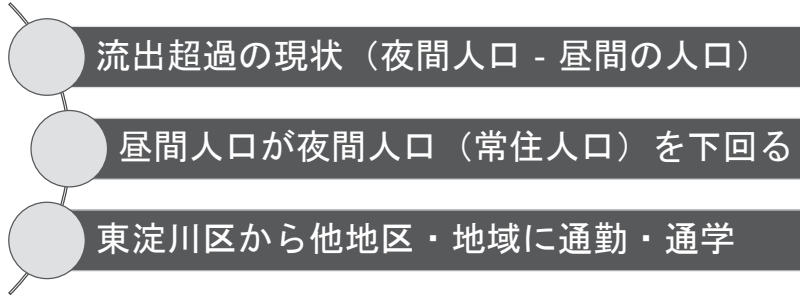


地域の人口上の特徴の把握-昼間人口と夜間人口

東淀川区構成人口の流れ(令和2年度)

(単位:人)

	夜間人口	流入人口	流出人口	流入超過人口	昼間人口	昼夜間人口比率
東淀川区	177,120	36,759	45,095	△ 8,336	168,784	95.3



出所:大阪市計画調整局「令和2年国勢調査<大阪市の昼間人口>令和4年10月」
 (<https://www.city.osaka.lg.jp/toshikeikaku/cmsfiles/contents/0000572/572638/givoR2.pdf>) より作成

持続可能なコミュニティ組織の形成・醸成の難しさ



地域地理
より

地域人口
より

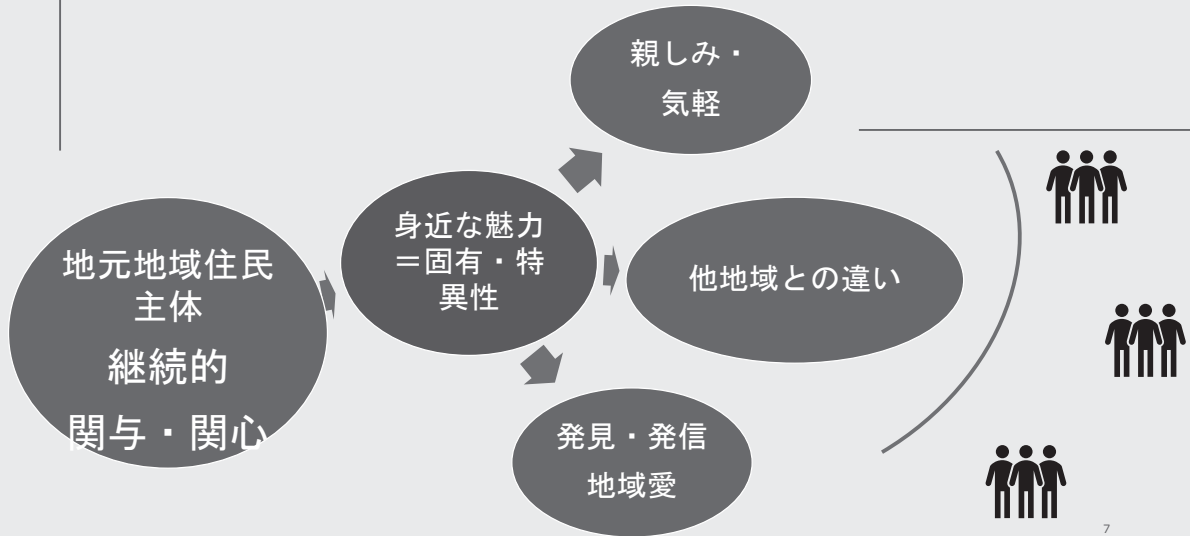
活動の経
験則より

波及効果を伴う持続・継続の難しさ

情報受信者同定の難しさ (関心事のみ)

住民の関心・意識へのイニシアティブの困難さ

地域固有の魅力発見・発信による関係人口・活動人口の創出 地域活性化



地域地理-東淀川区(地域要素)-

複雑な生活空間と隠れた・身近な地域固有の魅力

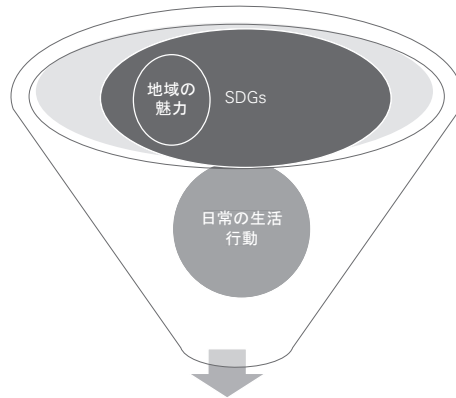


身近に隠れた魅力発見(実地調査)-東淀川区-

<p>歴史魅力発見-めでたい・摩訶不思議</p> <p>紅白の鳥居</p> <p>2対の表情がユニークな狛犬たち</p>  <p>現地レポート</p> <p>実は・・・ 人為と自然的</p>	<p>歴史魅力発見-癒しの空間と物語の世界</p> <p>現地レポート</p> <p>住居地の中にひっそりと 行んでいる日本の世界</p> <p>現地レポート</p> <p>境内の樹齢100年以上の大 クスノキ。いにしえに思 いを馳せましょう。</p>
<p>地域産業魅力発見</p> <p>巨大な塩産量</p> <p>ジブリの世界 異次元の世界を体験</p> <p>工場レポート</p> <p>工場の世界 手作業で職人達を間近 で見ることが出来る 貴重な体験ができる。</p>	<p>地域産業魅力発見</p> <p>ものづくり・夢</p> <p>現地レポート</p> <p>地域とともに歩み全国・世界に輝ばたく 24時間TVのTシャツの染色や花袋・ロンドンオリ ンピックの日本代表のユニフォームの染色 空き地を再利用した緑花の自販機 社会見学・協働体験会</p> <p>現地レポート</p> <p>子ども達の希望・夢をかなえる 地域の小学生たちと、小学生の欲しいものの作成 小さなことから地域と連携し絆を作ったりして、 地域活動を盛り上げる</p>

地域活性化の道筋

日常生活(暮らし)の中から、関心・意識・行動を醸成
内発的展開・発展



活力ある持続可能な地域活性

SDGs × 地域の隠れた・身近な地域の魅力(東淀川区) - 目的と手段 -



取り組み事例: 地域の魅力と関係人口の創出

屋外マーケット 市民参加型ワークショップ「マーケットの学校」

埼玉県北本市

マーケットは、単なる売り買いの場だけでなく、まちの魅力を知れたり、創業支援の場となったり、地域で活動している人たちが繋がれる場としての機能も有しており、まちを知る・好きになる・参加したくなるきっかけになる。



出所:埼玉県北本市「マーケットの学校と &green market」
https://www.city.nikaho.akita.jp/soshikikarasagasu/sogoseisakuka/gyomuannual/12_1/tiikinomirvokuhassin/index.htmlより抜粋

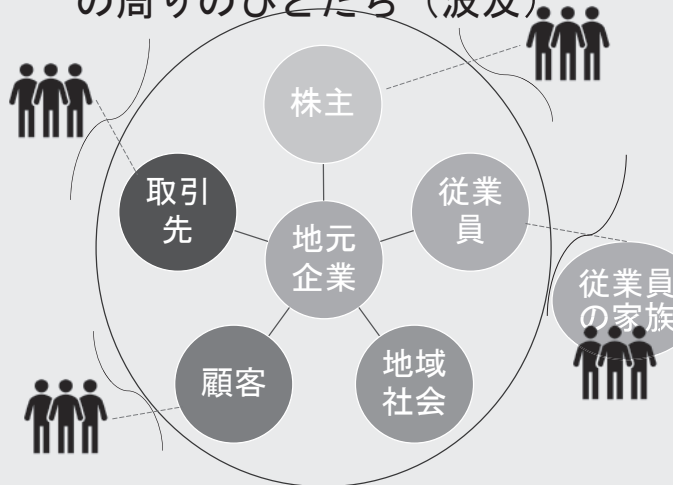
日々の暮らしの中・日常生活の中で関心・意識を醸成 -商業施設の有用性(関係人口の創出の場)-

「大阪経済大学×かみしんプラザ（商業施設）」で産学連携協定締結



地元地域中小企業の有意義性

- ステークホルダーの存在とその周りのひとたち（波及）



- 経営戦略と親和的

- 競争力強化・企業価値向上の点からSDGsに取り組む必要性が説かれている（関東経済産業局「中小企業のSDGs認知度・実態等調査」）
- 「すでに対応・アクションを行っている」「対応・アクションを検討している」とした企業の構成比が、前回2018年度調査の2.0%から8.2%に増加（令和2年度関東経済産業局「中小企業のSDGs認知度・実態等調査」）

大阪市内・中小企業アンケート調査実施(2023年度)

「地域企業のSDGs×地域の魅力による持続可能な地域づくり」

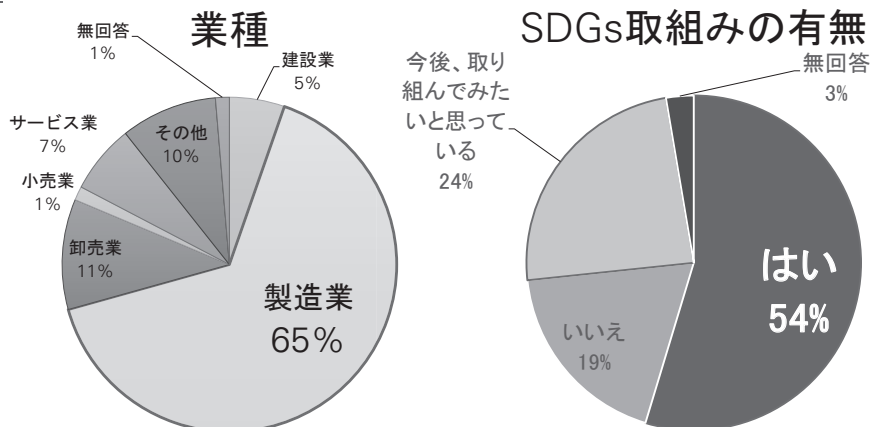


75社回答／290社送付
回答率=26%

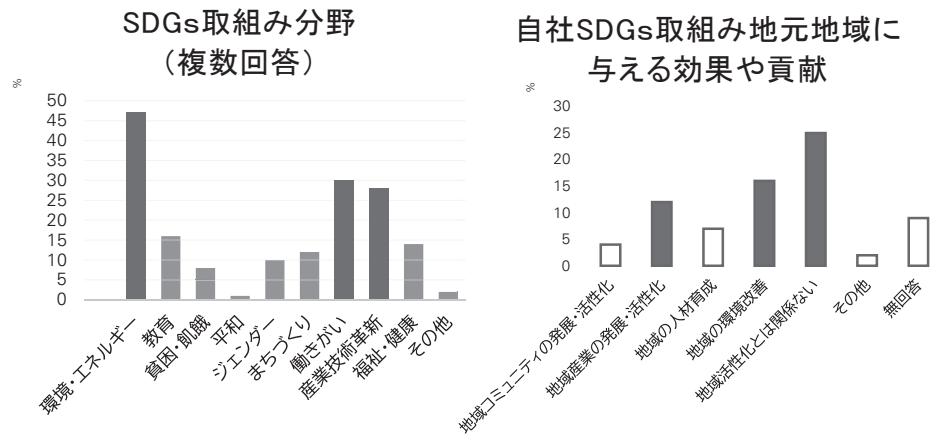
東淀川区内企業
回答率=37%(19社/51社)

15

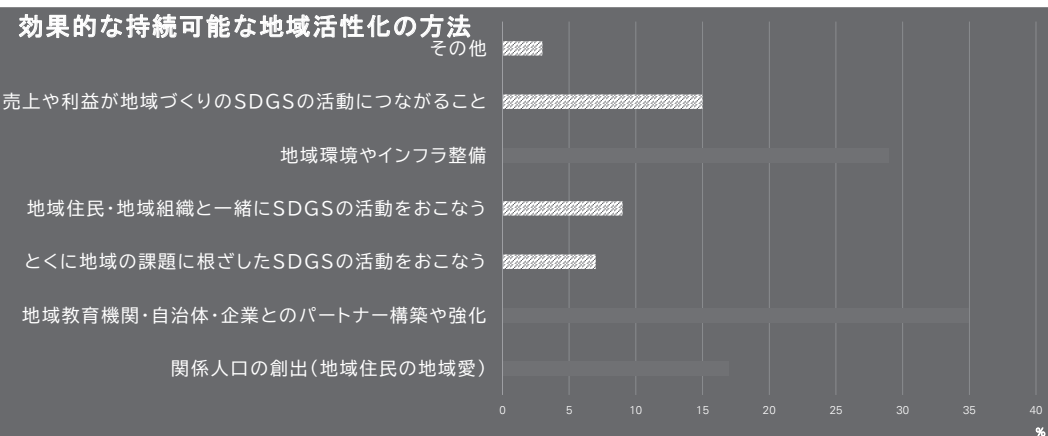
回答企業の属性とSDGs取組みの有無



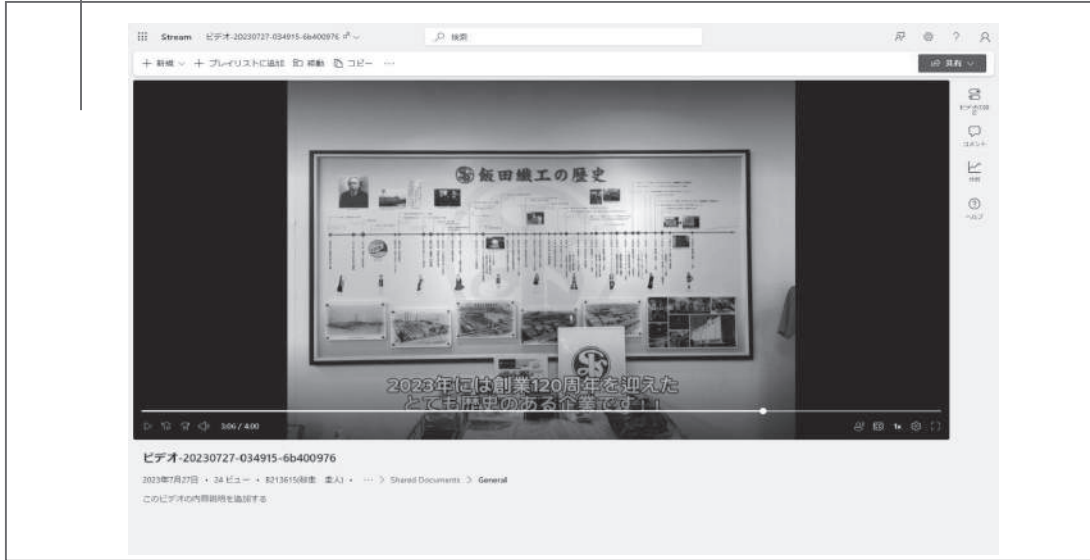
SDGs取組みの分野や地域との関係 -環境や経済の持続性が中心-



中小企業視点の効果的な地域の持続可能性の取り組み



実地調査1-SDGsに取り組む東淀川区の魅力的な企業-



19

実地調査2-SDGsに取り組む東淀川区の魅力的な企業-

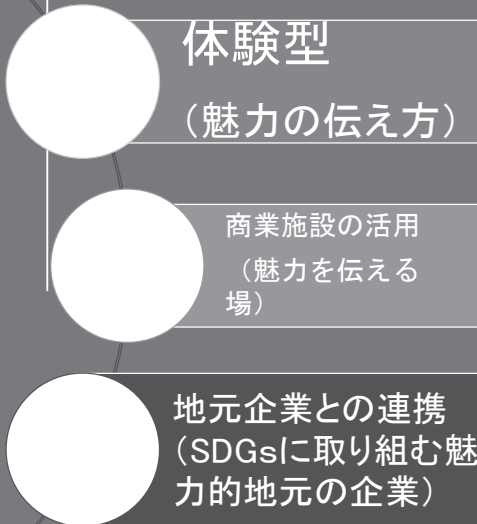


20

実地調査3-SDGsに取り組む東淀川区の魅力的な企業-

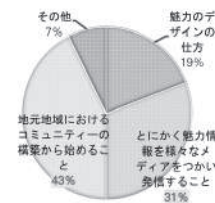


大学・学生発 SDGsイベント の実施

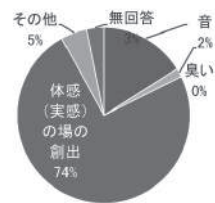


魅力発信の要素(2022年度アンケート調査)

人を惹き付ける重要な要素



人の関心を捉え、行動にうつす仕掛け



SDGs イベント開催!
 こともから大人まで、
 SDGsを体験し、東淀川区の魅力を知らう!

7月29日(土) 15:00-17:00
 会場：かみしんプラザ地下1階

エコバック無料・配布
 塗り絵体験

水で光る電池
 製作体験

水で光るライトの作り方

主催 大阪経済大学学生地域魅力発見チーム×大阪経済大学地域連携課
 共催 安積産紙株式会社 (大阪市東淀川区)
 株式会社アプライズ (大阪市東淀川区)
 協力 飯田織工株式会社 (大阪市東淀川区)

事前広報



大阪市
 環境保全
 関連募金
 活動

～イベント内容～

- 自作塗り絵体験エコバックの展示・配布
- 自作東淀川区の魅力スポット写真キーホルダー配布
- 水で光電池制作体験
- 協力企業のSDGsに取り組む動画配信

SDGsイベント結果と今後

結果

- 来場者数：60~70名程度
 (家族連れ・共催企業の方やそのご家族)



今後

- (継続的イベント開催)
- 地元企業と協働・共催
 - 体験コーナーほか、展示コーナーの設置
 - 開催“場”の検討
 - 効果測定

各団体の発表

■追手門学院大学 追大学生援農プロジェクト

活動テーマ	農家人手不足問題をビジネス的手法により問題解決を試みる
活動場所	岐阜県 飛騨
連携先	JA ひだ、連携先農家、大阪府中央卸売市場
活動主体	追大学生援農プロジェクト

1. 活動概要

「追大学生援農プロジェクト」は、現代の農業問題として挙げられている少子高齢化や承継者不在による「人手不足」に着目し、大学生が農家の人手不足解決へ貢献することを目的とする。具体的には、ビジネス的手法を用いて、農家にも学生にも恩恵のある事業モデルを構築することを試みる。2023年度は、プロジェクトメンバーによる現地調査から始める。協力農家のある岐阜県飛騨にて、現地の気候、生産している作物や農作業の方法について調査をおこなう。事業モデル化の実現のために、実際に農家に入り込むことでしか分からない課題に触れたい。学生の農家への貢献方法、学生の派遣の対象や方法などを立案し、社会に発信することを計画している。本年度は、実際にプロジェクトメンバーが農作業に従事することで、学生による作業の問題点などを発見し、修正することで学生でも援農活動ができる事業モデルを開発したい。2024年度は、プロジェクトメンバーが考案した事業モデルの実現化に向けて活動する。

2. 年間計画

2023年度年間計画

- 6月：大学から活動資金を得て、「追大学生援農プロジェクト」始動
- 7月：飛騨調査・テスト援農の企画作成、事業モデルのプロトタイプ作成
- 8月：25日 フォーラムエントリー
29日～30日 プロジェクトメンバーによる飛騨現地調査
- 9月：考案した事業モデル修正と改善
15日 フォーラム発表資料提出
17日～20日 プロジェクトメンバーによるパイロット援農
- 10月：22日フォーラムにて研究発表
- 11月：プロジェクト報告書作成と来年度への引継ぎ
- 12月：2023年度プロジェクト終了

3. 活動成果

現時点の成果として、プロジェクトメンバーで農業の業界情報、2023年度に調査と援農をさせていただく飛騨高山の農家、飛騨高山の環境についての資料収集などを行い、問題点についてまとめた現状の「調査資料作成」を行った。また、それに並行し、「発表資料」も作成している。

定期的にミーティングを開催し、学生が援農する事業モデルのプロトタイプについて検討した。今後は、現状調査と並行しつつ、現在作成中の事業化モデルの修正と改善を行い、8月末の現地調査にて、JAや農家の当事者の方々にインタビューを実施する。事業モデルが運営可能であるのか、修正すべき問題点や考えが不足している部分などについて情報集を行う。また、飛騨の環境に実際に触れることにより、事業モデル化完成へのヒントを得たい。9月には実際に調査などを通して改善した事業モデルが、来年度から運営可能であるかのパイロット運用をおこなう予定である。

4. 地域からの評価

2023年8月29日（火）、30日（水）、「追大学生援農プロジェクト」の活動として、飛騨野菜（そさい）出荷組合、JAひだ、JA全農岐阜、大阪府中央卸売市場管理センターの協力のもと、岐阜県飛騨高山にてJAの施設視察とトマトの選果体験を行った。その際に行った意見交換会時に今回のプロジェクトに関して発表し、評価を頂いた。現地の農業に実際に目で見て触れ体験し、直接関係者のお話を聞くことで、飛騨農業の現状や課題、自分達が進めるプロジェクトの問題点について、新たに多くの事柄に気づくことができ、濃い学びの二日間にする事ができた。

5. 参考WEBサイト

『JAひだ トマト研修所研修生募集』

(<https://www.dropbox.com/s/h96x99v493p0lq3/JA%E3%81%B2%E3%81%A0%20%E3%83%88%E3%83%9E%E3%83%88%E7%A0%94%E4%BF%AE%E6%89%80%E7%A0%94%E4%BF%AE%E7%94%9F%E5%8B%9F%E9%9B%86%E4%B8%AD.pdf?dl=0>)

『岐阜県の農村、農業を取り巻く現状・課題と 今後の方策について』

【地域振興としての農業 (gifu.lg.jp)】

『飛騨市の農業の概要』 (<https://city.hida.gifu.jp/uploaded/attachment/19164.pdf>)

6. 活動メンバー

経営学部	3年	清水壮太郎、野田 劍悠、勝山、光、小林 聖渚、原、柊翔、圓句 夏歩、山田 琴音 岸田 悠人
	2年	田中 遥菜、播磨 諒太、高本 寛太、藤本 飛成
国際学部	3年	丸本 和來
心理学部	3年	國重 友唯

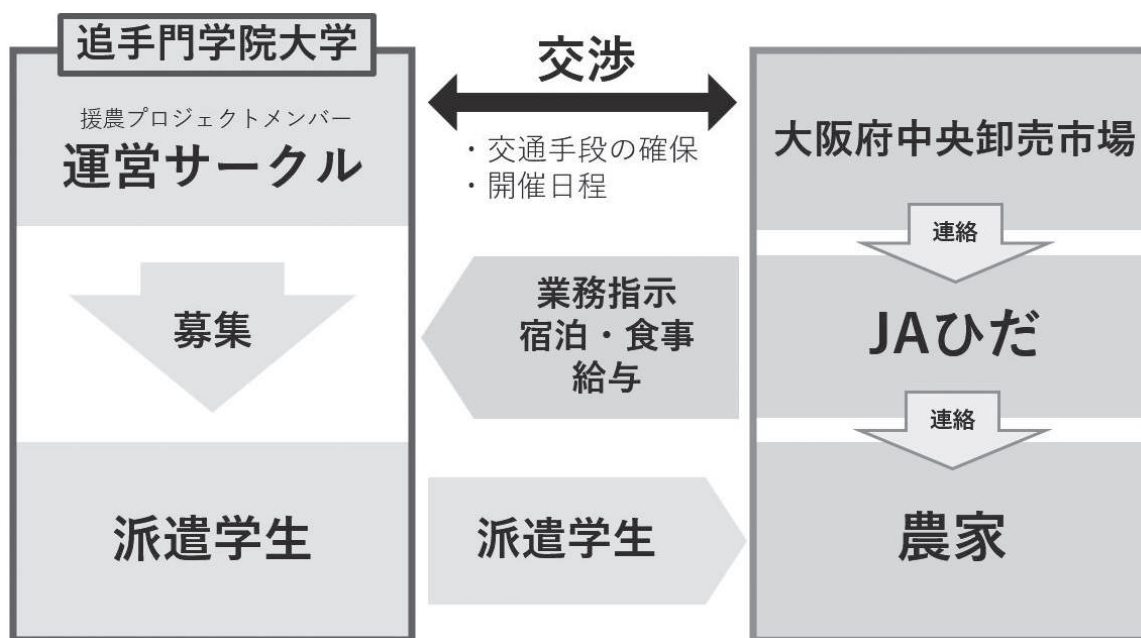
7. 担当教員

経営学部 教授 村上 喜郁

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	追手門学院大学	
所属先・職名	経営学部・経営学科・3年	
氏 名	清水壮太郎	
連絡先	電 話	090-9623-4550
	メー ル	21mm311@haruka.otemon.ac.jp

9. 活動の様子



「追大学生援農プロジェクト」事業モデル図

「飛騨農家現状調査書」

(<https://www.dropbox.com/scl/fi/shhc1ssjnxw5lkeldt4qq/.pdf?rlkey=mclmkedpb57hdvnsra7ohlwoo&dl=0>)

追大学生 援農プロジェクト



追手門学院大学 村上喜郁ゼミ



連携先



中央卸売
大阪市場
市

目次

Step1

- ▶きっかけ
- ▶概要
- ▶事業モデル
- ▶メリット

Step2

スケジュール

- ▶6月開始
- ▶8月調査
- ▶9月援農

Step3

- ▶調査結果
- ▶今後の目標
- ▶参考文献



2

きっかけ

人手不足

後継者不足

高齢化

これだあああああああ！！

3

日本の農家の現状

農業就業人口推移

年	農業就業人口 (推定)
2000年	400
2001年	380
2002年	370
2003年	360
2004年	350
2005年	340
2006年	330
2007年	320
2008年	310
2009年	300
2010年	290
2011年	280
2012年	270
2013年	260
2014年	250
2015年	240
2016年	230
2017年	220
2018年	210
2019年	200

『minorasu』「農業における人手不足の解決策とは？ 深刻化する問題へ今こそ対策を！」
<https://minorasu.basf.co.jp/80097>

4

プロジェクト概要

- ・ 人手不足に着目し繁忙期に援農を行う。
- ・ 学生を派遣すること
若者に農業の現状を知ってもらう。

事業モデル
作成

事前調査

飛騨調査

パイロット
援農

5

プロジェクト概要

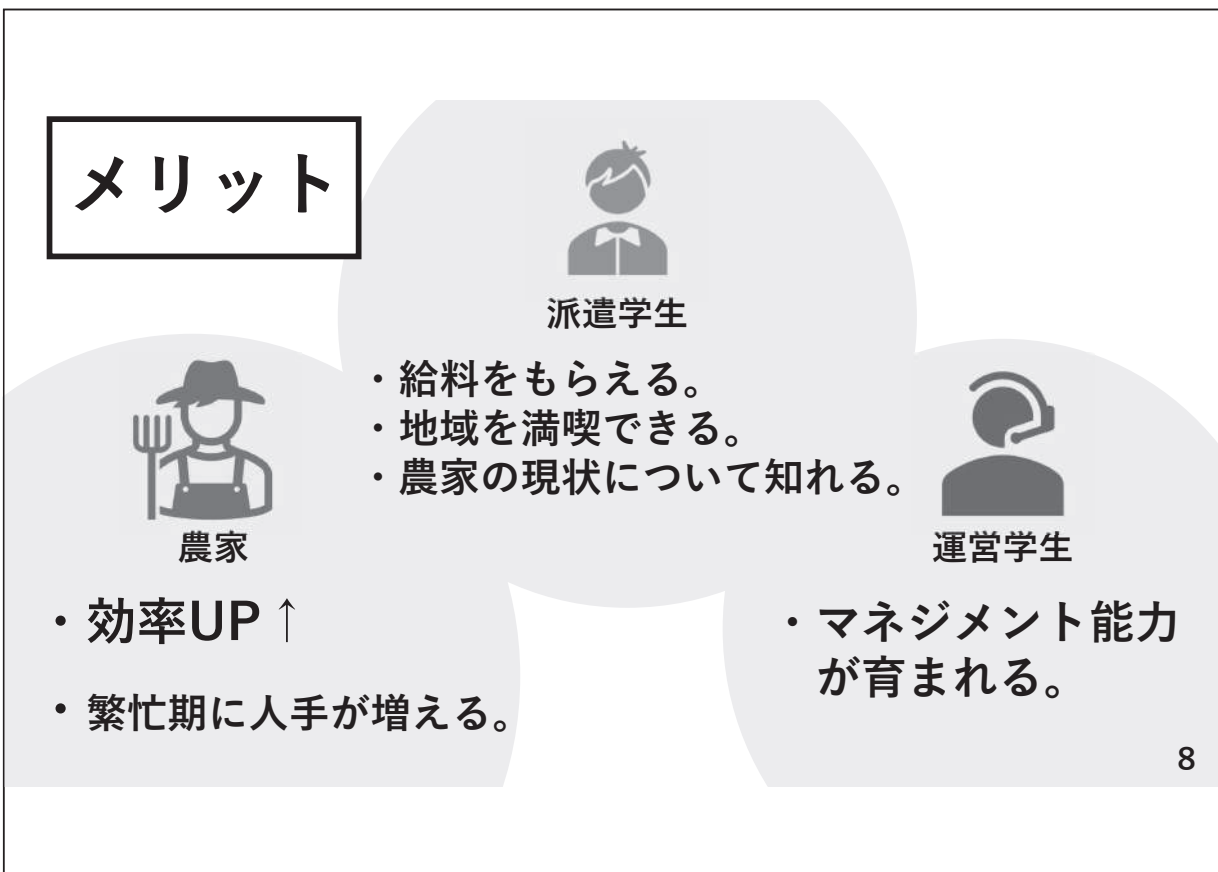
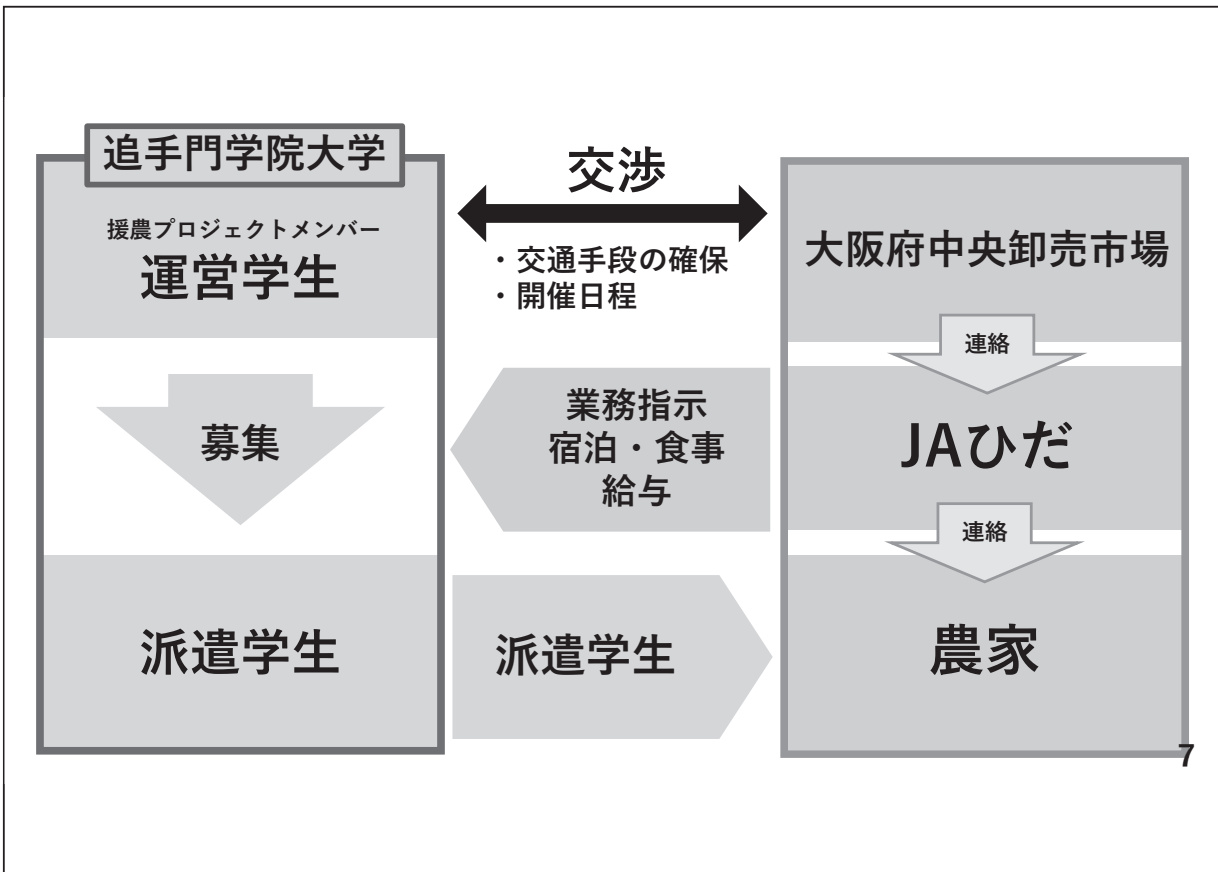
事業モデルを発信

パイロット
援農

引継ぎ

事業モデル始業

6



2023年度 活動スケジュール

- 6月：追大学生援農プロジェクト始動
- 7月：事業モデル作成
- 8月：飛騨調査、テスト援農の企画作成



9

- 9月：考案した事業モデルの修正と改善
17～20日パイロット援農
- 10月：フォーラム発表
- 11月：プロジェクト報告書作成と引継ぎ
- 12月：終了



10

6月 7月

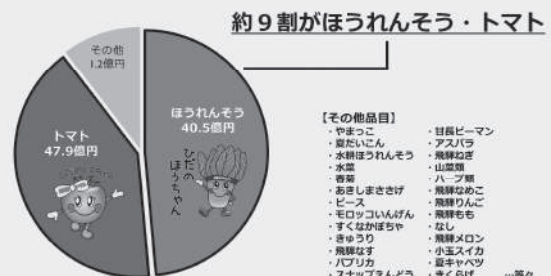
- ・ JAひだに交渉してプロジェクトに協力可能な農家を探す。
- ・ 現状調査書を作成、協力農家のある飛騨地方にて現地の気候、生産している作物や農作業の方法について調査。
- ・ 飛騨地方にてJAひだと飛騨農家の現状調査の交渉。

11

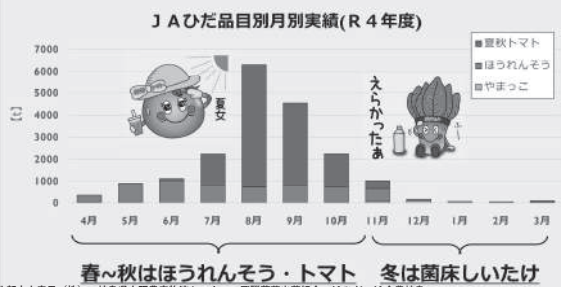
事前調査

- ・ 飛騨地方の青果物の生産量の9割が**ほうれん草・トマト**
- ・ 7月～11月が収穫シーズン
学生の夏休み時期に行きやすい！

2. 飛騨の青果物を知ろう！



2. 飛騨の青果物を知ろう！



「追手門学院大学×飛騨野菜出荷組合 食育プロジェクト 資料」関係組織：追手門学院大学・大阪府中央卸売市場管理（株）・大阪北部中央青果（株）・岐阜県大阪農産物流センター・飛騨野菜出荷組合・JAひだ・JA全農岐阜
<https://www.dropbox.com/scl/ii/oh27i6cltb25ax50tten4/1.pdf?rlkey=84ucd5dggxg256o4t558we3t5&dl=0> JA全農岐阜大阪市場駐在所

12

事前調査

《農家課題点》

- ・ 飛騨市の農家構成：87.3%（経営規模の小さい自給的農家や第2種兼業農家）
- ・ 高齢化の進展に伴う離農者の増加が懸念される。
- ・ 地域営農組織の育成や、専業農家の基盤強化を図り、効率的な農業を進める必要がある。
- ・ 農家数の減少、農家の高齢化がより進行している。農村の人口減少。
- ・ 近年中に農業の担い手は急激に減少すると見込み。

「岐阜県の農村、農業を取り巻く現状・課題と今後の方策について」_【地域振興としての農業 (sifu.lg.jp)】

「飛騨市の農業の概要」 (https://city.hida.gifu.jp/uploaded/attachment/19164.pdf)

13

8月 飛騨調査

29日 30日

そさい
・ 飛騨蔬菜出荷組合

・ JAひだ

・ JA全農岐阜

・ 大阪府中央卸売市場管理センター

① JA施設視察

せんか
② トマト選果体験

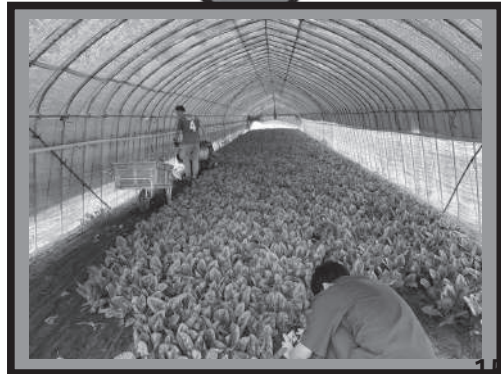


14

①JA施設視察

【ほうれん草の畑】

【選果場視察風景】



②トマト選果体験

【業務内容】

- ・ トマトの箱詰め
- ・ トマトのカゴ運び



事業モデル改善点

8月の調査を経て

- ・ 時給と費用の関係
- ・ 業務別募集
- ・ 業務内容の講習が必要
- ・ プロジェクトの目的のシフトチェンジ



19

生産現場は人手不足であったが、
飛騨ではより逼迫した状態に
あったのは J A の選果場であった。

プロジェクトの目的のシフトチェンジ



JA

最盛期では5~6万ケース出荷される。
(1ケース:4キロ)
選果場でも人手が欲しい。

トマトの最盛期である7~8月は、
大学生の夏休み期間で行きやすい。



学生

18

パイロット援農

- ・支給：宿、1日3食、水、
- ・業務内容：トマト箱詰め
- ・日程：3泊4日

- 1日目：飛騨移動、2時間業務
- 2日目：7時間業務
- 3日目：7時間業務、BBQ
- 4日目：飛騨観光

派遣学生は、飛騨牛BBQと
最終日の飛騨観光を楽しんだ。



事業モデル改善点

9月の援農を経て

- ・ 時給と費用の関係
- ・ 運営学生と連携先との円滑な運営、打ち合わせ等
- ・ 派遣学生のメリットの見直し



来年度の目標

- ・ 考案した事業モデルを始業する。
- ・ PDCAを回す。
- ・ マニュアルを作成。



20

次年度以降目標

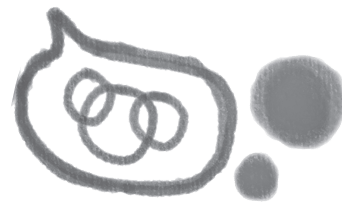
- ・学校のSJ制度（スチューデント・ジョブ）の取り組みとしてのプロジェクトにする。
- ・大学の学生キャリア活動として、継続して続くプロジェクトになる。
- ・他大学生も巻き込んだ学生プロジェクトとして展開する。

21

参考文献

- ・『追手門学院大学×飛騨野菜出荷組合 食育プロジェクト 資料』関係組織：追手門学院大学・大阪府中央卸売市場管理（株）・大阪北部中央青果（株）・岐阜県大阪農産物流センター・飛騨野菜出荷組合・JAひだ・JA全農岐阜
(<https://www.dropbox.com/scl/fi/oh27i6cltb25az50tten4/1.pdf?rlkey=84ucd5dggxg256o4t558we3t5&dl=0>)
JA全農岐阜大阪市場駐在所
- ・『岐阜県の農村、農業を取り巻く現状・課題と今後の方策について』【[地域振興としての農業 \(gifu.lg.jp\)](http://www.gifu.lg.jp)】
- ・『飛騨市の農業の概要』
(<https://city.hida.gifu.jp/uploaded/attachment/19164.pdf>)

22



特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪

大阪市北区梅田 1-2-2-400 大阪駅前第2ビル4階

TEL:06-6344-9560

MAIL:chiiki-renkei★conso-osaka.jp(事務局 地域連携担当)

★を@に変えてください。

URL:<https://www.consortium-osaka.gr.jp/>